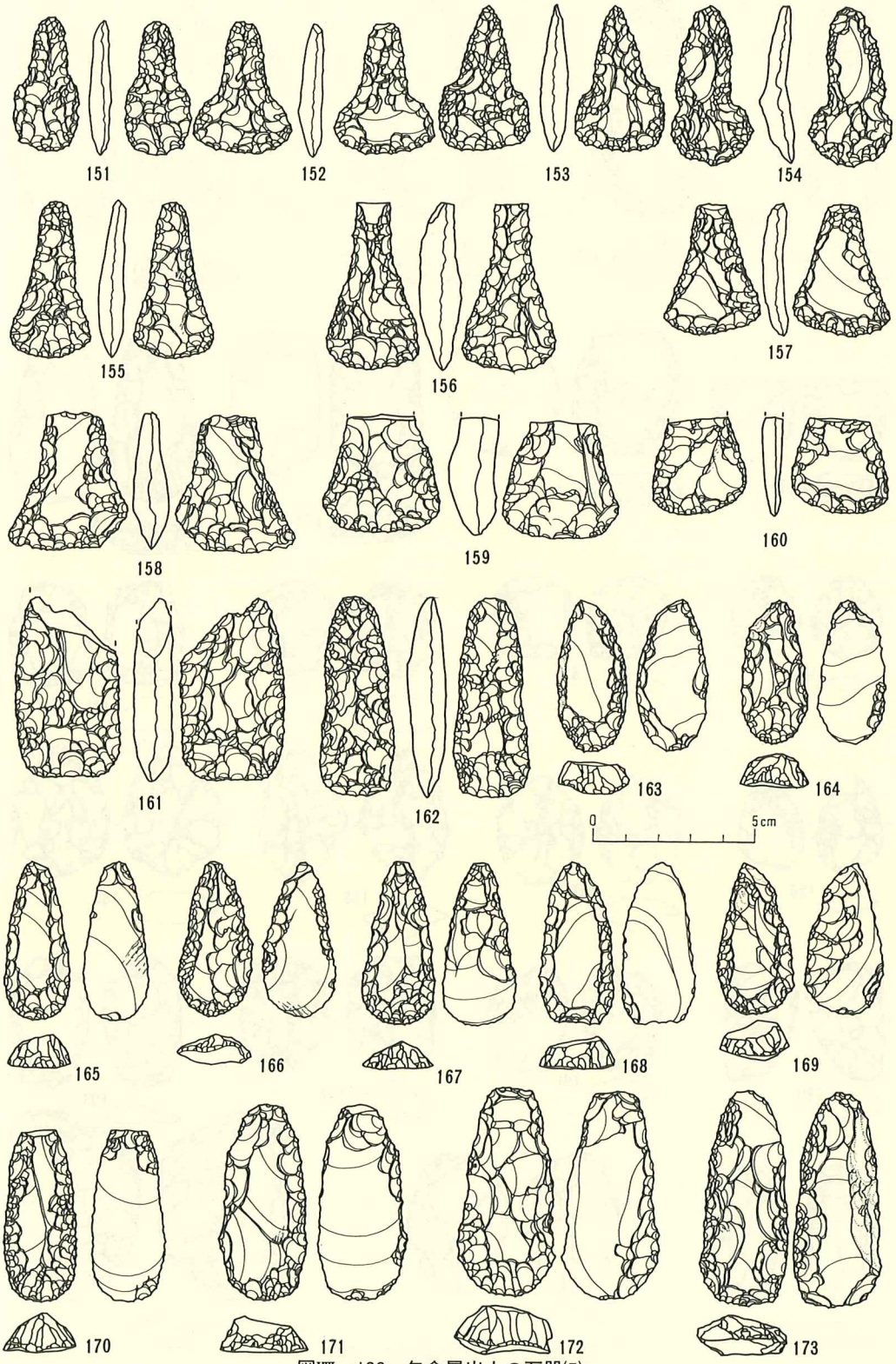
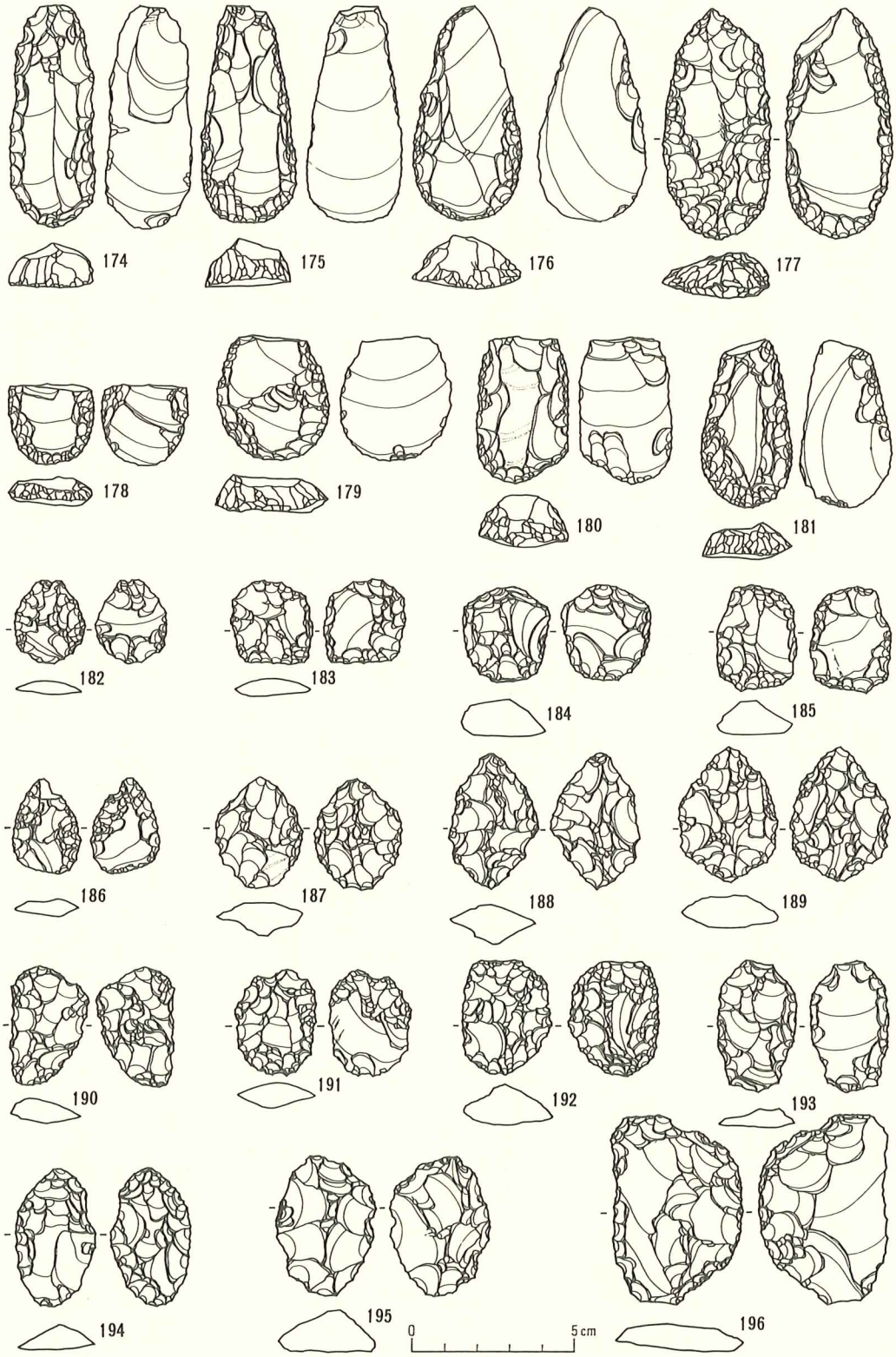
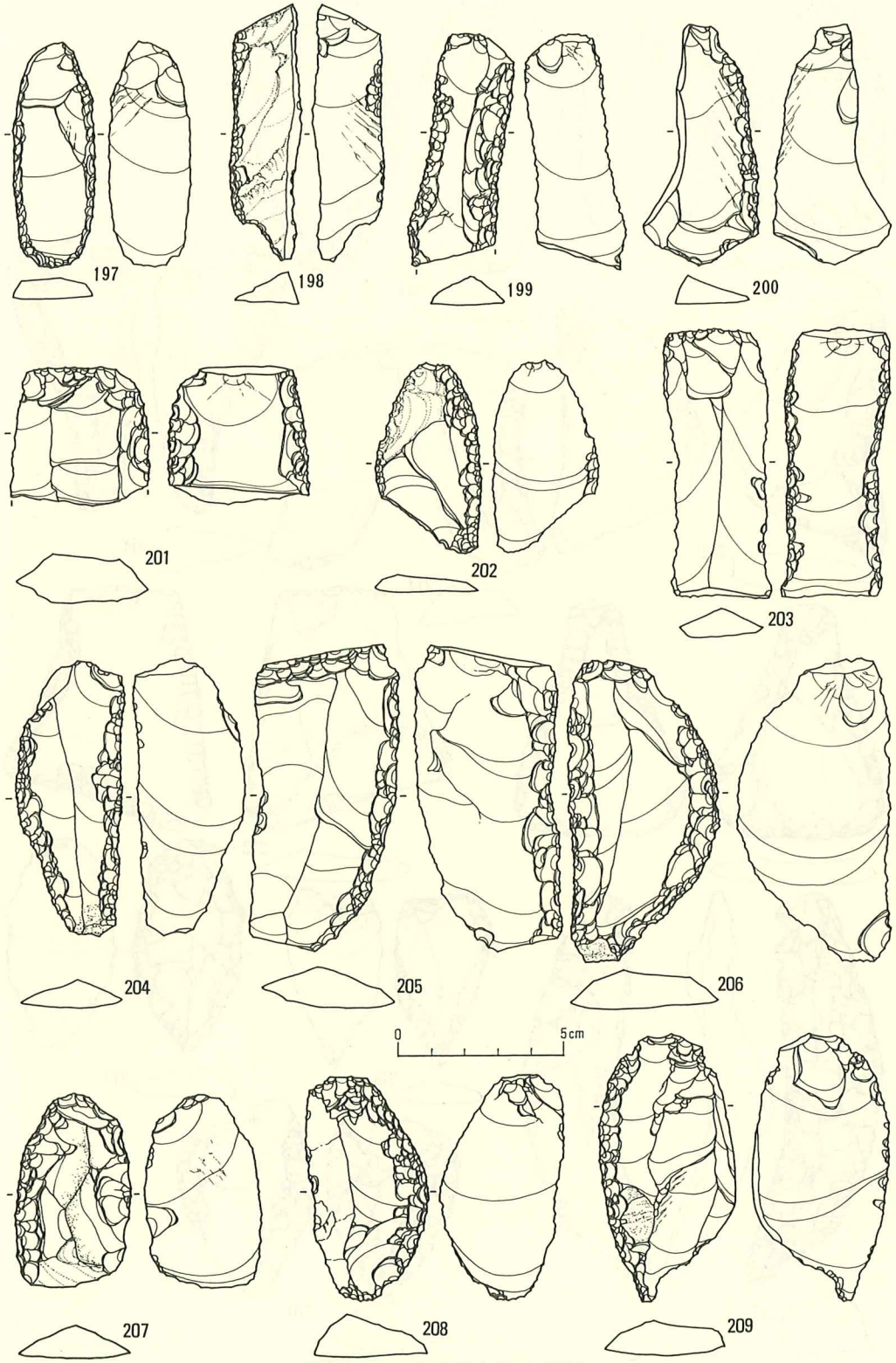


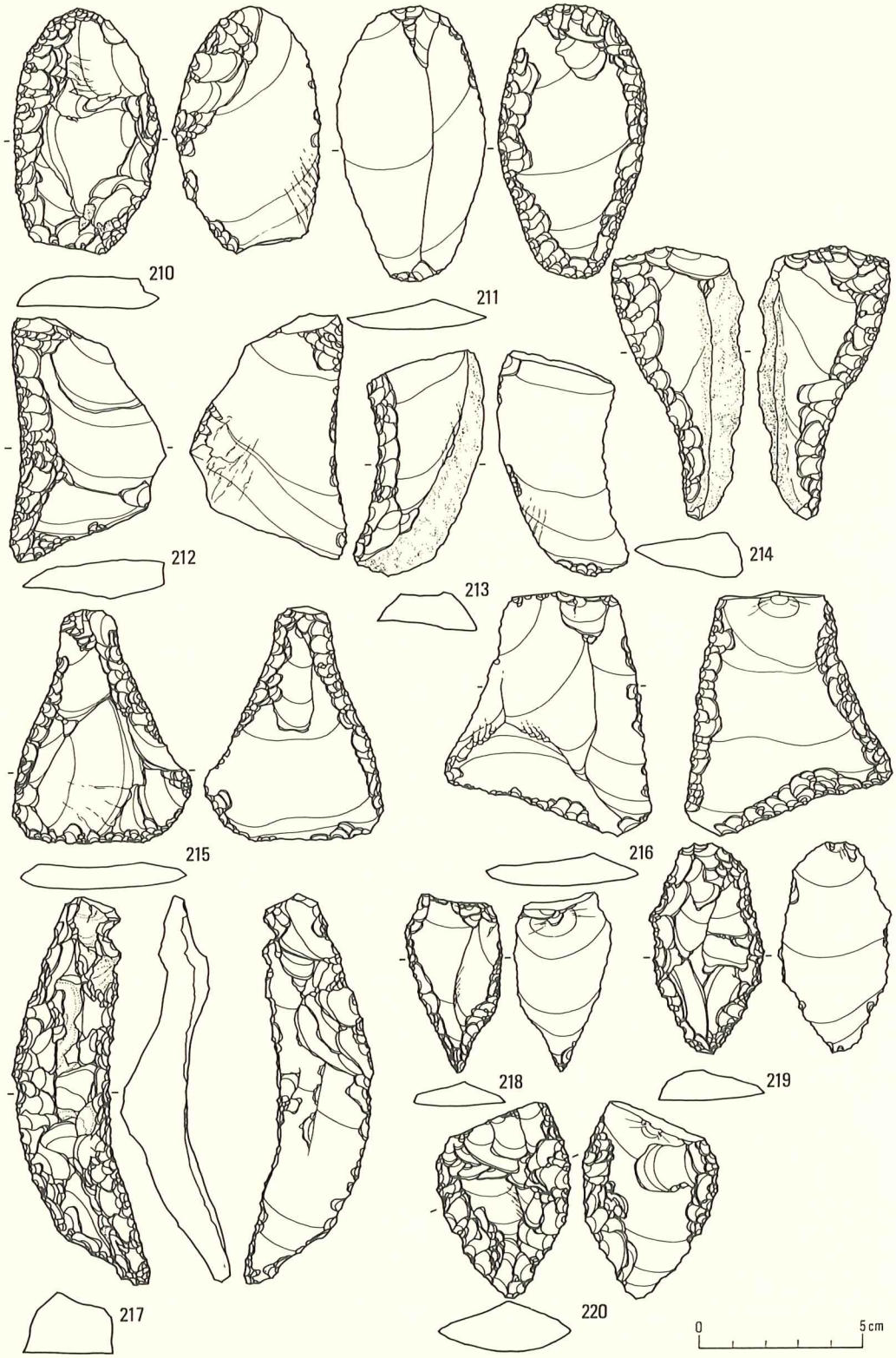
図Ⅷ－136　包含層出土の石器(7)



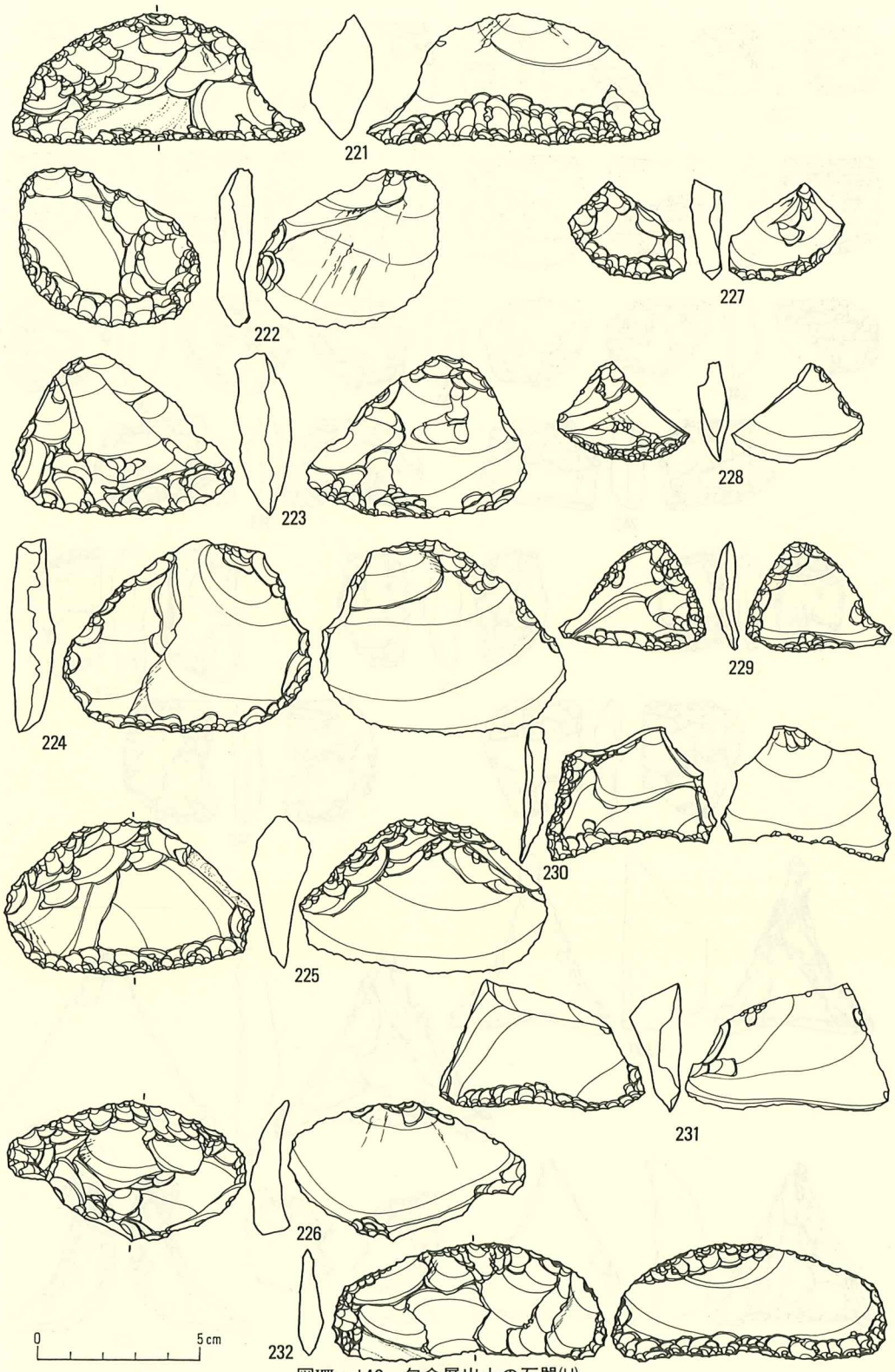
図Ⅷ－137　包含層出土の石器(8)



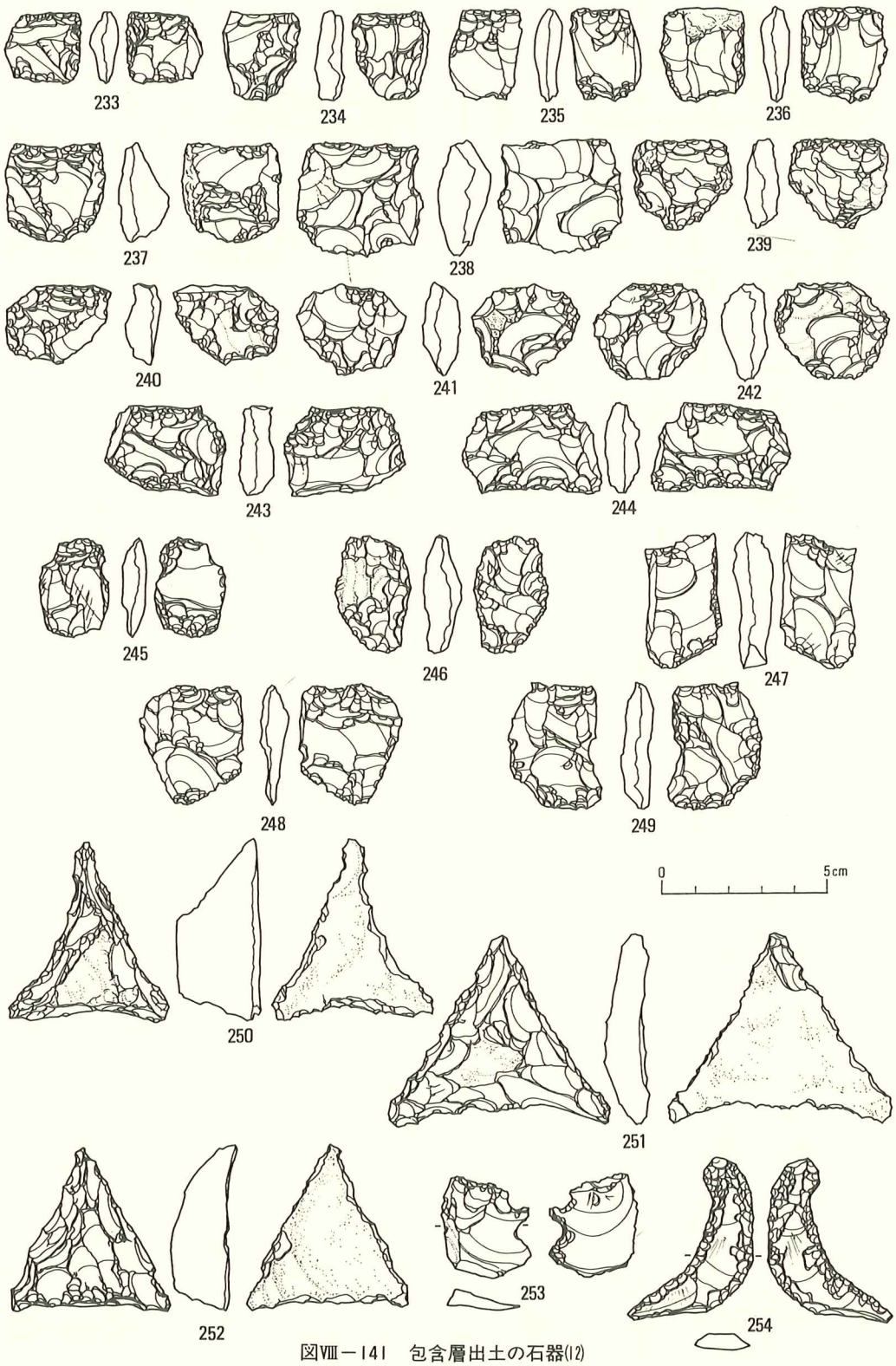
図Ⅷ－138　包含層出土の石器(9)



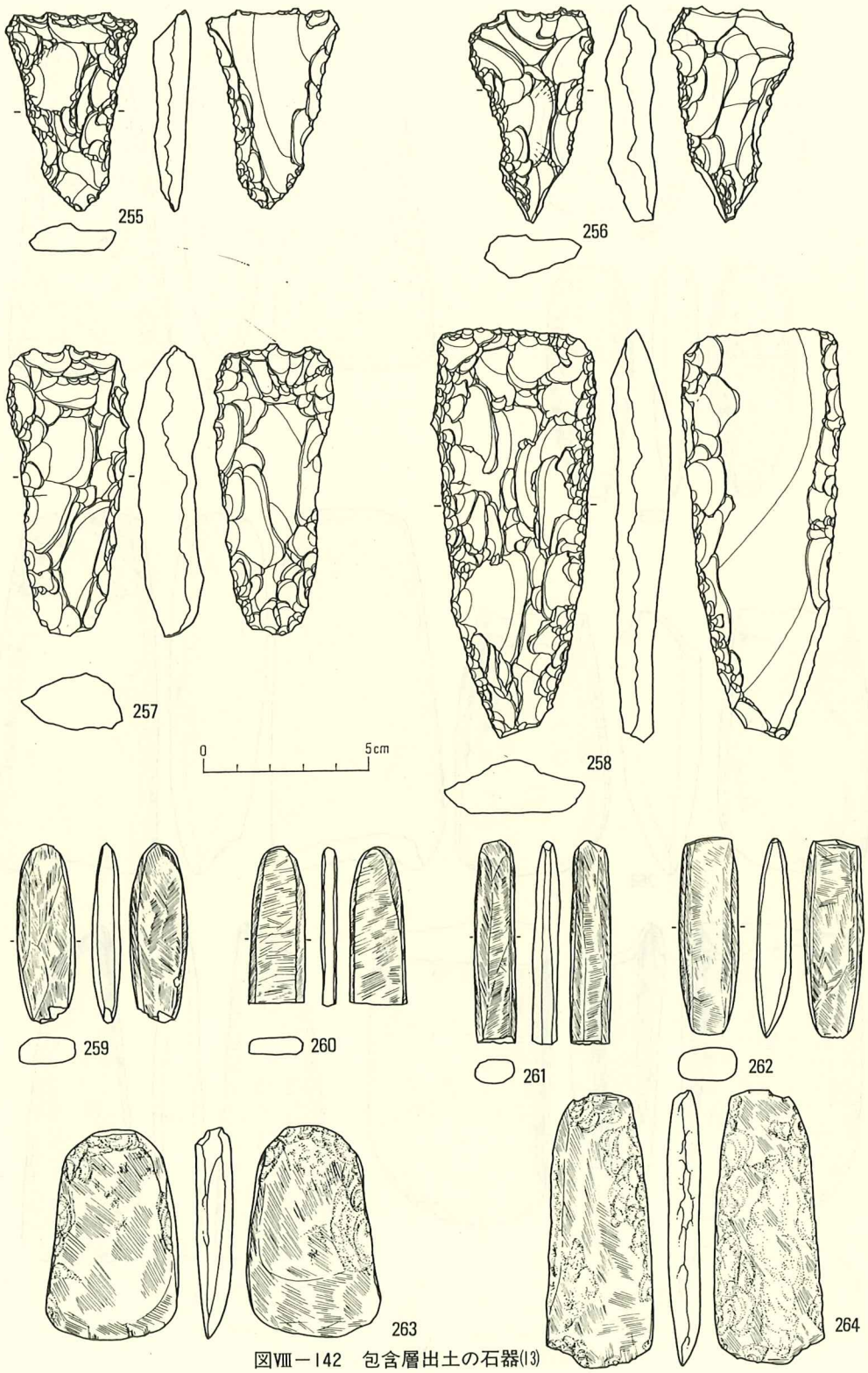
図Ⅷ－139　包含層出土の石器(10)



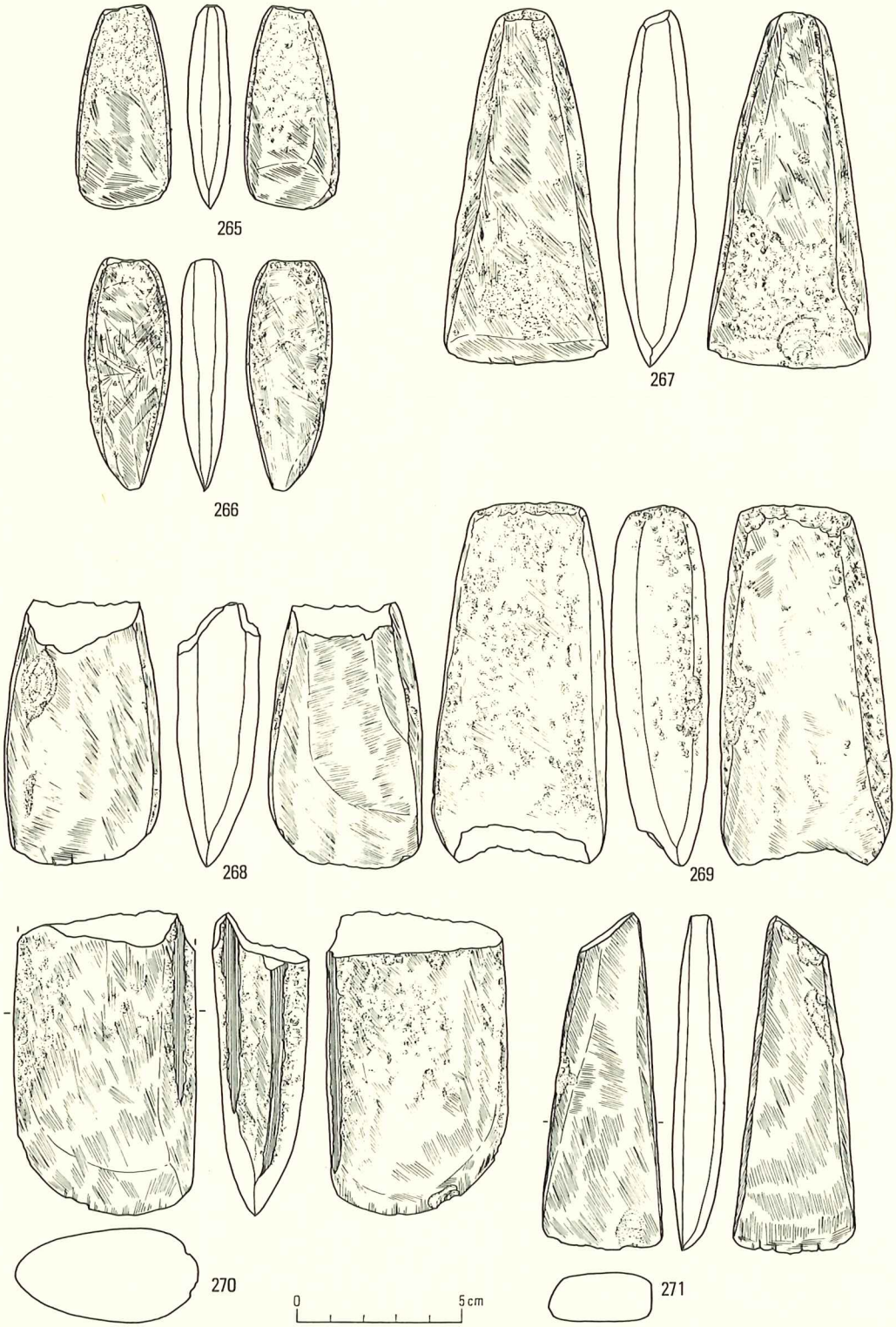
図Ⅷ－140　包含層出土の石器(11)



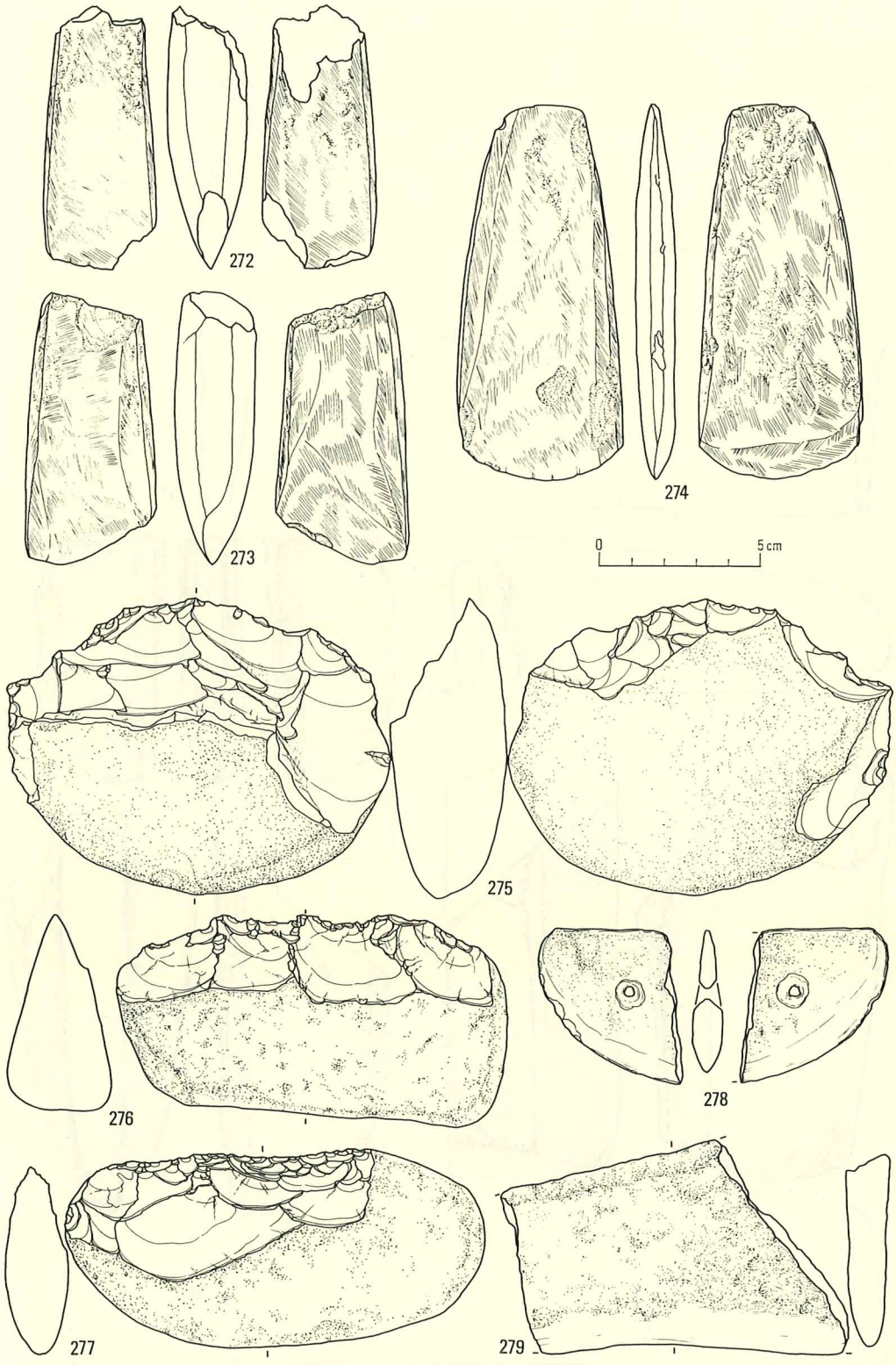
図Ⅷ－141　包含層出土の石器(12)



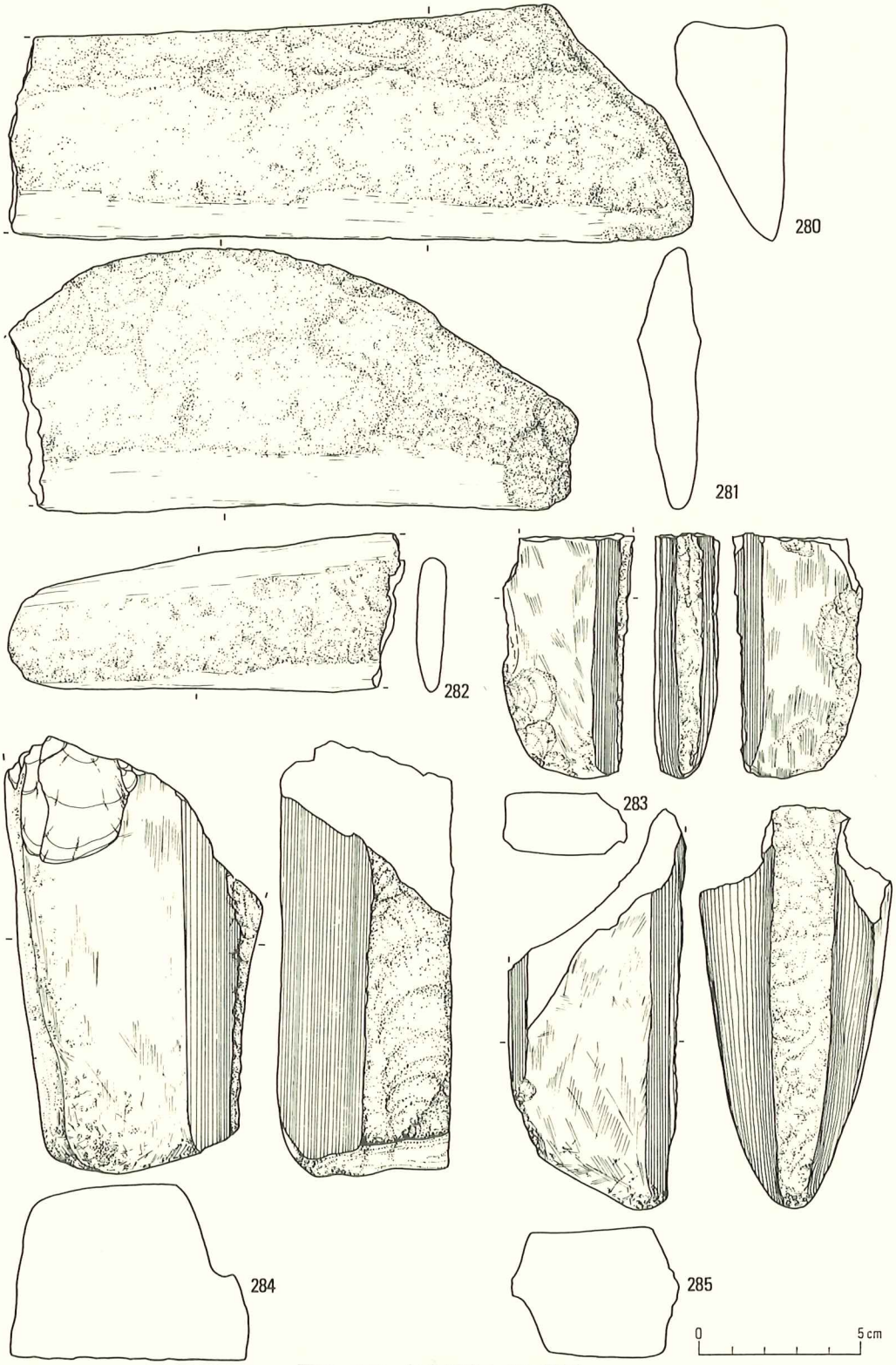
図Ⅷ－142　包含層出土の石器(13)



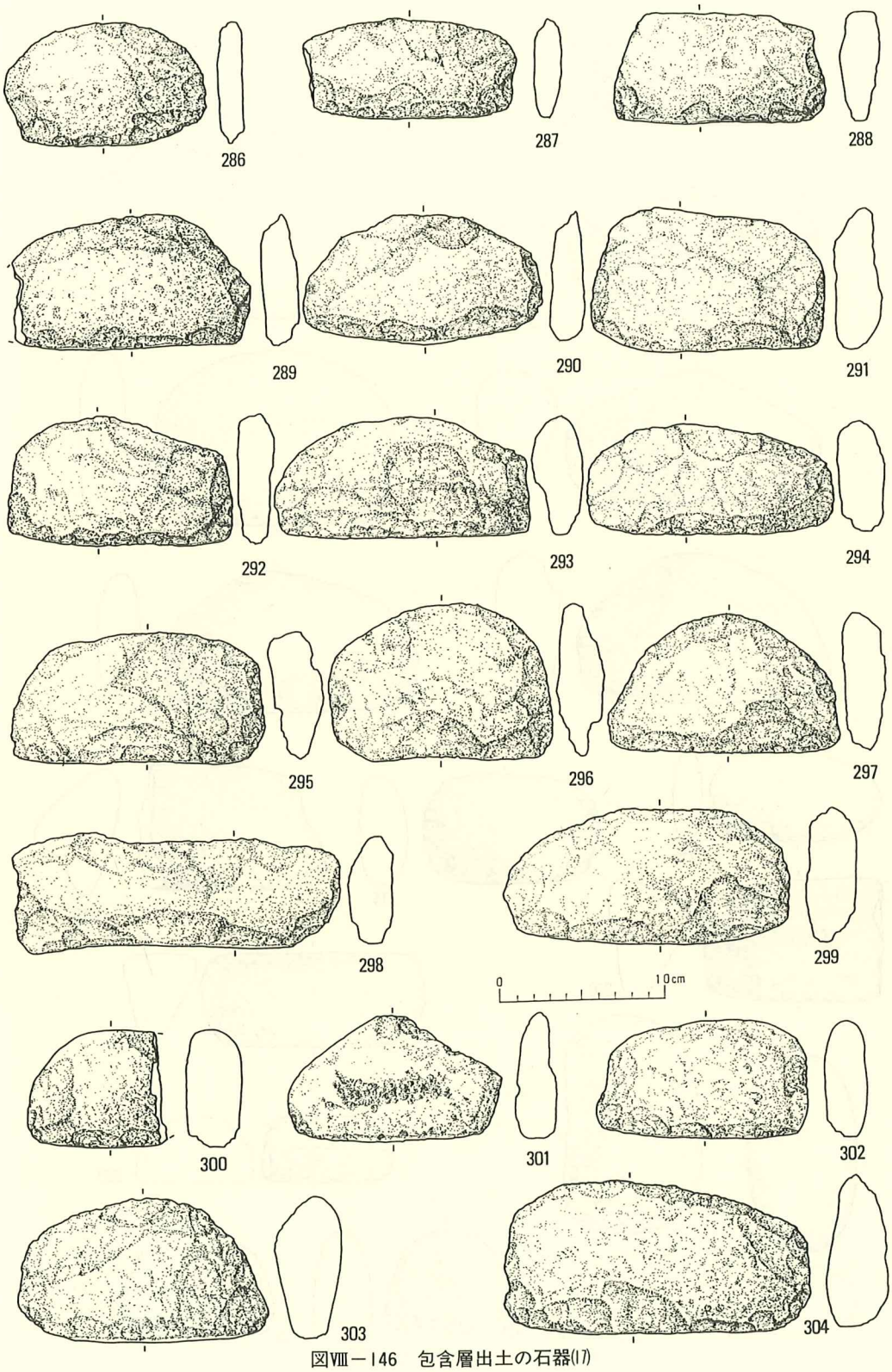
図Ⅷ－143　包含層出土の石器(14)



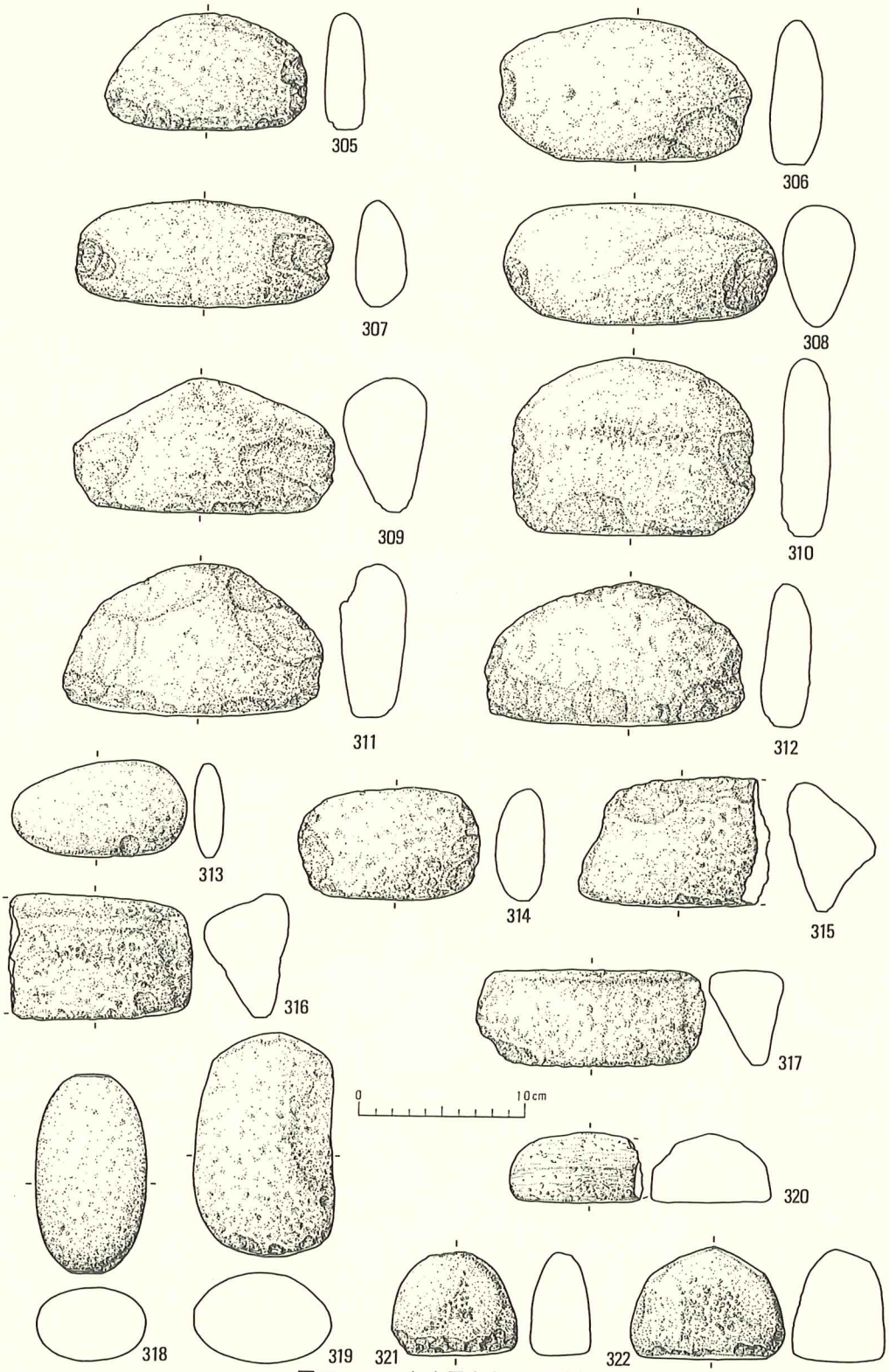
図Ⅷ－144　包含層出土の石器(15)



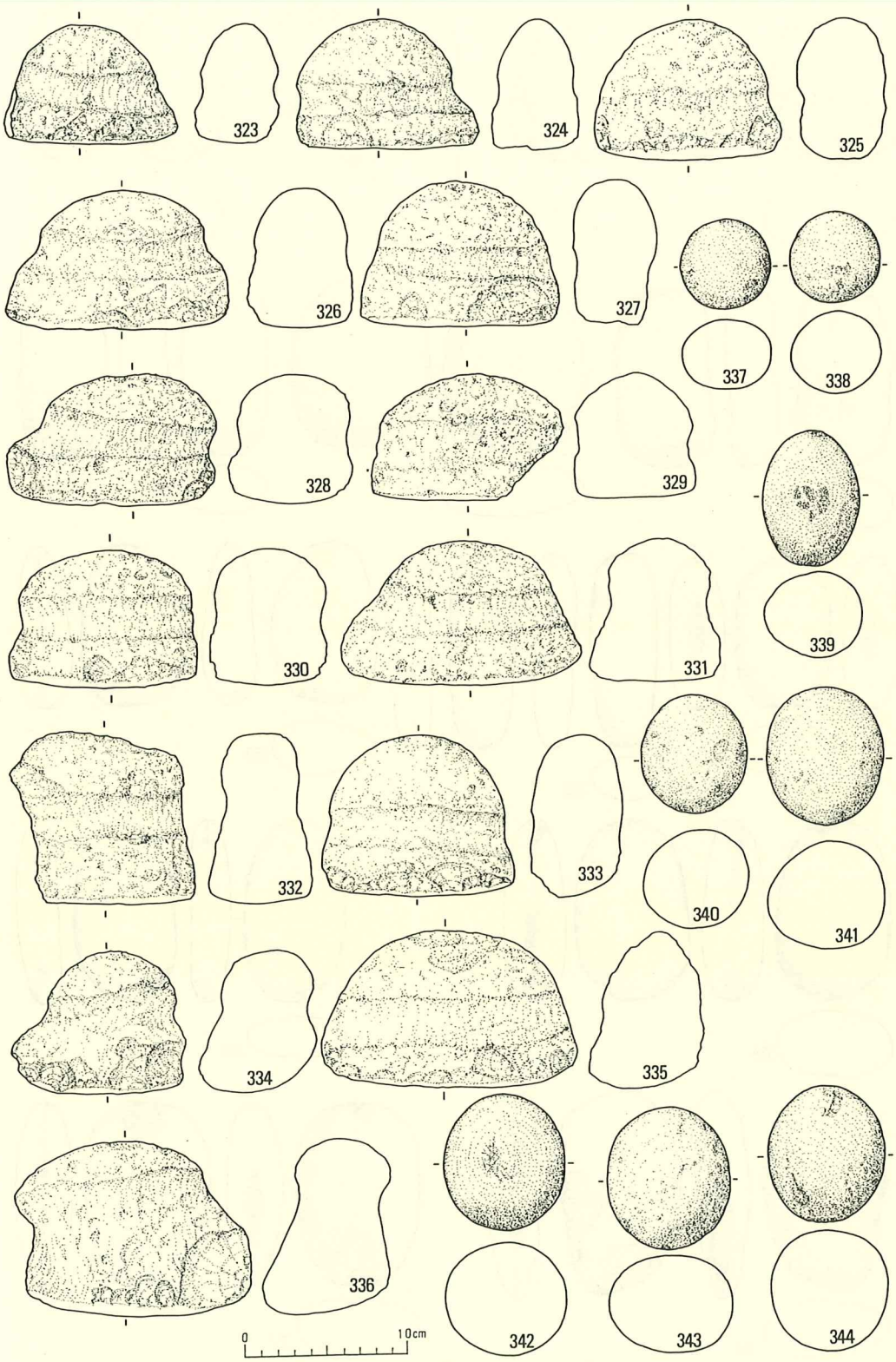
図Ⅷ－145　包含層出土の石器(16)



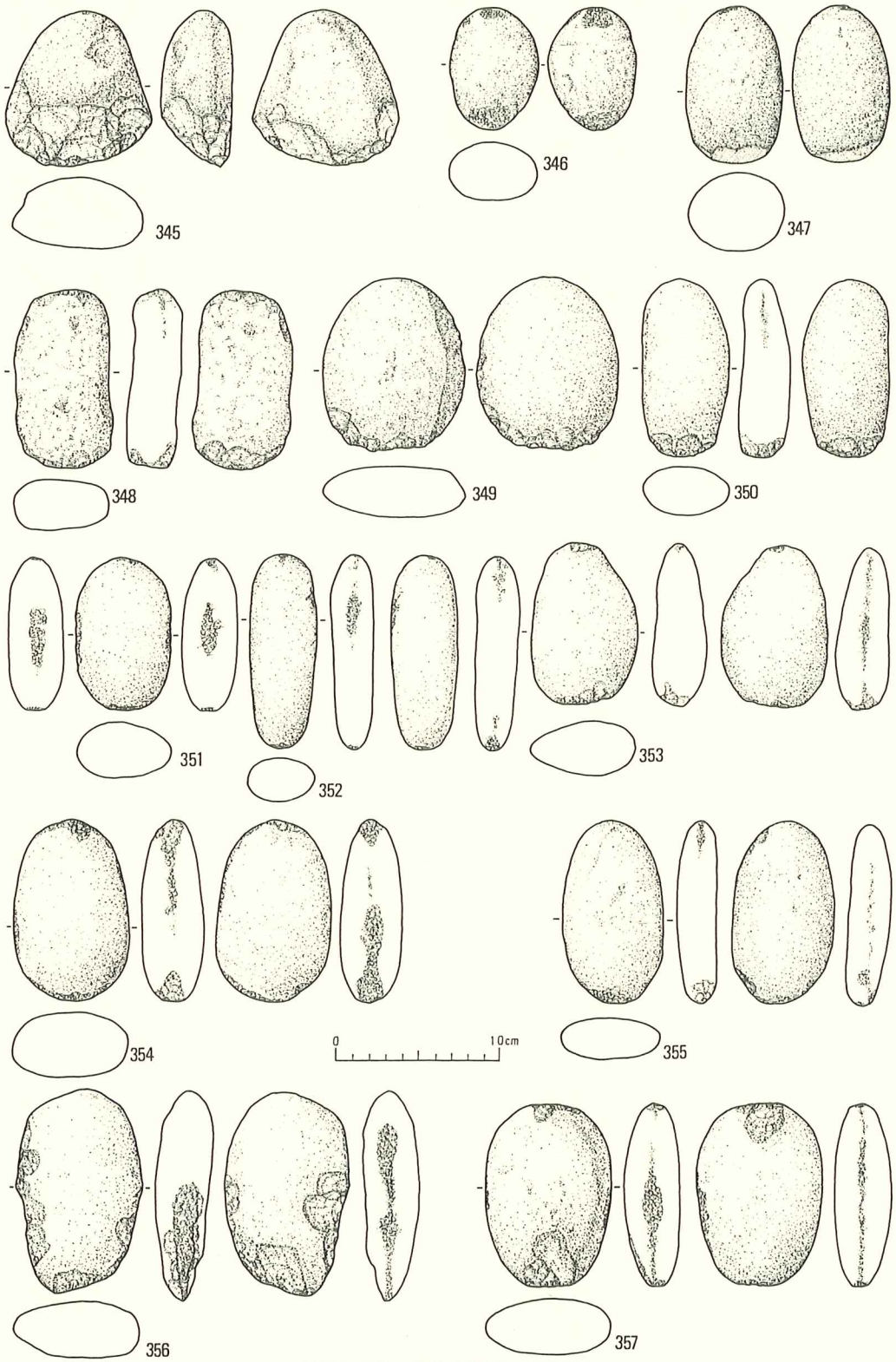
図Ⅷ－146　包含層出土の石器(17)



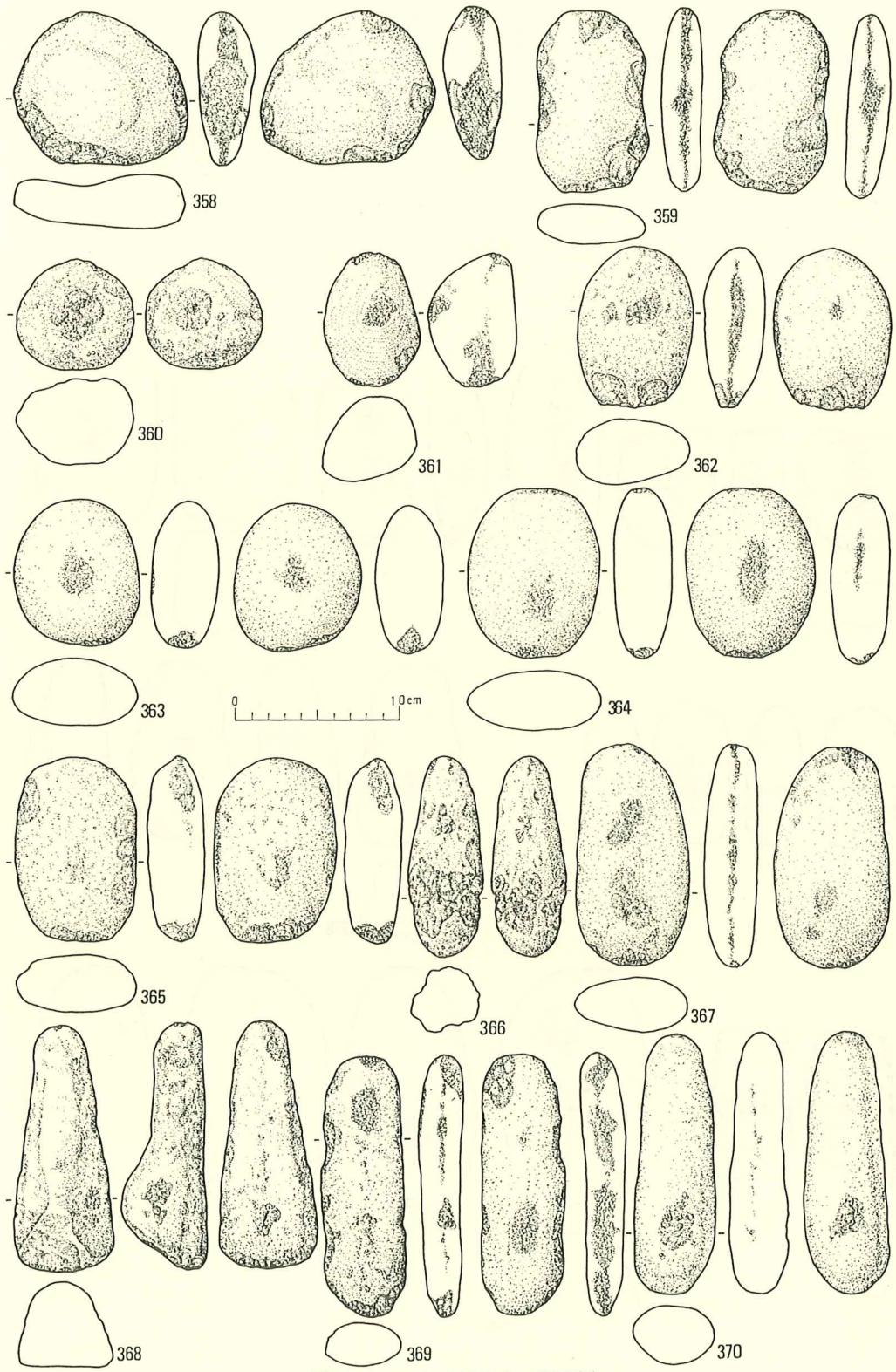
図Ⅷ－147　包含層出土の石器(18)



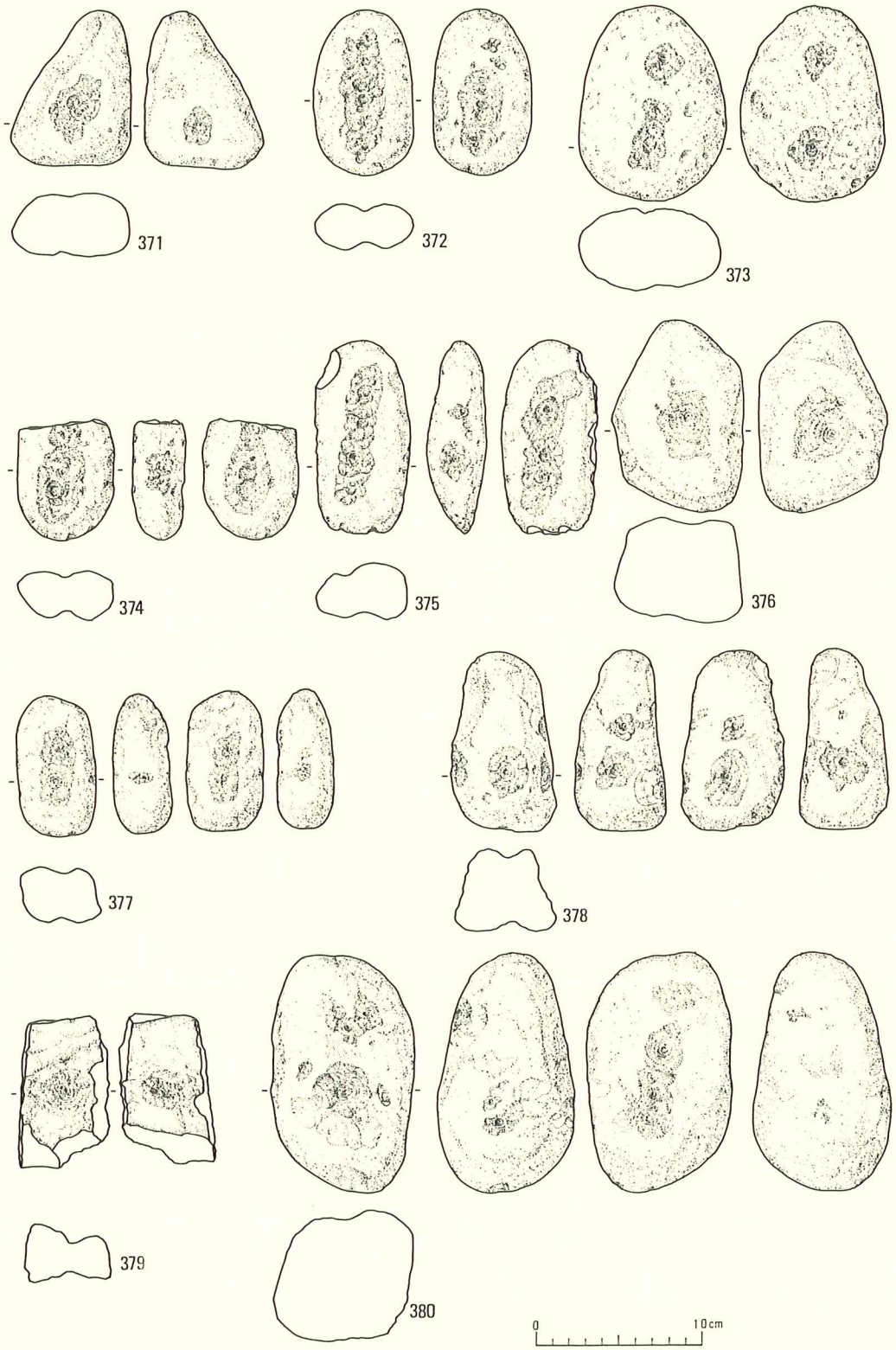
図Ⅷ－148　包含層出土の石器(19)



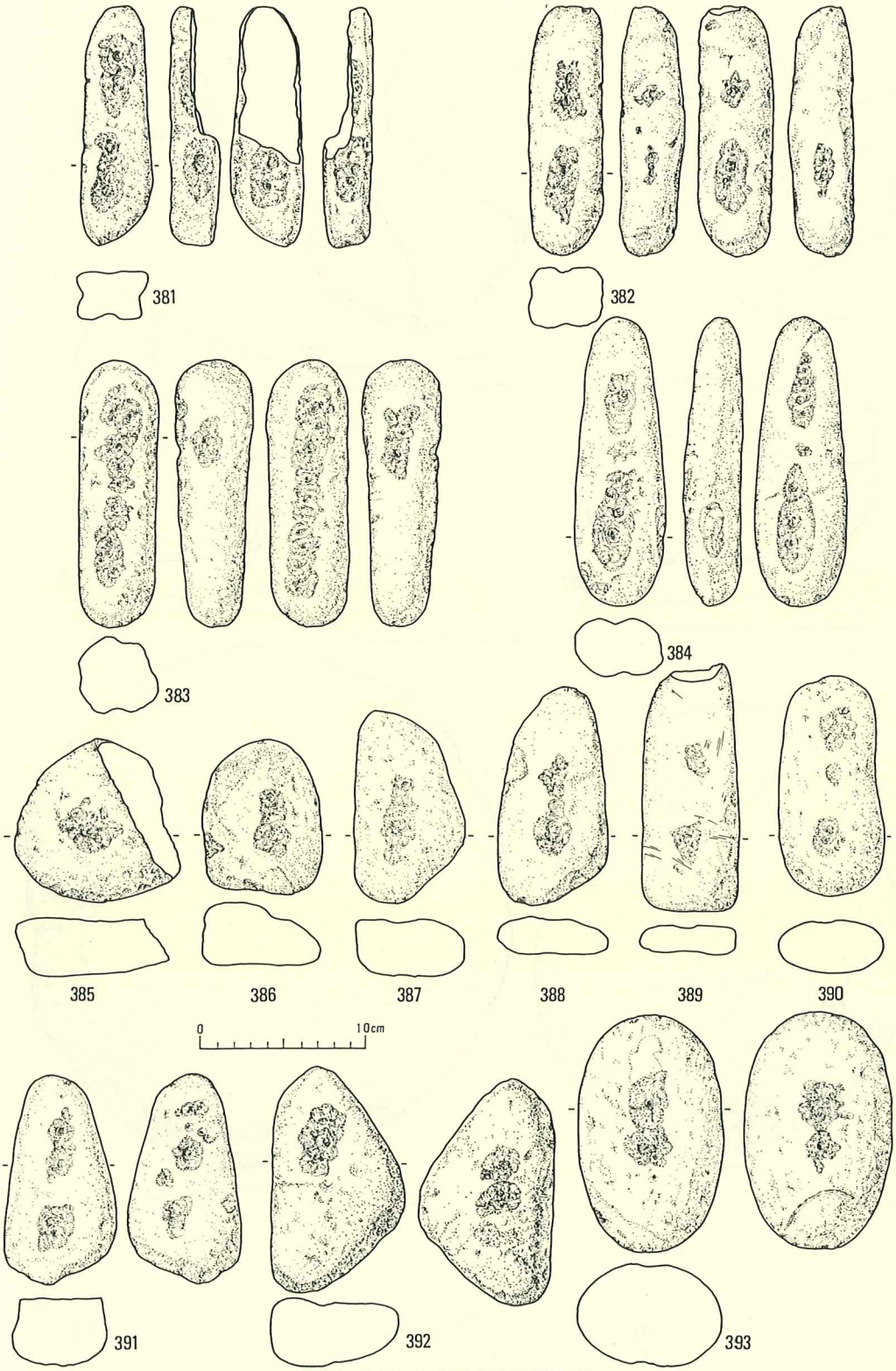
図Ⅷ－149　包含層出土の石器(20)



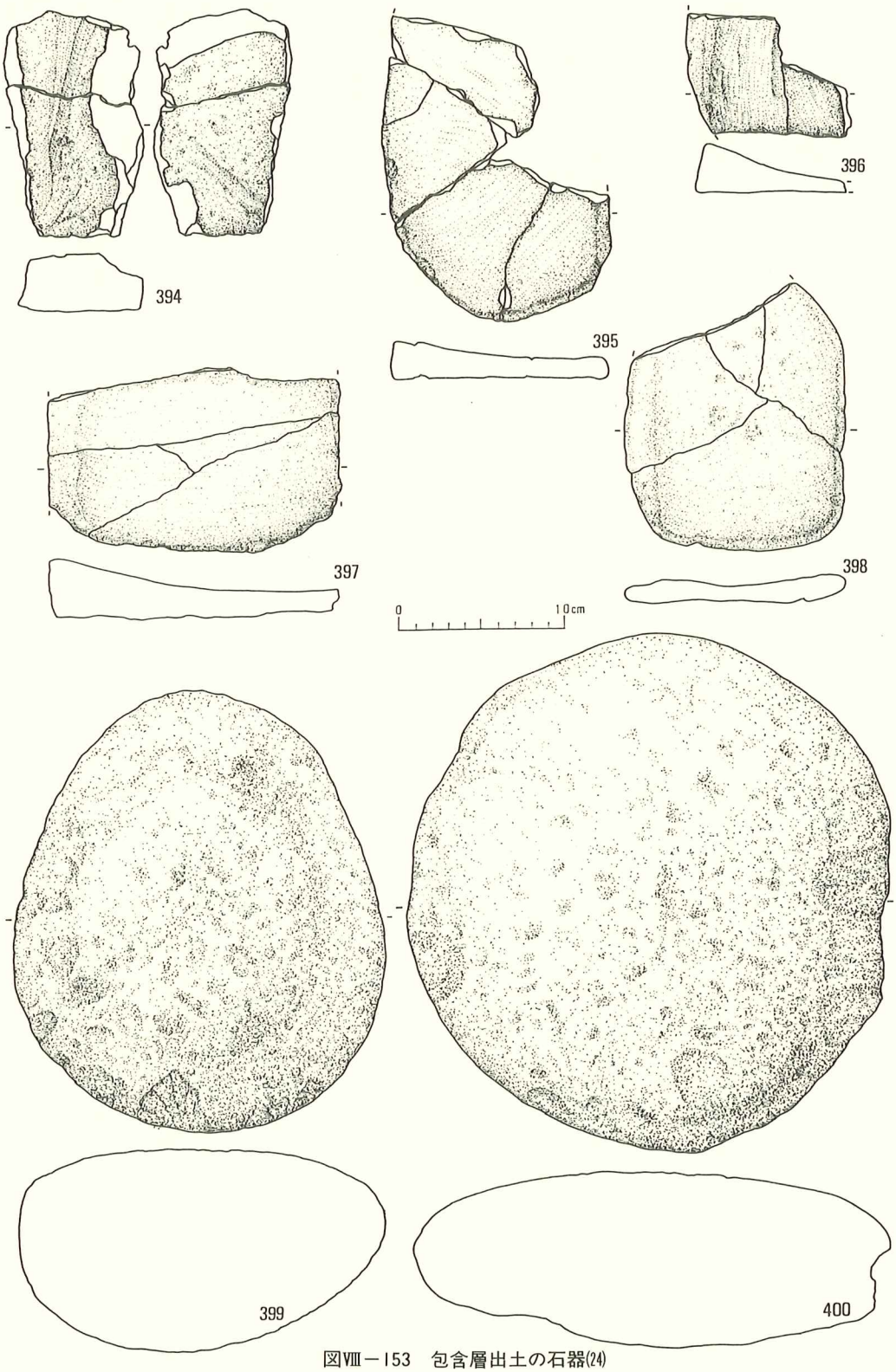
図Ⅷ－150　包含層出土の石器(21)



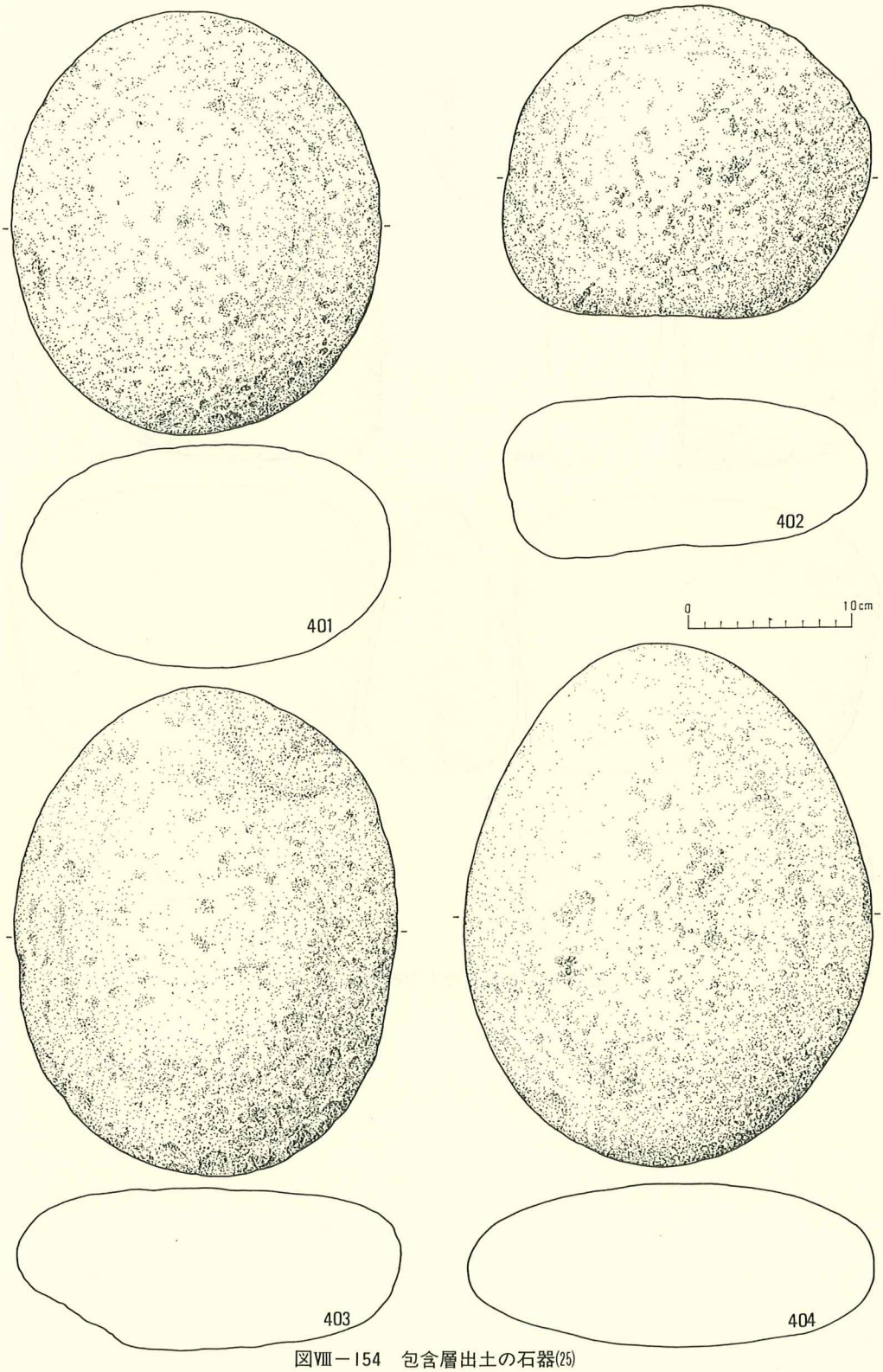
図Ⅷ－151　包含層出土の石器(22)



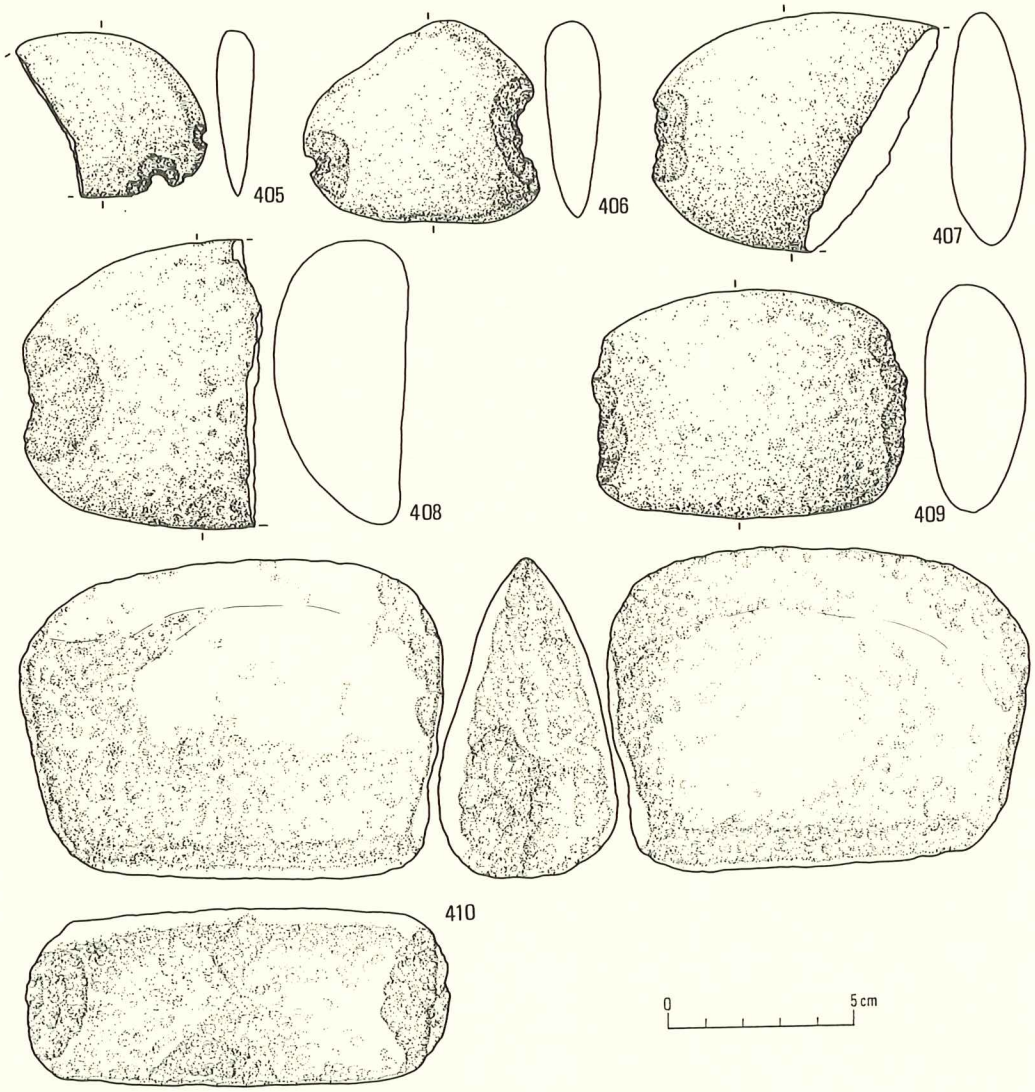
図Ⅷ－152　包含層出土の石器(23)



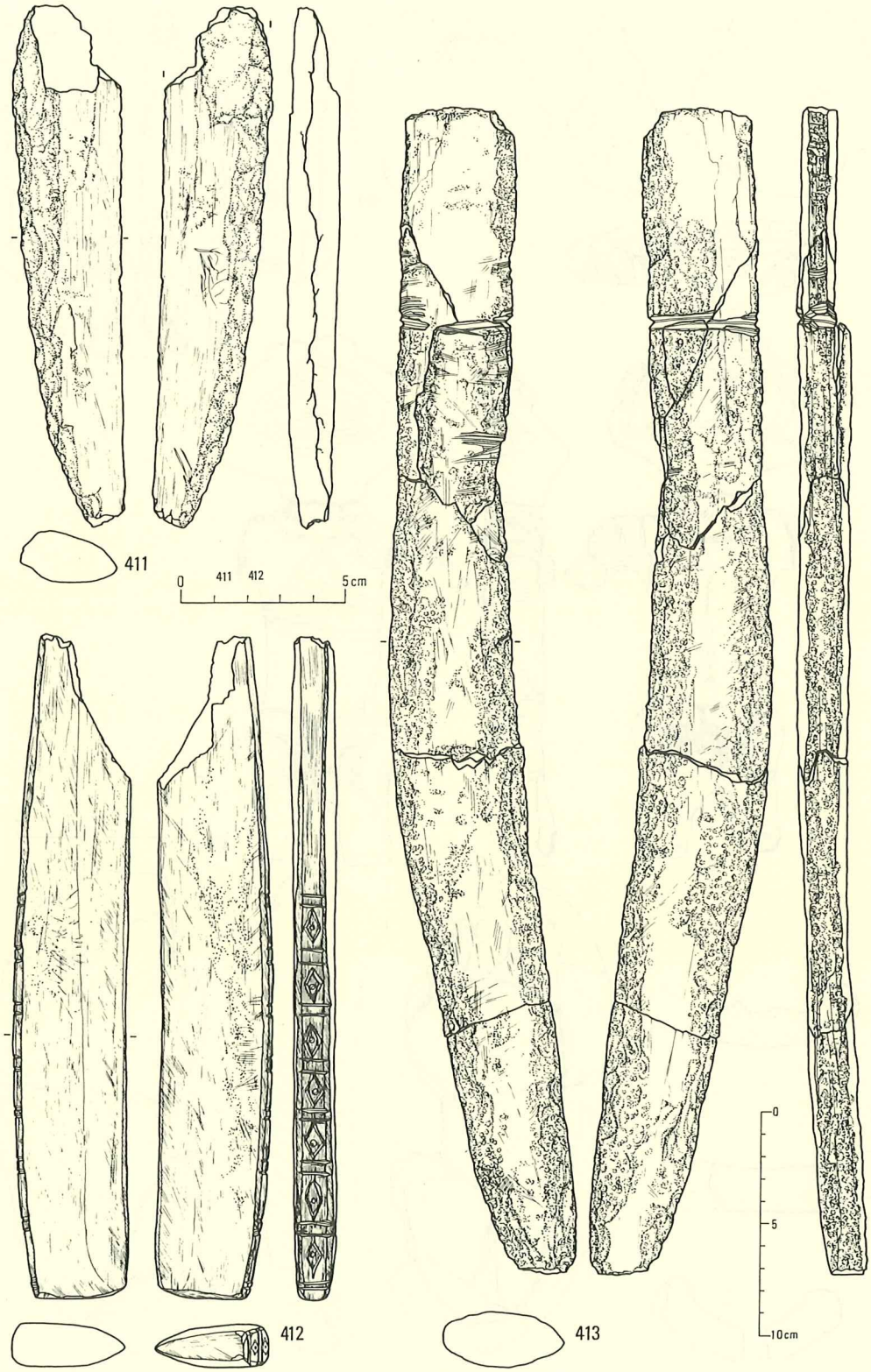
図Ⅷ－153　包含層出土の石器(24)



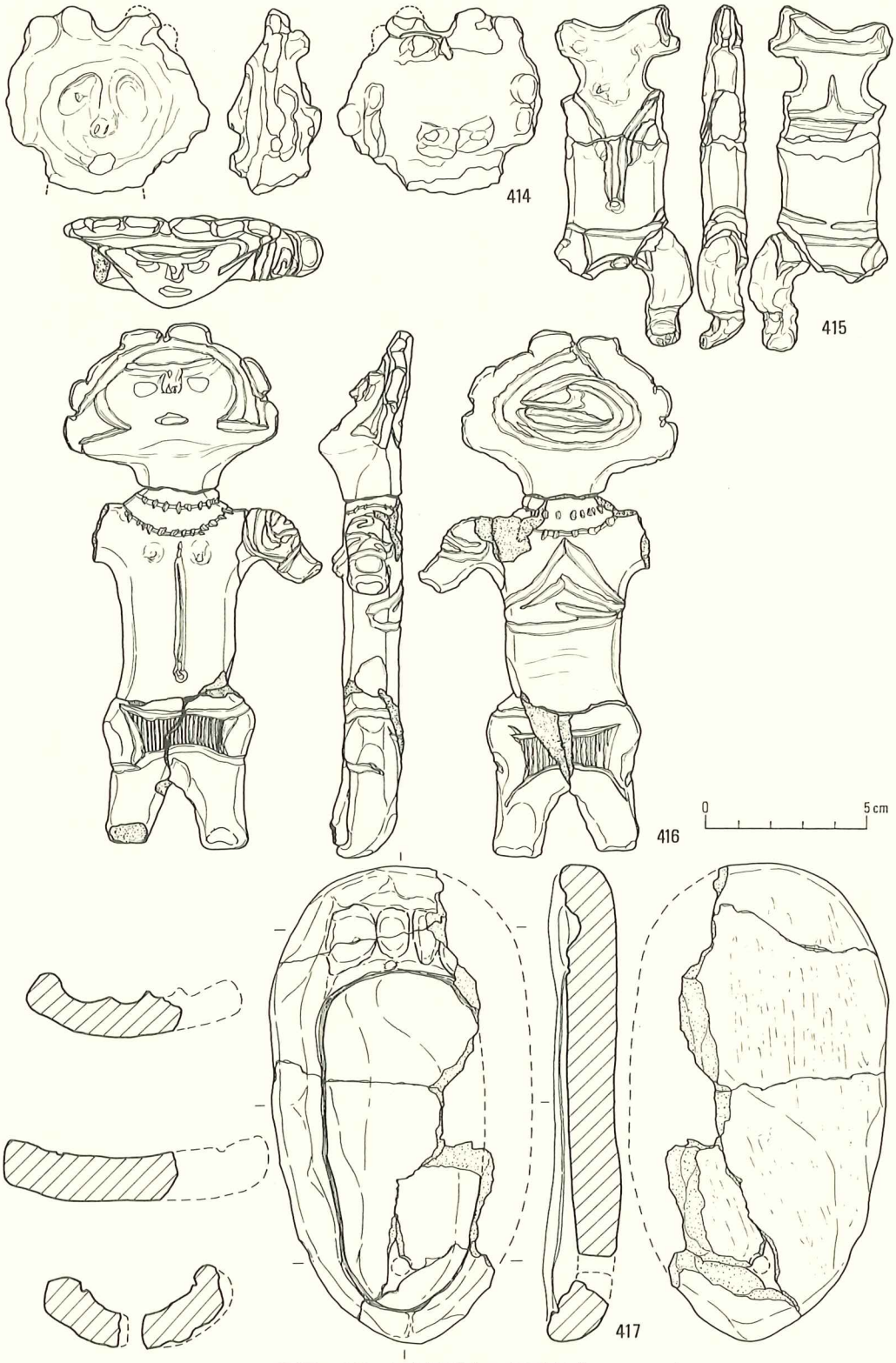
図Ⅷ－154　包含層出土の石器(25)



図Ⅷ－155　包含層出土の石器(26)



図Ⅷ－156　包含層出土の石器(27)



図Ⅷ－157　包含層出土の土製品(1)

（iii）　土製品

414～416は土偶で、いずれも晩期（Ｖ群土器）のものである。415は顔面（目・鼻・口）・乳房が剝落している。下半身にははパンツ様の着衣が認められ、その下位には刺突によって陰部と推されるものが表現されている。416は首に二連の飾り、下半身にはパンツ様の着衣が表現されており、頭頂部と左耳に相当する部分とに赤色顔料の痕跡がわずかに認められる。

417は小児の右足の圧痕を付けた足形付土版で、北海道では千歳市美々５遺跡（２点出土）に続く３例目の資料である。表面は指による整形痕が一部に認められ、縦方向のミガキによって滑らかになっており、裏面は縦方向のナデによる調整が施されている。足指の圧痕は深く、足底部は沈線によってその輪郭が強調されている。中央部右側には赤色顔料の痕跡がわずかに認められ、また踵の部位には貫通孔の痕跡が残っている。[註]

418～449は有孔・無孔の円盤状土製品で、418～427はⅢ群、428～437はⅣ群A_2類、438～448はＶ群Ｂ類、449はＶ群Ｃ類の土器片を利用したものである。

450～452は耳飾り。453は周縁に円形刺突の施された環形状のもの。454・455は鐸形土製品。456は上下不明であるが、鐸形土製品の鈕部の可能性もある。

註　熊谷常正（1986『滝沢村・湯舟沢遺跡の足形付土製品について」『湯舟沢遺跡第２分冊』PP. 883－887）は、本資料の第二指付け根に円形刺突が施されているとするが、これは胎土に含まれていた小礫の抜け跡である。

（iv）　石製品

457～459は玉類で、458は火熱による破砕を受けており、石材も不明。461～465は垂飾品。466は環形状を呈し、周縁には刻みが施されている。467は扁平な小円礫に両面をめぐる二本の沈刻線が施されたもの。468は扁平礫を長軸方向に擦切途中で半割したもの。469は扁平礫の周縁が磨かれており、図の左側縁は角張り、下縁から右側縁はＶ字形を呈している。470はスタンプ状のもの。471は珪質頁岩の剝片の両側縁が磨かれており、一次剝離の鋭さは消失している。石鋸のような機能をはたしたものか。

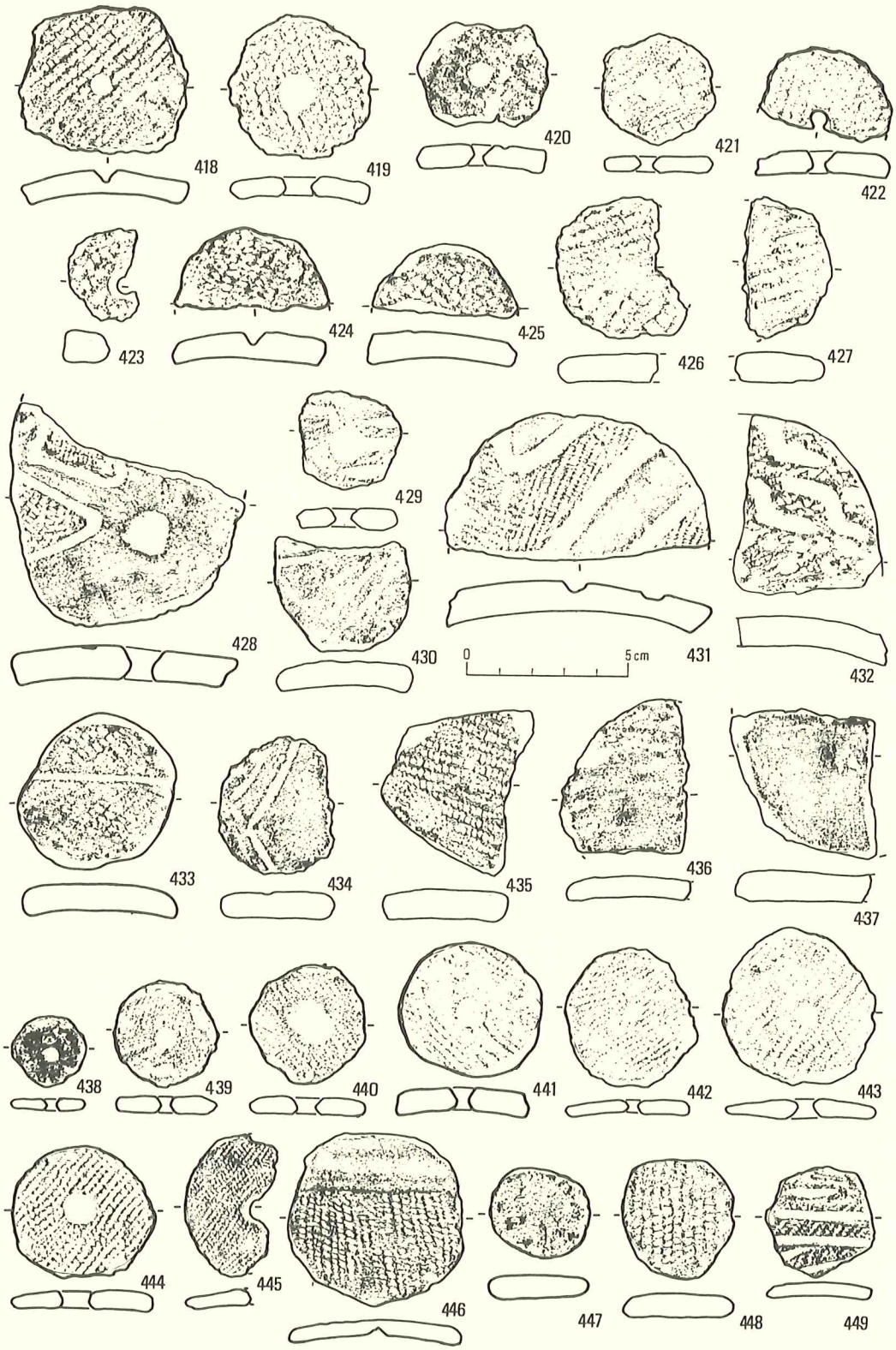
（ｖ）　木製品

472は石斧柄と思われる。素材はミズナラである。固定部を欠失する。原木からの切断の際に打ち削りと折り取りが行われている。台部・頸部にわずかではあるが焦しが施され、その後、打ち削りによる台頭部の調整が加えられたものと思われる。台部側面から主に連続的に打ち削って、尖がった偏平な台頭部を作出している。その調整は粗雑で折り取りの痕跡を残している。台部の加工痕は刃幅2.5～３cm程度である。グリップ・エンドは斜位に切断し、調整加工が加えられていない。台頭部から握り部上部にかけては加工が行われているが、握り部下位には樹皮が残り、ほとんど加工が加えられていない。

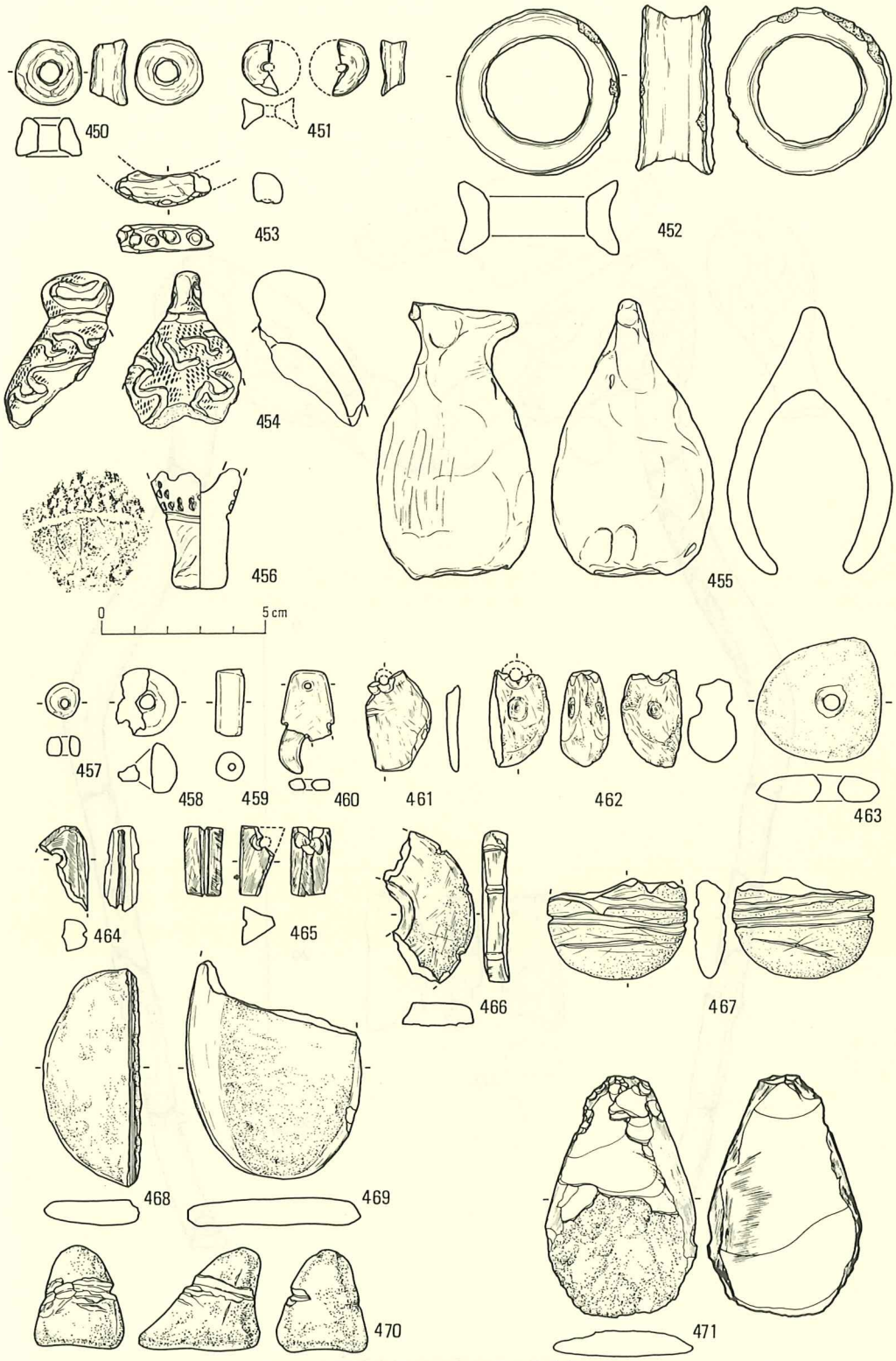
鳥浜貝塚での石斧柄製作工程の復原[註]は

Ⅰ　石斧の柄としての切りとり一原木からの摘出段階

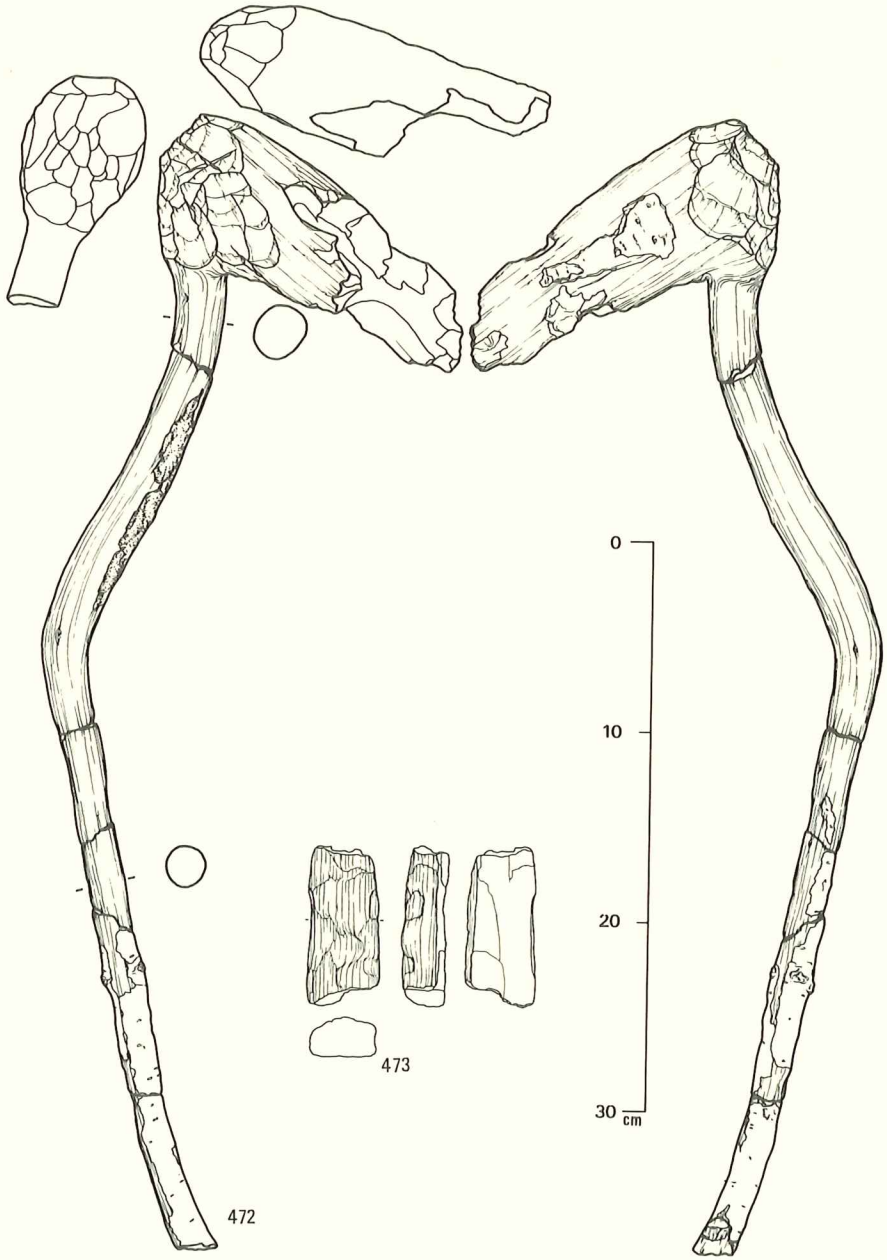
Ⅱ　台頭部を荒削りしたもの一台部を石斧で荒削りして台頭部を作りだした段階



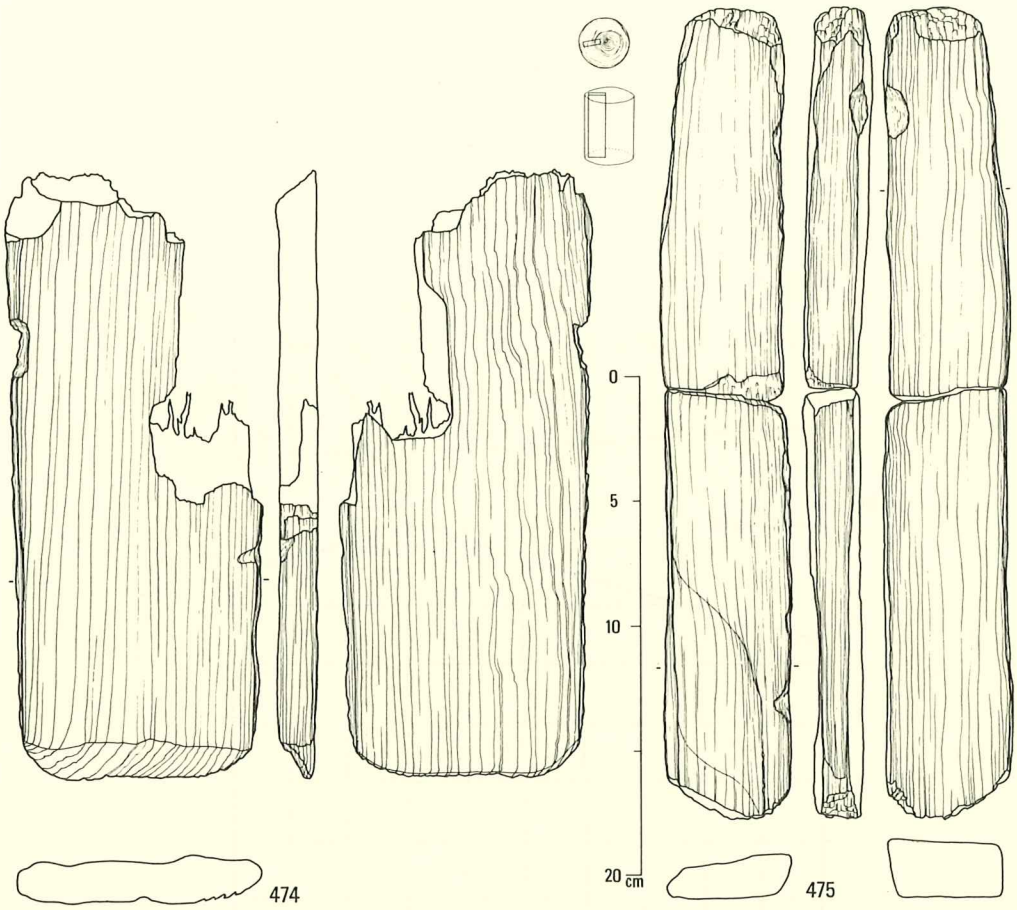
図Ⅷ－158　包含層出土の土製品(2)



図Ⅷ－159　包含層出土の土製品(3)，石製品



図Ⅷ－160　包含層出土の木製品(1)



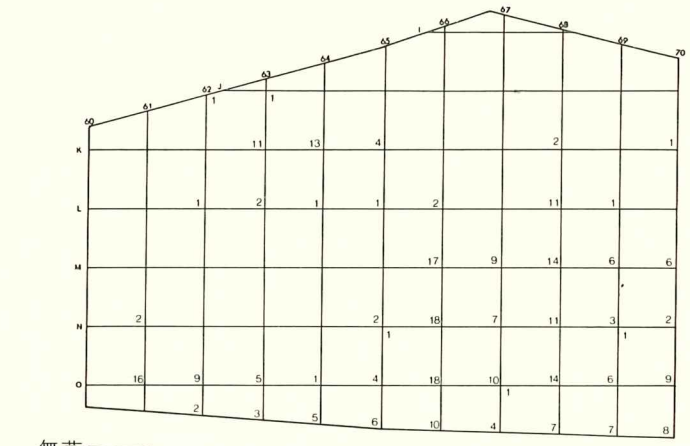
図Ⅷ－161　包含層出土の木製品(2)

Ⅲ　形づくりの終ったもの―台形部の作りがさらに細かくなり、石ヒまたはナイフ状の石器で偏平に整えながら尖らせてゆく段階

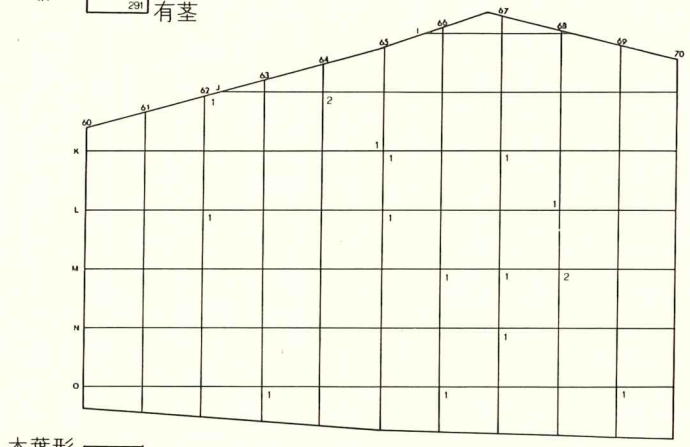
Ⅳ　装着部の加工―定成品―仕上げの段階で、石斧固定部、ソケット部の加工の段階。

以上の４段階に分け、その製作過程を復原しているが、本資料は、装着部を欠失しているため詳細な復原はできないが、この工程をあてはめて考えるならば第二段階のものといえる。473は台部破片と思われる。素材は不明である。474の素材はマツで、樹心をもたない柾目の板材である。一端が欠損しており、打ち削り面には凹凸があり、二次的な調整は加えられていない。木口面は斜めに切断ないしは加工が加えられている。両側縁は幅をそろえるための調整が加えられている。これ自体が完成品であるか否かは不明である。475の素材はクリである。柾目の比較的厚味をもった板材である。明瞭な二次加工痕は認められない。

（註）　鳥浜貝塚の報告において、木製品の加工技術の復原が試みられ、その中で石斧柄の復原も行なわれている。（岡本勇ほか『鳥浜貝塚』福井県教育委員会、1979・1981・1983・1984）

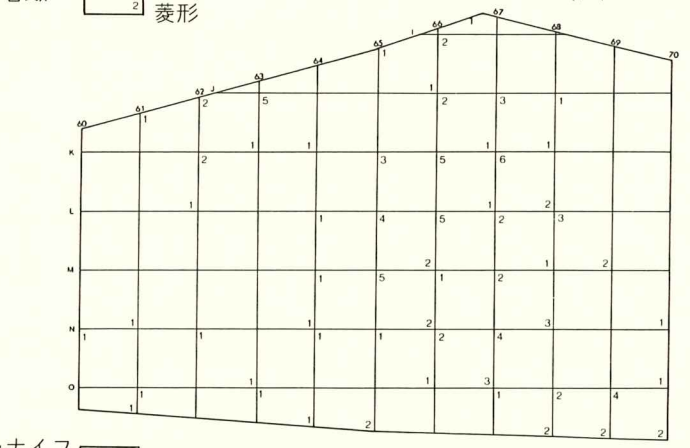


無茎
石鏃
5
291
有茎



木葉形
石鏃
15
2
菱形

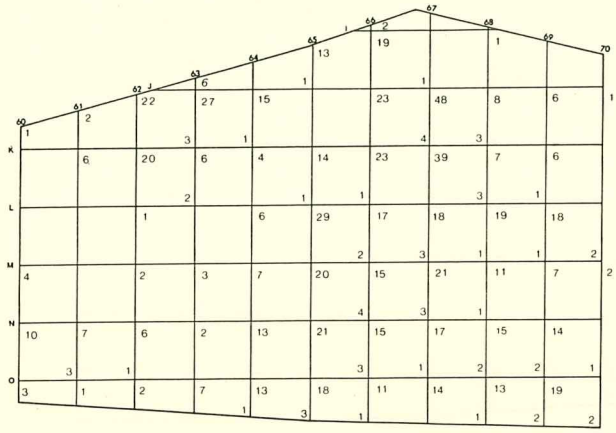
（註）石鏃は形態不明のものもある。



ポイント・ナイフ
77
38
ドリル

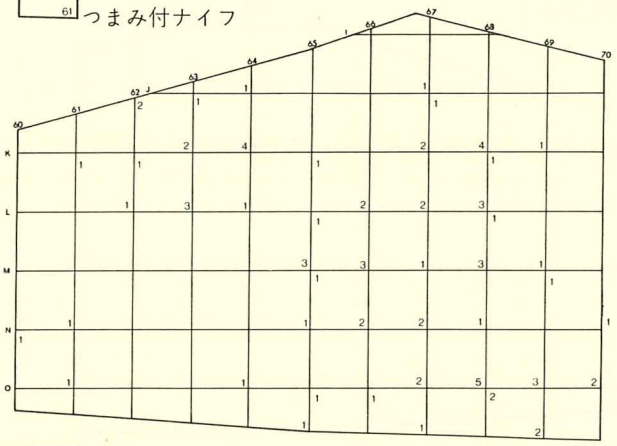
（註）沢部分で一括して取り上げたものもあり、
表の数より少ない器種もある。

図Ⅷ－162　石器グリッド別出土点数(1)



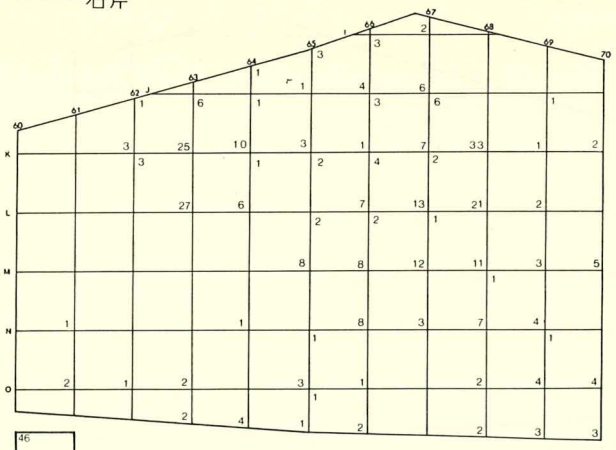
スクレイパー

つまみ付ナイフ



楔形石器

石斧

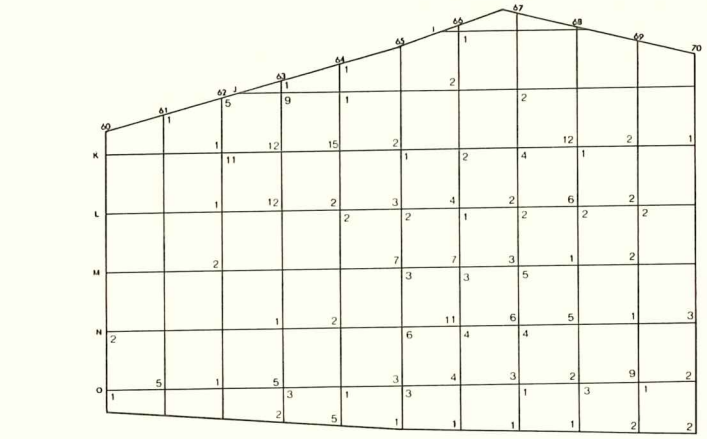


北海道式石冠

すり石

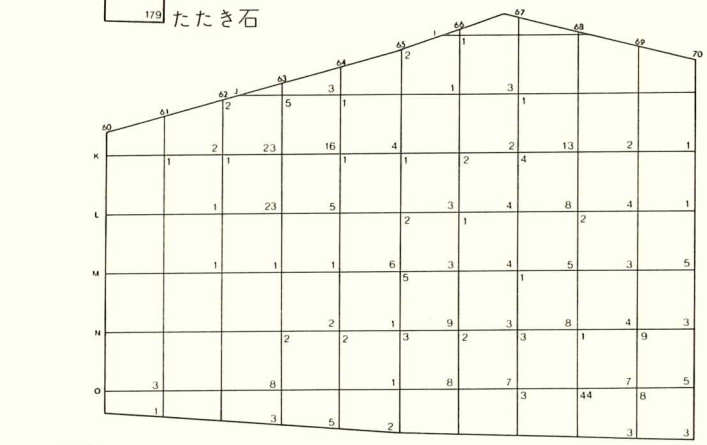
（註）沢部分で一括して取り上げたものもあり、
表の数より少ない器種もある。

図Ⅷ－163　石器グリッド別出土点数(2)



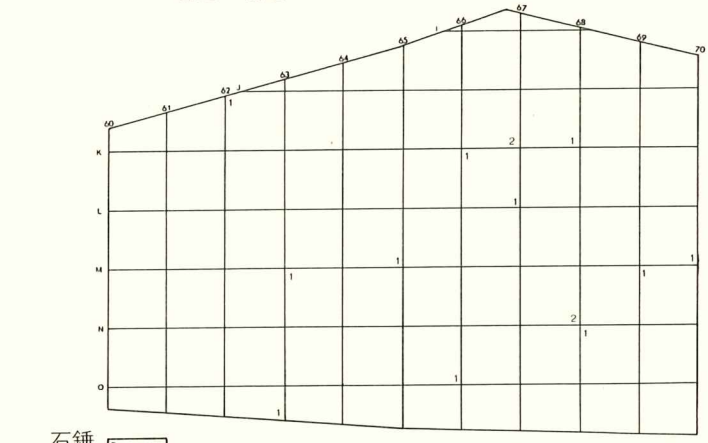
くぼみ石

たたき石



砥石

石皿・台石



石錘

石鋸

（註）沢部分で一括して取り上げたものもあり、
表の数より少ない器種もある。

図Ⅷ－164　石器グリッド別出土点数(3)

５．新道４遺跡Ｃ地区１・２号住居の復原

奈良国立文化財研究所　　宮本　長二郎

二棟の住居址はほぼ同様の炭化材の堆積状況と配置を示しているので両住居址に共通する火災時と火災直後の状況を想定し、住居建築の復原を行う。

炭化建築材の出土状況は床面上に炭化材の細片や小材が多く、堆積土の途中に径の太い長材が竪穴周辺から中央に向って放射状に分布する。床面の炭化材は細片・小材のため、本来の形状は分らないが、木舞などの屋根材と考えられ、堆積土中の炭化材は垂木と推定される。

垂木材の下の堆積土の状況は竪穴周辺部に厚く中央部に薄い。また、赤く焼けた土は竪穴中央部に集中して周縁部に焼土が少ない。床面上の炭化材と堆積土上の炭化材が同時期のものとすれば、この堆積土は屋根上の葺材以外には考えられない。したがって竪穴周辺に厚く、中央部に薄い堆積状況はある程度は屋根上の葺き土の厚さを表わし、中央部に集中する焼土は、火災時の火勢が中央部に集中したことを示すものである。また、堆積土の層位関係から、まず屋根木舞や草などの葺下地材が床面に落ち、次いで屋根土が垂木と垂木の間から床面に落下しはじめ、火が屋内全体にまわって屋根の荷重を支えきれなくなり屋根全体が落下し、屋根葺土に上って鎮火したものと考えられる。したがって屋根土の多くは屋根崩落時に垂木とともに落ち、そのショックで垂木の間から下方に流下したものと、そのまま垂木上に留まるものがあり、また、鎮火後に日時を経て、徐々に垂木下の間隙を埋めていったものであろう。炭化材の上下に同質の土層が重復するのは以上のような理由が考えられる。

垂木材の形状は幅８～12 cm の板目を示す板状材が多く、柾目の棒状材もある。木目の曲卒や棒状材の形式からみて、垂木には心持丸太を使用せず全て割材を利用したものと思われ、材幅等から径 20 cm 前後の材を４つ割にして利用したものと思われる。材質は割材を得易いクリであることはその可能性を高めていよう。薄い板状材もみられるが屋内側のみが炭化、屋根土に接した部分は生木のままで炭化せずに腐蝕した結果と考えられる。

以上がこれら２棟の焼失住居址から推定される住居の火災時の状況と建築材の形状であるが次に具体的な住居の構造形式の復原を試みてみよう。

１号住居は部分的な検出であるが、竪穴外部の垂木尻据付痕跡が 60 cm、210 cm、140 cm、90 cm、120 cm、150 cm の間隔に並び、深さ 10～30 cm である。これらの間隔から垂木は 60～70 cm の等間隔に、また、竪穴中央部に向って放射状に配置したものと推定される。したがって垂木と垂木の間隔は竪穴中央部で密接して狭く、周縁部に広くなる。この間隔をふさぐために垂木と直交して、屋根木舞の細い枝を配りこれに草を葺くか、小枝や板を敷きつめて、屋根全体を土で覆う。土の厚さは覆土層の厚さからみて、竪穴の中心部分で 40～50 cm、周縁部で 80 cm 程と推定される。

２号住居は４本の主柱をもち、炭化材のうち比較的太くて残りの良い材が、主柱の附近から

堅穴の四隅の方向にのびている。また、桁に細い垂木を密に架けたような状況も一部にみられるところから屋根構造を復原すると、４本の主柱上に桁をめぐらし、主柱上の桁から堅穴の４隅に叉首を架け叉首間に母屋を数段に渡して細い垂木を密接して配る。主柱の内側、つまり桁から上方は各主柱上から４本の合掌を中央で組み、これに母屋、垂木を架け渡して全体を土で覆う。

このように２号住居は１号住居と異なった構造に復原できるが、炭化材の出土状況からは必ずしも確定的なことは言えず、２号住居については１号住居と同じ構造形式であった可能性も考えられる。

以上、新道４遺跡Ｃ地区１・２号住居は焼失住居の極めて少ない縄文時代の遺例として、また、屋根に土を葺いたことを間接的に立証し、垂木材に割材を使用したことなど、当時の建築構造を知る上で貴重な遺構であると言える。

６．新道４遺跡周辺の古植生と堅果について

北海道開拓記念館　　山田　悟郎

１　試料と処理方法（図Ⅷ－82）

試料　花粉分析の対象となった21点の試料は、遺跡の発掘調査に際してＬ－66グリッドの杭の下で採取されたものである。土壌は１層から15層に区分されているが、花粉分析の対象としたのは縄文時代前期末の遺物包含層である14層から、縄文時代晩期末の遺物包含層である４層までである。14層から９層までが縄文時代前期末（円筒下層式土器）の遺物包含層で、９層から６層中位までが同時代中期（円筒上層式土器）の遺物包含層、６層から４層中位までが同時代後期の遺物包含層、４層が同時代晩期中葉の遺物包含層である。尚、砂礫や粘土を主とした５、７、９～10、15層からは試料の採取は行われていない。何れの試料も腐植に富んだ土壌であるが、全般に細礫や砂が含まれていたほか、14層の試料には中～粗粒砂や微細な炭化物が含まれていた。

処理方法　試料処理にあたっては土壌試料500ｇをビーカーにとり下記のように化学・物理処理を行なった。

アルカリ処理（10％KOHを加え24時間放置）－水洗（１日に１回上澄液を交換し３週間）－沈澱法により砂礫等を除く－混酸処理（HCl：HNO_3：H_2Oの等量混液を加え３分間湯煎）－水洗（遠心分離により数回）－アルカリ処理（５％KOHを加え５分間湯煎）－水洗（遠心分離により数回）－比重分離（比重2.0の$ZnCl_2$を加え十分に攪拌した後、1000 r. p. m. で１時間遠心分離）－水洗（遠心分離で数回）－アセトリシス処理（CH_3COOHで洗浄しH_2SO_4：$(CH_3CO)_2O$の１：９液を加え３分間湯煎した後、遠心分離し、CH_3COOHで洗浄）－水洗（遠心分離により数回）－時計皿処理－HF処理－水洗（遠心分離により数回）の順に処理し、プレパラートを１試料につき各３点作成した。

検鏡は通常400倍で行ない、必要に応じて600倍、1,000倍で行なった。同定にあたっては、樹木花粉を200個以上数えるまでに順次出現した花粉・胞子を無作為に同定して計数した。しかし、どの試料も樹木花粉が200個に満たないものであった。

したがって、表示にあたっては各試料から産出した花粉・胞子数を一覧表にして示したほか、主な花粉・胞子については写真図版に示した。また、産出花粉のうち個々の属への同定・分類が困難な花粉については*Juglans-Pterararya*のようにハイフォンで結んで表示した。

２　分析結果

21点の試料から25属１科の樹木花粉、２属18科の草本花粉、３科の胞子、形態分類胞子２種類が産出している。各試料から産出した花粉・胞子の出現数は別表の通りで、その内訳及び想定される主な母植物は下記の通りである。

樹木；*Picea*（トウヒ属；エゾマツ）、*Abies*（モミ属；トドマツ）、*Pinus*（マツ属；ハイマツ・

キタゴヨウ)、*Tsuga*(ツガ属；コメツガ)、*Cryptomeria*(スギ属：スギ)、*Alnus*(ハンノキ属；ハンノキ・ケヤマハンノキ他)、*Betula*（バノキ属；シラカンバ・ウダイカンバ)、*Fagus*（ブナ属；ブナ)、*Castanea*（クリ属；クリ)、*Juglans-Pterocarya*（クルミ属－サワグルミ属；オニグルミ・サワグルミ)、*Carpinus*（クマシデ属；サワシバ他)、*Corylus*（ハシバミ属；ツノハシバミ)、*Quercus*（コナラ亜属；コナラ・ミズナラ・カシワ)、*Ulmus*（ニレ属；ハルニレ・オヒョウニレ)、*Morus*(クワ属；ヤマグワ)、*Fraxinus*(トネリコ属；ヤチダモ・アオダモ)、*Magnolia*（モクレン属；ホウノキ・コブシ)、*Tilia*（シナノキ属；シナノキ・オオバボダイジュ)、*Acer*（カエデ属；イタヤカエデ・ハウチワカエデ他)、*Rubus*（キイチゴ属；クマイチゴ・エビガライチゴ他)、*Rhus*（ウルシ属；ツタウルシ他)、*Ilex*（モチノキ属；ハイイヌツゲ他)、*Phellodendron*（キハダ属；ヒロハノキハダ)、Araliaceae（ウコギ科；ハリギリ・タラノキ・コシアブラ他)、*Salix-Populus*（ヤナギ－ハコヤナギ属；エゾノカワヤナギ・オノエヤナギ他)、*Hydrangea*（アジサイ属；ツルアジサイ・ノリウツギ他)

草本；Polygonaceae（タデ科；オオイタドリ・ミゾソバ・ハルタデ・エゾノギシギシ他)、Chenopodiaceae(アカザ科；アカザ・シロザ・ハマアカザ他)、Caryophyllaceae(ナデシコ科；ハコベ・ミミナグサ他)、Ranunculaceae（キンポウゲ科；カラマツソウ・アキカラマツ他)、Cruciferae（アブラナ科；タネツケバナ・エゾワサビ他)、Rosaceae（バラ科；オオダイコンソウ・エゾノシモツケソウ・ナガボノシロワレモコウ他)、Leguminosae(マメ科；センダイハギ・クサフジ他)、Balasaminaceae(ツリフネソウ科；キツリフネ・ツリフネソウ)、Guttiferae(オトギリソウ科；オトギリソウ他)、Umbelliferae（セリ科；ヤブジラミ・エゾニュウ・オオバセンキュウ他)、Labiatae（シソ科；カワミドリ・カキドウシ・イヌゴマ他)、Valerianaceae（オミナエシ科；オミナエシ他)、*Artemisia*(ヨモギ属；オオヨモギ他)、Carduoideae(キク亜科；アキタブキ・ハンゴンソウ・ヨブスマソウ・チシマアザミ他)、Cichorioideae（タンポポ亜科；コウゾリナ・ハチジョウナ・オニノゲシ他)、Typhaceae（ガマ科；ガマ)、Gramineae（イネ科；ススキ・ヨシ・イワノガリヤス他)、Cyperaceae（カヤツリグサ科；エゾアブラガヤ・オクノカンスゲ他)、Liliaceae（ユリ科；バイケイソウ・オオウバユリ他)、*Lysichiton*（ミズバショウ属；ザゼンソウ・ミズバショウ)

胞子；Equisetaceae（トクサ科；トクサ・スギナ)、Lycopodiaceae（ヒカゲノカズラ科；ヒカゲノカズラ他)、Osmundaceae（ゼンマイ科；ゼンマイ・ヤマドリゼンマイ他)

形態分類胞子；Monolate type spore（単条孔胞子；シダ類)、Trilite type spore（三条孔胞子；ワラビ他)

各層の堆積状況および水分含有量等の違いが花粉・胞子の保存に大きな影響を与えているものと考えられ、各層で花粉・胞子の出現数が大きく異っている。14層の黒褐色粘土質腐植土は水分に富んでいたため、腐植土では最も古い時代に堆積し、堆積してから長い年月を経ていて風化作用を最も長く受けていたにもかかわらず、試料中に含まれていた花粉・胞子が最も良い状態で保存されており出現数も高いものとなっている。それは、花粉・胞子の保存にとって水

分が大きな意味を持っていることを示すものであろう。

全般に花粉・胞子の出現数は少ないが、樹木では落葉広葉樹の *Salix-Populus*・*Juglans-Pterocarya*・*Almus*・*Quercus*・*Fagus*・*Ulmus*・*Acer*・*Tilia*・Araliaceae が多く出現し、草本では Polygonaceae・Ranunculaceae・Umbelliferae・*Artemisia*・Carduoideae・Cichorioideae・Gramineae が多く、胞子では Osmundaceae・Monolate type spore が多く出現している。

１）縄文時代前期末（円筒下層式土器）の遺物包含層　14 層から 11 層までの遺物包含層からは、落葉広葉樹の *Salix-Populus*・*Juglans-Pterocarya*・*Alnus*・*Fagus*・*Quercus*・*Ulmus*・*Acer*・*Tilia*・Araliaceae と、草本・胞子の Polygonaceae・Ranunculaceae・Umbelliferae・*Artemisia*・Carduoideae・Cichorioideae・Gramineae・Cyperaceae・Equisetaceae・Lycopodiaceae・Osmundaceae・Monolate type spore を主とした花粉化石群集が確認された。樹木では *Juglans-Pterocarya*・*Fagus*・*Quercus*・*Ulmus* が多く出現しているが *Quercus* が優勢で、草本・胞子では Polygonaceae・Ranunculaceae・Umbelliferae・*Artemisia*・Carduoideae・Cichorioideae・Gramineae・Cyperaceae・Monolate type spore が多いが Gramineae が優先している。この花粉化石群集は、砂層に接した 14 層で顕著に見られる。樹木の *Carpinus*・*Corylus*・*Morus*・*Rhus*・*Ilex* は 14 層で多く出現するが、上位では出現数が減少する傾向を示す。同様の傾向は草本・胞子の Labiatae・Valerianaceae・Guttiferae・Typhaceae・Cyperaceae・Liliaceae・*Lysichiton*・Equisetaceae にも見られる。針葉樹の出現数は少なく、*Abies* と北海道に自生分布していない *Tsuga* が僅かに出現しているだけである。

２）縄文時代中期初頭（円筒上層式土器）の遺物包含層　8 層から 6 層中位までの遺物包含層では、落葉広葉樹の *Salix-Populus*・*Juglans-Pterocarya*・*Alnus*・*Fagus*・*Quercus*・*Ulmus*・*Acer*・*Tilia*・Araliaceae と、草本・胞子の Polygonaceae・Ranunculaceae・Umbelliferea・*Artemisia*・Carduoideae・Cichorioideae・Gramineae・Osmundaceae・Monolate type spore を主とした花粉化石群集が確認されている。前の時代とほぼ同様な花粉化石群集であるが、樹木の *Carpinus*・*Corylus*・*Morus*・*Rhus*・*Ilex* と、草本・胞子の Labiatae・Valerianaceae・Guttiferae・Typhaceae・Cyperaceae・Liliaceae・*Lysichiton*・Equiseteceae は僅かに出現するか、全く出現しなくなる。針葉樹の出現数も極めて少ない。多く出現しているのは樹木では落葉広葉樹の *Alnus*・*Fagus*・*Quercus*・*Ulmus*、草本・胞子では Polygonaceae・Ranunculaceae・*Artemisia*・Carduoideae・Gramineae・Monolate type spore である。

３）縄文時代後期遺物包含層　6 層から 4 層中位までの遺物包含層でも、落葉広葉樹の *Aluns*・*Fagus*・*Quercus*・*Ulmus*・*Acer*・*Tilia*・Araliaceae と、草本・胞子の Polygonaceae・Ranunculaceae・Umbelliferae・*Artemisia*・Carduoideae・Cichorioideae・Gramineae・Monolate type spore を主とした花粉化石群集が確認された。前の時代の花粉化石群集とほぼ類似した構成で、主要構成種に大きな変化はないものの、針葉樹の *Abies* が僅かではあるが多くなり、*Picea* が初めて出現するほか、落葉広葉樹の *Salix*・*Populus-Juglans*・*Pterocarya*・*Alnus*・*Ulmus* と草本・胞子の Cichorioideae・Osmundaceae・Lycopodiaceae が前の時代よ

り減少している。また、一時的にではあるが、草本の Polygonaceae が急増しているのが特徴的である。

４）縄文時代晩期中葉遺物包含層　４層では針葉樹の *Abies* と落葉広葉樹の *Juglans-Pterocarya*・*Alnus*・*Castanea*・*Fagus*・*Quercus*・*Ulmus*・*Acer*・*Tilia*・Araliaceae と、草本・胞子の Polygonaceae・Ranunculaceae・Umbelliferae・*Artemisia*・Carduoideae・Cichorioideae・Gramineae・Monolate type spore を主とした花粉化石群集が確認された。前の時代とほぼ同様な花粉化石群集であるが、*Juglans-Pterocarya* がいくぶん増えているほか、針葉樹の *Abies*・*Picea* のほかに *Pinus*・*Cryptomeria* も出現し、*Abies* が前の時代よりも多くなっているのが特徴である。

３　古植生について

１）縄文時代前期末から中期初頭の古植生

14 層から 6 層中位までの土壌で確認された花粉化石群集は、含まれていた遺物から縄文時代前期末から中期初頭にかけての植生を反映したものである。

ここで確認された花粉化石群集から、当時遺跡周囲の丘陵上にはミズナラ・コナラ・ブナ・オニグルミ（サワグルミ）・ヤナギ類（ドロノキ）・ハンノキ・ケヤマハンノキ・サワシバ・ハシバミ（ツノハシバミ）・ハルニレ・キハダ・カエデ類・シナノキ・ハリギリ・コシアブラ等を主な構成種とした落葉広葉樹林が分布していたことが推定される。しかし、オオイタドリ・カラマツソウ・エゾニュウ・オオヨモギ・アザミ類・アキタブキ・ススキ・イワノガリヤス・シダ類・ゼンマイ等を主とした陽地性草本群落が繁る草地も広がっていたようで、遺跡のまわりの森林密度はさほど濃いものではなかったようである。

14 層の腐植質粘土が堆積した頃は遺跡周囲には低湿地か小沢が存在していて水位が高かったようで、低湿地やその周囲に多くみられるハンノキ・ヤナギ類・ヤチダモ等の樹木が比較的多く出現しているほか、ミズバショウ・エゾアブラガヤ・スゲ類・ガマ・ミゾソバ等の草本類もこの層から比較的多く出現している。しかし、13 層より上位では湿地も次第に乾燥していったようで、これらの樹木や草本の出現率が低下している。

個々の花粉・胞子の出現状況には小さな変動が見られるが、主要な構成樹種や草本に大きな変化はなく、縄文時代前期末から中期初頭にかけた時期には、遺跡の周囲にミズナラ－ブナを主とした森林が分布していたといえよう。

さて、縄文時代前期から中期にかけてはいわゆる「縄文海進」で代表されるように、気候的には現在よりも温暖な時期であった。この時期の古植生は塚田（1981）による RII 帯の花粉帯で示されているように、北東日本では落葉樹林が最大に発達した時期で、北海道ではこの時期にコナラ亜属を最優占種とし、ニレ属・シナノキ属・カバノキ属・ブナ属などを加えた落葉広葉樹の安定した混成群落がみられるとされている。ここで問題となるのがブナがいつ頃渡島半島に進出したかである。塚田（1981）ではその時期を RIb 帯の終り頃（約 7,000 年前頃）と推定しているが、ブナがいつ頃道内に進出したかを示す確たる証拠は未だ得られてはいない。し

かし、渡島半島に分布しているブナーミズナラ林が各地に進出し、さらには現在ブナの自生北限地となっている黒松内低地帯まで分布域を拡大したのは、気候が温暖であった縄文時代前期から中期にかけた時期であることは確かである（山田ほか・1979）。

木古内町新道４遺跡で行ったこのたびの花粉分析により、縄文時代前期末の遺物包含層ミズナラーブナ群落の存在を物語る花粉化石群集が確認されたことは、これまで縄文時代早期頃にブナが道内に進出してきたと漠然と考えられてきていたのに対して、縄文時代前期末には木古内町周辺でミズナラーブナ群落が森林を構成していたことを確認したものであり、渡島半島へのブナの進出を考える上で意味が大きいものである。

２）縄文時代後期から晩期中葉の古植生

前の時代と同様に遺跡が位置した丘陵上には、ミズナラーブナ群落を主とした森林が分布していたが、針葉樹の花粉が徐々に増加している傾向は、背後の山地や周辺の山地に針葉樹のトドマツが進出するとともに、全道的にトドマツ・エゾマツ等の針葉樹が増えていたことを意味するものであろう。現在、知内地区がトドマツの自生南限となっているが、このトドマツはこの時期に知内地区に進出したものと考えられる。この時期は温暖であった気候を背景とした「縄文海進」が終り、海水面は現在と同じかやや低い位置にあったと予想され、気候的にも現在よりも幾分冷涼であったと推定されており、針葉樹の増加は気候の冷涼化を反映したものと考えられる。この時期の植生は塚田（1981）によるRIIIa帯の花粉帯に対比することが可能で、中部日本の山地帯や北東日本ではブナ減少開始期と亜寒帯針葉樹林増加開始期であるとされている。

４　堅果類について

このたび花粉分析を行った試料からは食用となる堅果が実るコナラ亜属・クルミ属・クリ属の花粉が、出現率の違いはあるもののほぼ連続して検出された。また、縄文時代前期末の遺物包含層では、食用となる堅果が実るハシバミ（またはツノハシバミ）の花粉が僅かではあるが一時的に出現していて、周囲に生育していたことを示している。

ここでは、やはり食用となる堅果が実るトチノキの花粉は検出されなかったが、トチノキは沢沿いの幾分湿潤な土地を好むことから、上記の他の樹木とは生態的な違いがある。このたびの花粉分析で検出されなかったとしても不思議はないものの、遺跡近くの沢沿いにはこの頃すでに生育していたと推定される樹木である。遺跡が位置する台地の前面には海岸に並行して低湿地が広がっているが、この低湿地を流れる重内川の流域は、縄文時代中期末から後期に対比される泥炭質粘土や泥炭からトチノキの花粉が検出されていて、トチノキが台地上に分布していたのは確かである（山田・1979）。

コナラ亜属のミズナラ・コナラ・カシワ、クリ、ハシバミ（ツノハシバミ）、オニグルミは陽地性の樹木で、在来植生が破壊された跡に二次林を形成したり、林の縁辺部に多くみられる樹木で、当時遺跡に居住していた人々による居住空間の確保や薪炭材の伐採等による活動で、林の一部が切り開かれた跡にこれらの樹木が入りこんでいたことが予想される。

オニグルミは生食することができることから、道内でも縄文時代早期から近世までの各時代の遺跡で遺体が出土していて、食料になっていたことが確認されている（山田・1986）。新道４遺跡でも縄文時代前期後半に位置づけられる可能性をもったフラスコ状ピット（BP－65）からオニグルミの核片が出土しているのを初めとして、中期末から後期初頭の住居址（BH－６、BH－９）や発掘区からも核の出土が報告されており（千葉・1986）、遺跡周辺に生育していたオニグルミが利用されていたことを示している。また、縄文時代中期末から後期初頭にかけた時期の住居址（BH－６・BH－９・BH－16）から、クリの果肉や構造材として利用されたクリ材が出土していて、クリが当時の居住者によって色々な用途に利用されていたことが明らかになっている。

クリは縄文人にとって食料・住居の構造材・薪炭材として利用され、管理保護されていたであろうことは西田（1980）、千野（1984）によって指摘されており、縄文時代において有用な樹木の一つであった。

今のところ、縄文時代で最も古いクリの花粉は函館市中野Ｂ遺跡（縄文時代早期）で確認されていて、北海道のクリの歴史は縄文時代早期まで遡ることがあきらかにされている（五十嵐・1977）。五十嵐（1977）によると縄文時代早期後半には同遺跡の周辺にクリが生育していたようで、縄文時代のかなり古い頃にすでにクリが北海道に上陸していたのは確かなようである。しかし、遺跡から堅果や炭化材が出土して先史時代の人々に利用されたことが明らかになるのは、南茅部町ハマナス野遺跡の住居址（縄文時代中期初頭）からのクリの堅果が出土するのを待たねばならない（南茅部町教育委員会・1984）。クリの堅果・堅果皮はその後中期末から続縄文時代までの石狩低地帯以西の遺跡から発見され、先史時代の人々の食料になっていたことが報告されている。（山田・1986）。クリの花粉の存在は遺跡近くにクリが生育していたことを示すものであり、新道４遺跡では今のところ縄文時代前期末の遺物包含層からクリの遺体は発見されていないが、食用するにあたって特別な処理を必要としない堅果が食料になっていたと考えてもいいであろう。

また、遺跡の周囲にはコナラ亜属のミズナラ・コナラがクリよりも多く生育していたことは、花粉の出現数から推定できる。これらの樹木の堅果も食用となるが、食用するにあたっては堅果に含まれているアク（タンニン）を除去しなければならない。コナラ亜属のドングリからアクを抜く技術が開発されたのは、東北地方北半でその時期は縄文時代前期頃と推定されている（渡辺・1985）。しかし、札幌市のＳ－256遺跡や豊頃町の高木１遺跡の縄文時代早期の住居址からミズナラの炭化した堅果が出土していて（上野・1975、北川ほか・1984）、食用にされた時期はさらに古く遡る可能性が残されている。その技術が東北地方北半で開発されたのが確実であれば、土器文化圏を共有していた北海道にも伝播していたと考えられるし、縄文時代早期にすでに食用になっていたことが明白であることからすれば、アク抜き技術の存在の有無に関わらずに、前期にはオニグルミ・クリとともに食用にされていたと考えられるのである。

だが、なぜか縄文時代前・中期の遺跡からはドングリが食料になっていたことを示す証拠は

得られていないのである。

いずれにしても、新道４遺跡の周辺には温暖な気候を背景として、縄文時代前期末までには食用可能な堅果が実るミズナラ・コナラ・カシワ・オニグルミ・クリ・ハシバミ（ツノハシバミ）が分布していて、これらの堅果が時には食事のメニューに加わっていたのは確かであろう。また、堅果や花粉は確認されていないが、トチノキのアク抜き技術が開発されたとされている縄文時代中期以降には（渡辺・1985）、複雑なアク抜き処理をしてトチノキの堅果も食料として利用されていた可能性が残されているのである。

引用・参考文献

千野裕道（1984）「縄文時代のクリ」『歴史公論』第10巻第6号雄山閣

千葉英一（1986）「自然遺物」『木古内町建川１・新道４遺跡』北海道埋蔵文化財センター

五十嵐八枝子（1977）「函館空港遺跡周辺の表層地質と花粉分析」『函館空港第４地点・中野遺跡』函館市教育委員会

北川芳男他９名（1984）「中川郡豊頃町高木１遺跡第４次発掘調査概報」『北海道開拓記念館調査報告書』第23号

南茅部町教育委員会（1984）『ハマナス野遺跡Ｘ』

西田正規（1980）「縄文時代の食料資源と生業活動」『季刊人類学』11－３

塚田松雄（1981）「過去一万二千年間―日本の植生変遷史Ⅱ、新しい花粉帯」『日本生態学会誌』Vol. 31, No. 2

上野秀一（1975）「植物遺体について」『札幌市文化財調査報告書Ｓ－256遺跡』札幌市教育委員会

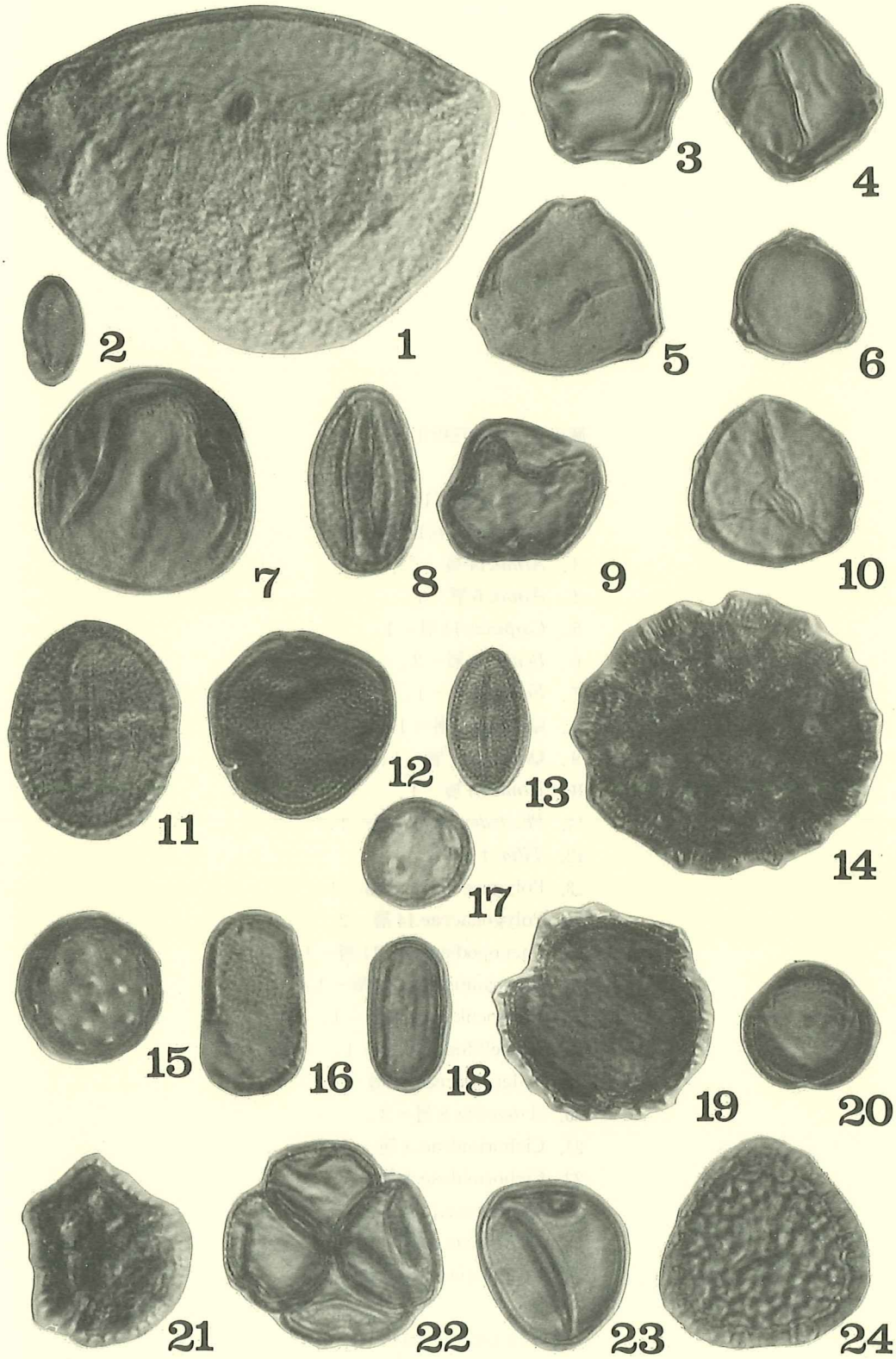
山田悟郎・矢野牧夫・三野紀雄・瀬川秀良・尾上博章（1979）「北海道渡島半島の第四系より産出する植物化石Ⅲ」『北海道開拓記念館研究年報』第７号

山田悟郎（1986）「北海道における先史時代の植物性食料について」『北海道考古学』第23輯

渡辺　誠（1985）「縄文時代の食生活」『考古学ジャーナル』No. 256

新道４遺跡から産出した花粉・胞子

L-66グリッド	4-1	4-2	4-3	4-4	4-5	6-1	6-2	6-3	6-4	8-1	8-2	8-3	8-4	11-1	11-2	11-3	11-4	13-1	13-2	14-1	14-2	
Abies	8	6	4	5	3	3	—	2	1	—	—	1	—	—	1	1	—	2	2	3	—	
Picea	3	2	2	3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
Pinus	2	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
Tsuga	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	1	—	
Cryptomeria	1	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
Salix-Populus	1	2	—	—	—	2	1	8	9	6	2	6	5	8	5	1	1	—	3	4	7	
Juglans-Pterocarya	6	6	1	1	—	4	—	—	1	—	2	4	8	6	1	1	1	2	9	11	15	
Carpinus	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2	—	1	—	—	—	—	3	6	3	
Corylus	1	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	2	2	3	
Betula	3	2	3	3	2	2	2	2	3	1	4	2	7	6	2	1	—	1	1	3	2	
Alnus	16	9	5	5	3	14	5	6	5	11	16	14	13	14	15	12	12	14	21	26	22	
Castanea	5	5	3	1	—	6	4	8	2	6	2	3	2	5	3	—	1	1	4	8	2	
Fagus	14	11	6	9	1	26	23	22	24	19	15	26	21	28	21	19	21	16	27	32	28	
Quercus	41	32	18	16	6	42	31	44	49	28	27	46	48	46	42	33	39	32	39	58	63	
Ulmus	18	4	3	5	1	14	5	8	5	12	9	11	9	13	11	6	5	9	12	9	14	
Morus	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	3	1	
Magnolia	—	—	1	—	—	2	—	1	—	—	—	1	—	1	—	—	1	—	—	2	1	
Hydrangea	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	1	—	—	—	—	—	—	1	
Rubus	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	1	—	—	—	—	—	1	1	
Phellodendron	1	2	1	—	—	2	—	1	—	1	—	1	1	1	—	—	—	—	—	1	1	
Rhus	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	1	2	5	
Ilex	1	—	—	—	—	1	—	—	—	1	—	1	—	—	—	1	—	—	1	3	3	
Acer	1	3	1	2	1	8	2	4	3	—	1	4	6	4	4	1	2	1	5	7	8	
Tilia	11	5	2	3	—	3	1	3	1	4	3	2	5	4	3	1	2	2	7	8	4	
Araliaceae	8	2	3	5	—	4	5	6	3	—	2	5	6	2	3	1	1	—	3	5	7	
Fraxinus	1	—	—	—	—	2	—	1	—	—	—	1	1	—	—	—	—	—	1	2	4	
Polygonaceae	22	35	31	23	3	158	24	11	23	6	16	27	25	12	18	3	23	19	33	51	58	
Chenopodiaceae	—	—	—	—	—	1	—	1	—	—	—	1	—	2	—	—	—	—	—	—	—	
Caryopyllaceae	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	1	—	—	—	—	—	—	—	—	
Ranunculaceae	14	11	13	7	1	26	23	11	19	44	8	12	18	6	12	1	5	2	22	11	28	
Cruciferae	2	—	1	—	—	1	1	—	1	—	—	1	3	1	—	1	1	1	1	2	1	
Rosaceae	1	—	2	—	—	1	1	1	—	—	1	—	—	—	—	1	—	—	1	1	1	
Leguminosae	1	—	1	—	—	1	—	—	—	—	—	—	2	1	—	—	—	—	1	—	1	
Balasaminaceae	1	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	1	1	—	—	—	—	2	3	1	
Guttiferae	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	1	—	1	
Umbelliferae	6	5	11	3	1	12	9	2	8	2	7	4	6	11	12	2	—	—	2	16	21	
Labiatae	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	2	1	
Valerianaceae	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	1	3	—	
Artemisia	28	36	21	13	2	14	11	16	31	61	57	60	55	42	22	2	11	14	21	24	33	
Carduoideae	16	24	38	7	2	42	44	61	64	15	16	8	14	10	13	4	27	16	27	38	42	
Cichorioideae	3	3	5	2	1	3	6	10	9	2	9	14	9	1	1	1	9	6	9	18	21	
Typhaceae	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	1	—	—	—	—	—	2	5	1	
Gramineae	158	131	81	43	28	166	118	71	87	124	113	151	125	118	89	23	41	38	132	168	179	
Cyperaceae	3	—	—	—	—	3	—	—	—	1	3	6	2	3	1	2	—	2	9	12	22	
Liliaceae	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	1	1	—	1	—	—	1	2	3	
Lysichiton	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	2	5	
Equisetaceae	2	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	1	1	1	—	—	1	4	7	
Lycopodiaceae	2	—	3	1	—	1	2	1	1	5	2	1	4	4	3	2	—	2	1	9	3	
Osumundaceae	1	1	—	—	—	3	1	2	3	8	3	8	7	11	4	3	5	1	5	2	12	
Monolate type spore	67	24	28	19	14	62	37	6	12	15	29	32	54	64	42	33	47	26	45	51	54	
Trilite type spore	1	3	—	1	—	2	1	—	—	1	1	2	1	1	1	—	1	—	4	3	3	
Total grains	472	368	288	177	69	634	357	309	364	373	349	461	364	432	330	159	256	207	465	624	693	（個）
同定不能花粉	2	1	1	3	1	1	3	7	1	3	4	2	1	6	4	3	5	1	1	9	6	（個）


1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24

産出した主な花粉化石

1．*Picea,* 4 層－１、
2．*Salix-Populus,*14 層－２、
3．*Alnus,*14 層－２、
4．*Alnus,* 6 層－１、
5．*Carpinus,*14 層－１、
6．*Betula,* 8 層－２、
7．*Faqus,* 6 層－１、
8．*Quercus,* 6 層－１、
9．*Quercus,*14 層－１、
10．*Ulmus,* 4 層－１、
11．*Phellodendron,* 4 層－２、
12．*Tilia,* 4 層－１、
13．Polygonaceae、 6 層－１、
14．Polygonaceae,14 層－２、
15．Chenopodiaceae、11 層－１、
16．Balasaminaceae,14 層－１、
17．Ranunculaceae, 8 層－１、
18．Umbelliferae,14 層－１、
19．Valerianaceae,14 層－１、
20．*Artemisia,* 8 層－３、
21．Cichorioideae, 8 層－３、
22．Cichorioideae, 8 層－３、
22．Typhaceae,14 層－１、
23．Gramineae, 4 層－１、
24．Lycopodiaceae,14 層－１

（倍率は 800～1,000 倍）

７．まとめ

今回の調査結果を挙げ、まとめとする。

１．後期後葉の出入口部分のある被火災住居跡（ＣＨ－２）について

後期後葉の堂林式土器を出土した被火災住居跡（ＣＨ－１・２）を２軒検出したが、全体のプランのわかるのは、ＣＨ－２の１軒である。道南部において後期後葉の住居跡で、出入口施設のわかる例は今回初めてである。また被火災住居跡なので、この時期の住居の上屋構造や土器、石器等の組成を考える上で貴重である。上屋構造の復原については奈良国立文化材研究所の宮本長二郎氏の所見を載いている。

平面プランと付属施設について

縄文時代中期中葉の榎林式土器の時期の住居跡を壊して構築している。確認面において地山の第Ⅵ層に約 70 cm 程の掘り込みが認められた。平面形はほぼ長軸を南北にとる楕円形であるが、東側の中央部が竪穴内側に向って傾斜した張り出し部をもつ。張り出し部は踏み固められ締っている。それに沿って両側に土留のために棒状、板状のものを埋込んだと思われる溝状ピットがある。これらのことから、この張り出し部を出入口施設と考えた。柱穴は竪穴内で６個検出されている。主柱穴は４本からなり、住居跡のほぼ中央部で台形状に配位されている。炉は地床炉で、中央よりわずかに出入口部分寄りにある。竪穴内の壁際からピットが２基検出されている。出入口施設の正面と南側にある。

遺物の出土状態について

本住居跡は床面からの出土遺物が多く、後期後葉の土器組成、石器組成の一部を示しているものと思われる。床面出土の土器には浅鉢形土器と小型台付土器、口縁部欠失土器の３個体がある。小型台付土器は出入口施設際の西側から、浅鉢と口縁部の欠失した土器は南側壁際から出土している。石器は石鏃を除く主要な石器が出土している。石皿、台石、たたき石は出入口施設付近からまとまって、ドリル・スクレイパー、磨製石斧・コアは南側壁際から出土している。また、東側壁際から編物状炭化物（アンペラ）が出土している。

小　括

北海道において、本竪穴に類似した出入口部と思われる張り出し部をもつものは少ない。千歳市美沢１遺跡で、溝状ピットはないが、張り出し部分、地床炉をもつものがある（ＦＨ－16）。時期は本竪穴と同じ後期後葉である。登別市川上Ｂ遺跡Ｃ地区で張り出し部をもたず、壁際に２個の溝状ピット・石組炉の抜き取り痕のある住居跡（ＣＨ－70）が検出されている。青森県において溝状ピットをもつ例として、鶉窪遺跡、八戸市丹後谷地遺跡、馬場瀬遺跡などがある。出入口施設と想定される溝状ピットをもつ住居跡は、中期末葉から後期末葉にかけて関東・東北においてみられる。これらには平面形が円形や楕円形のもの、炉は石組み炉や地床炉、柱穴は４本や６本のものなどがあり、平面形態、炉のあり方、柱穴の配置等において、時期的、地域的に変化が見られそうである。本住居跡では、出入口部分付近から石皿、台石、たたき石が、南側壁際からスクレイパー、ドリル、磨製石斧、コアが出土している。このことから、本竪穴

住居跡内での出入口施設付近と南側部分での作業内容の違いを示していることが想定される。

２．遺物について

(1)　前期末葉のⅡ群Ｂ類土器の集中とそれに伴う漆器と木製品の出土状況について

調査区東側の斜面下の沢底、Ｋ－66、67からⅡ群Ｂ類土器が集中して出土した。土器の出土層位は、厚い砂礫層下位の黒色粘土質土層である。土器は、多くのものが潰れた状態でまとまって出土したことから、半完形ないしは大破片のものが多い。これらの口頸部文様帯には、縄線文が施されている。口頸部の幅の狭いものには、数段の平行する縄線が施されている。口頸部の幅の広いものには矢羽状、三角入子状等の縄線文が施されている。体部の文様には、撚糸文と多軸絡条体の回転文があり、両者は共伴して出土している。この集中地点の斜面上の平坦面には同じ文様構成をもつ土器が出土した住居跡があり、この時期の土器捨場と思われる。

Ⅱ群Ｂ類土器の集中に挟在して、赤色盆状の漆器が出土している。大きさは現存径40×22 cmである。縄文時代前期の漆器としては福井県鳥浜貝塚のものが知られている程度で類例も少ない。また周辺の同層から石斧柄、両端に切断痕のある半截された丸太材、加工痕のある材を含む96点の材が出土している。これらは北海道の縄文時代前期末葉の円筒土器文化を考える上で貴重なものである。

(2)　後期前葉の土器について

本地区の沢の西側斜面において、Ⅳ群A_2類土器が集中して出土している。主体はトリサキ式である。類似する資料を出している遺跡として、上ノ国町四十九里沢、尻岸内古武井９遺跡、福島町舘崎、知内町湯の里１遺跡、乙部町栄浜遺跡、登別市川上Ｂ遺跡Ｃ地区等がある。湯の里１遺跡を除きほとんど破片資料である。本地区出土資料の体部文様には、横位の「Ｓ」字状、「Ｊ」状、波状等の文様が入組文的に横位に展開されるものと、「Ｃ」字状、「Ｊ」字状、「Ｓ」字状、渦巻状等の文様が入組文的に縦位に展開されるものとがある。本地区の復原資料は、湯の里１遺跡のものと器形・文様構成、文様要素において類似するものが多いが、湯の里１遺跡の資料ではみられなかった。地文上に体部文様として「Ｓ」字状、波状の入組文が横位に展開されているものが出土している。この資料を含め、体部文様の展開方向の違いや文様要素の違いが時間差を示すものなのか、文様のバリエーションとして共存するものなのか摑えることが出来なかった。

大津式は文様構成、文様要素において出土地点に大きく異にして出土している。昭和60年度の本遺跡Ｂ地区盛土地区で盛土２類とされたものに類似する。口縁部に弧状の貼付帯をもち、体部に櫛状工具による条線文、または縄文が施され、太い沈線で縁取りが加えられたものが、沢の西側斜面から沢底にかけて出土している。比較的幅の広い無文の口頸部をもつ。体部にカギの手状、雷文状、カニのハサミ状、入組文状などの曲線的な文様をもち、盛土３～５類とされたものに類似するものが東側平坦部から東側斜面にかけて多く出土している。これは大津式の中でも文様構成、文様要素によって明確に時間差があることを示しているものと考えられる。

(3)　晩期中葉の土器について

調査区東側平坦面から斜面肩部分にかけて、Ⅴ群Ｂ類が出土している。器種には、浅鉢形、深銭形、皿形、壺形、台付土器がある。粗製のものが多い。体部文様のわかるものは少ないが、雲形文、横位連繋入組文などがある。口頸部は強く内湾するものが多い。頸部は無文帯のものと３～４条の沈線が施されたものとがある。また三角形の刺突列が頸部無文帯下端や頸部沈線内に加えられているものもある。口頸部下端直下には、頸部沈線施文前に施された２個一対の粘土瘤、刻み目のある粘土瘤が施されているものが多い。これらの特徴は札苅Ⅱ群土器の古い段階のものに共通するもので、この時期の混入の少ないまとまった良好な資料である。

(4)　石器について

遺構、包含層から多種多様な石器が得られている。被火災住居跡から後期末葉の堂林式土器に伴う石器群の一部が明らかになったものと思われる。包含層においては、一部の特殊な石器を除き土器と石器の対応関係を把握することが出来なかった。ＣＨ－７覆土・包含層出土の石器の中には、穿孔をもち、形態が半月形になると思われるものがある。その完形品の形態は極めて「石包丁」に類似しているが、しかし、北海道において類例がなく、石質が砂岩であること、刃部加工が不明瞭であること、石包丁に伴ないそうな土器群が認められないことなどから石鋸として扱った。今後、資料の増加をまって検討したい。

(5)　木製品について

本地区、沢部分のⅡ群Ｂ類土器（縄文時代前期末葉）集中地点周辺の同一層から出土したものである。木製品、加工痕のある材を含む96点の材が出土している。形態は、石斧柄と思われるもの、杭状、棒状、割板状のものがある。大きさは、長さ220×径30 cmの丸太材を半截した大型のものから、長さ10 cm程度の小破片まである。石斧柄は固定部を欠失するが、ほぼ完形に近いものである。接合関係が認められる大型の丸太材も一例出土している。半截技術を知る上で貴重なものである。ほとんどのものが現在、ポリエチレングリコール含浸による保存処理中のため本報告に掲載できなかった。真空凍結乾燥による保存処理が終了した４点のみ掲載した。

引用・参考文献

青森県教育委員会（1974）『中の平遺跡発掘調査報告書』青森県埋蔵文化財調査報告第25集
〃　（1983）『鶉窪遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告第76集
〃　（1981）『山崎遺跡』青森県埋蔵文化調査報告第68集
〃　（1981）『馬場瀬遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告第70集
秋元信夫ほか（1984）『天戸森遺跡』鹿角市教育委員会
石川政治（1963）「函館天祐寺貝塚」『石器時代』６.
石本省三ほか（1983）『添山』上磯町教育委員会
今井富士雄・磯崎正彦（1968）「十腰内遺跡」『岩木山－岩木山麓古代遺跡発掘調査報告書』
江坂輝彌（1970）『石神遺跡』（ニユー・サイエンス社）
大島直行・瀬川拓郎（1982）『札内台地の縄文時代集落址』登別市教育委員会
大沼忠春ほか（1976）『元和』乙部町教育委員会
〃　（1977）『栄浜遺跡』乙部町教育委員会
大沼忠春（1981）「北海道中央部における縄文時代中期から後期初頭の編年について」『考古学雑誌』

66－４
大場利夫ほか（1958）『サイベ沢遺跡』市立函館博物館
大場利夫・蛯子千代志（1965）「函館郊外煉互台遺跡」『北方文化研究報告』20
小笠原忠久（1984）『古武井９遺跡』尻岸内町教育委員会
〃　（1984）「北海道西南部における縄文時代前・中期の集落」『北海道の研究』１
岡本勇ほか（1979、1981、1983、1984）『鳥浜貝塚』福井県教育委員会
久保泰ほか（1979）『鬼沢Ｂ遺跡・棚石遺跡調査報告』松前町教育委員会
倉谷泰賢・小笠原忠久（1972）『大安在Ｂ遺跡』上ノ国町教育委員会
斉藤傑ほか（1974）『松前町大津遺跡発掘報告書』松前町教育委員会
西連寺建（1976）『松前町原口遺跡発掘調査報告書』松前町教育委員会
佐藤忠雄（1975）『鳥崎遺跡』森町教育委員会
沢四郎（1962）『東釧路』釧路市教育委員会
清水和男・佐藤忠雄（1975）『舘崎』福島町教育委員会
鈴木克彦（1984）『亀ヶ岡石器時代遺跡』青森県立郷土館
芹沢長介（1979）『聖山』東北大学文学部考古学研究会
其田良雄（1974）『上ノ国町四十九里沢Ａ遺跡』上ノ国町教育委員会
高橋正勝（1966）「函館市見晴町遺跡の資料」『北海道青年人類科学研究会会誌』８
高橋正勝（1974）「知内町涌元遺跡出土の土器と北海道西南部の縄文時代後期前半について」『北海道の文化』31
田村文夫（1985）「Ｖ、住居空間と考古学」『縄文集落』ニユー・サイエンス社、考古学ライブラリー36
千代肇（1972）『涌元遺跡』知内町教育委員会
千代肇・石本省三（1981）『尾白内一続縄文遺跡の調査研究』
角田文衛（1939）「陸奥榎林遺跡の研究」『考古学論叢』10
中村斉・野村崇（1976）『札苅』北海道開拓記念館
名取武光ほか（1958）「入江貝塚」『北方文化研究報告』13
野村崇・宇田川洋（1967）『長沼町幌内堂林遺跡調査報告』長沼町教育委員会
野村崇ほか（1974）『札苅遺跡』木古内町教育委員会
八戸市教育委員会（1986）『丹後谷地遺跡』
北海道開拓記念館（1980）『熊野喜蔵氏資料目録Ⅱ』（鳥崎川遺跡）
北海道教育委員会（1978）『美沢川流域の遺跡群Ⅱ』
北海道埋蔵文化財センター（1983）『登別市川上Ｂ遺跡』
〃　（1985）『湯の里遺跡群』
〃　（1986）『登別市川上Ｂ遺跡Ｃ地区』
〃　（1986）『上ノ国町小岱遺跡』
〃　（1986）『知内町湯の里３遺跡』
〃　（1986）『木古内町建川１・新道４遺跡』
三浦考一・柴田信一（1983）『八雲町栄浜１遺跡発掘調査報告書』八雲町教育委員会
峰山巌ほか（1974）『松前町高野遺跡発掘調査報告』松前町教育委員会
峰山巌・大島直行（1975）『森越』知内町教育委員会
〃　（1979）『知内川中流域の縄文時代の遺跡』知内町教育委員会
三宅徹也（1982）「円筒土器」『縄文文化の研究』３
村越潔（1974）『円筒土器文化』雄山閣　考古学選書10
森田知忠（1967）『サイベ沢Ｂ遺跡調査報告』市立函館博物館、亀田町教育委員会
森田知忠・中田幹雄・山田悟郎ほか（1974）『西股』北海道第四紀研究会
森田知忠（1981）「北海道」『縄文土器大成』３、講談社
山岸英夫（1983）「白坂第３地点の調査・第14類土器総括」『白坂』松前町教育委員会
山内清男・磯崎正彦（1964）『原始美術』１　講談社
吉崎昌一（1965）「縄文文化の発展と地域性、北海道」『日本の考古学』Ⅱ
吉崎昌一ほか（1979）『聖山』七飯町教育委員会

Ｃ地区焼土一覧表　　表Ⅷ－１

焼土番号	位　　置	規模(長軸×短軸×厚さ)	焼土番号	位　　置	規模(長軸×短軸×厚さ)
ＣＦ－１	O　—63	1.74 × 0.75 × 0.08	ＣＦ－29	N・O—66・67	1.00 × 0.47 × —
—２	〃	0.67 × 0.52 × 0.05	—30	M　—67	0.48 × 0.42 × —
—３	N　—63	0.89 × 0.84 × 0.09	—31	M　—66・67	0.60 × 0.37 × —
—４	O　—64	0.62 × 0.52 × 0.18	—32	〃	0.42 × 0.40 × —
—５	O　—69	0.69 × 0.61 × 0.06	—33	O　—65	0.95 × 0.64 × —
—６	〃	0.97 × 0.48 × 0.03	—34	L　—69	0.85 × 0.45 × 0.16
—７	〃	0.78 × 0.54 × 0.11	—35	〃	0.20 × 0.16 × —
—８	〃	0.32 × 0.28 × 0.11	—36	L　—68	1.18 × 0.70 × 0.10
—９	〃	0.52 × 0.41 × 0.12	—37	〃	0.80 × 0.52 × —
—10	N　—69	0.86 × 0.53 × 0.12	—38	〃	0.33 × 0.29 × —
—11	O　—68	0.85 × 0.46 × 0.10	—39	〃	0.31 × 0.25 × —
—12	M　—67	0.19 × 0.18 × —	—40	〃	0.48 × 0.41 × —
—13	M　—68	0.23 × 0.22 × —	—41	L・M—68	0.82 × 0.55 × —
—14	M　—67・68	0.51 × 0.21 × —	—42	〃	1.15 × 0.66 × —
—15	M　—67	0.64 × 0.33 × —	—43	M　—65・66 N　—65	0.78 × 0.28 × —
—16	M・N—68	1.55 × 0.76 × 0.08	—44	M　—67	0.37 × 0.20 × —
—17	O　—68	0.16 × 0.13 × —	—45	N　—66	1.43 × 1.05 × 0.10
—18	N　—68	0.36 × 0.24 × —	—46	〃	0.21 × 0.09 × —
—19	N　—67・68	1.01 × 0.71 × —	—47	M　—67	0.32 × 0.26 × —
—20	N　—67	0.86 × 0.56 × —	—48	O　—68	0.58 × 0.43 × —
—21	N　—69	0.58 × 0.38 × —	—49	〃	0.25 × 0.16 × —
—22	N　—68	0.27 × 0.23 × —	—50	N　—68	0.51 × 0.37 × —
—23	M・N—68	0.52 × 0.40 × —	—51	O　—65	0.50 × 0.37 × 0.08
—24	N　—68	0.80 × 0.64 × —	—52	〃	0.25 × 0.21 × 0.04
—25	M・N—68	0.48 × 0.35 × —	—53	〃	(0.38)×(0.40)×(0.08)
—26	O　—65	0.42 × 0.21 × —	—54	N　—68	0.44 × 0.44 × —
—27	O　—66	0.34 × 0.25 × —	—55	J　—62・63	4.10 × 2.80 × —
—28	〃	0.78 × 0.55 × 0.04			

包含層出土遺物一覧表　　表Ⅷ－２

名　称	数　量	名　称	数　量
土　器	138,263	石　錘	5
石　鏃	357	石　冠	1
ドリル	38	石　刀	3
ポイント・ナイフ	78	擦切痕ある礫	5
つまみ付ナイフ	64	フレイク	32,660
スクレイパー	781	Ｕフレイク	2,175
楔形石器	17	Ｒフレイク	433
三脚石器	3	コ　ア	2,189
トランシェ様石器	4	礫△	1,102
異形石器	2	焼　礫	22
磨製石斧	84	礫	69,156
礫　器	5	石器計	110,367
石　鋸	10	土製品	55
すり石	385	石製品	17
たたき石	235	木器・木製品	96
くぼみ石	116	漆器・漆塗製品	1
砥　石	114	アスファルト塊	1
石皿・台石	323	合　計	248,800

全遺構出土遺物一覧表　　表Ⅷ－３

名　称	数　量		名　称	数　量	
	覆　土	床　面		覆　土	床　面
土　器	7,794	458	石皿・台石	27	7
石　鏃	24		石　錘	2	
ドリル	5		フレイク	1,625	29
ポイント・ナイフ	7		Ｕフレイク	169	10
つまみ付ナイフ	6		Ｒフレイク	18	
スクレイパー	102	8	コ　ア	109	2
楔形石器	1		礫△	412	8
磨製石斧	15	1	焼　礫	6	
石　鋸	1		礫	4,252	36
すり石	52	3	石器計	6,866	110
たたき石	21	4	土製品	1	1
くぼみ石	11	2	石製品	1	
砥　石	1		合　計	14,662	569

各遺構出土遺物一覧表　　表Ⅷ－４－(1)

遺構番号	名称	数量 覆土	数量 床面
ＣＨ－１	土器	1,052	2
	石鏃	2	
	ポイント・ナイフ	1	
	つまみ付ナイフ	2	
	スクレイパー	4	
	磨製石斧	1	
	すり石	1	
	石皿・台石	1	
	フレイク	239	1
	Ｕフレイク	12	
	Ｒフレイク	4	
	コア	27	
	礫△	77	
	礫	439	1
	石器計	810	2
ＣＨ－２	土器	1,699	114
	石鏃	12	
	ドリル	2	
	ポイント・ナイフ	1	
	スクレイパー	14	4
	磨製石斧	3	1
	すり石	6	
	たたき石	5	2
	くぼみ石	3	1
	石皿・台石	6	4
	フレイク	547	17
	Ｕフレイク	31	4
	Ｒフレイク	2	
	コア	30	1
	礫△	116	3
	礫	1,342	16
	石器計	2,120	53
	土製品	1	
ＣＨ－３	土器	173	
	石鏃	3	
	スクレイパー	3	
	磨製石斧	2	
	たたき石	2	
	石皿・台石	1	
	フレイク	53	
	Ｕフレイク	10	
	礫△	9	
	礫	105	
	石器計	188	
ＣＨ－４	土器	254	2
	スクレイパー	1	
	磨製石斧	1	
	すり石	1	2
	たたき石	2	1
	くぼみ石	1	1
	石皿・台石	1	
	フレイク	50	
	Ｕフレイク	5	1
	Ｒフレイク	1	
	コア	2	
	礫△	9	4
	礫	102	
	石器計	176	9
ＣＨ－５	土器	2,298	182
	石鏃	4	
	ポイント・ナイフ	3	
	つまみ付ナイフ	1	
	スクレイパー	25	
	磨製石斧	3	
	すり石	22	
	たたき石	4	
	くぼみ石	3	
	砥石	1	
	石皿・台石	9	
	石錘	1	
	フレイク	346	5
	Ｕフレイク	33	
	Ｒフレイク	3	
	コア	22	
	礫△	96	
	焼礫	2	
	礫	1,058	5
	石器計	1,636	10
ＣＨ－６	土器	743	
	石鏃	1	
	ドリル	1	
	ポイントナイフ	1	
	つまみ付ナイフ	3	
	スクレイパー	28	
	磨製石斧	2	
	すり石	9	
	たたき石	2	
	くぼみ石	2	
	石皿・台石	2	
	フレイク	157	
	Ｕフレイク	44	
	Ｒフレイク	5	
	コア	17	
	礫△	55	
	焼礫	3	
	礫	612	
	石器計	944	
	石製品	1	
ＣＨ－７	土器	241	
	石鏃	1	
	スクレイパー	4	
	楔形石器	1	
	磨製石斧	1	
	石鋸	1	
	すり石	1	
	たたき石	2	
	フレイク	41	
	Ｕフレイク	7	
	コア	1	
	礫△	6	
	礫	72	
	石器計	138	

表Ⅷ－４－(2)

遺構番号	名称	数量 覆土	数量 床面
ＣＨ－８	土器	72	
	ポイント・ナイフ	1	
	スクレイパー	2	
	すり石	1	
	フレイク	12	
	Ｕフレイク	1	
	Ｒフレイク	1	
	コア	1	
	礫△	4	
	礫	47	
	石器計	70	
ＣＨ－９	土器	101	1
	つまみ付ナイフ	1	
	スクレイパー	2	
	すり石	1	
	たたき石	1	
	くぼみ石	1	
	フレイク	3	
	Ｕフレイク	3	
	礫△	2	
	礫	13	
	石器計	27	
ＣＨ－10	土器	487	112
	ドリル	2	
	スクレイパー	6	4
	磨製石斧	1	
	すり石	6	
	くぼみ石	1	
	石皿・台石	5	3
	フレイク	60	3
	Ｕフレイク	12	2
	Ｒフレイク	2	
	コア	4	1
	礫△	23	1
	礫	243	13
	石器計	365	27
ＣＨ－11	土器	226	29
	スクレイパー	7	
	すり石	1	
	たたき石		1
	フレイク	43	2
	Ｕフレイク	5	1
	礫△	5	
	礫	54	
	石器計	115	4
ＣＨ－12	土器	68	
	スクレイパー	1	
	フレイク	10	1
	Ｕフレイク	1	1
	礫△	1	
	礫	1	
	石器計	14	2
ＣＨ－13	土器	17	15
	スクレイパー	3	
	たたき石	2	
	フレイク	9	

遺構番号	名称	数量 覆土	数量 床面
ＣＨ－13	焼礫	1	
	礫	5	
	石器計	20	
	土製品		1
CTP-1	土器	47	
	たたき石	1	
	フレイク	4	
	Ｕフレイク	2	
	礫△	3	
	礫	40	
	石器計	50	
ＣＰ－４	土器	40	1
	フレイク	4	
	コア	1	
	礫△	2	
	礫	34	
	石器計	41	
ＣＰ－５	土器	37	
	フレイク	1	
	礫	3	
	石器計	4	
ＣＰ－７	土器	13	
	フレイク	3	
	Ｕフレイク	1	
	礫△	2	
	礫	25	
	石器計	31	
ＣＰ－８	土器	6	
	すり石	3	
	フレイク	2	
	Ｕフレイク	2	
	礫	2	
	石器計	9	
ＣＰ－10	土器	26	
	フレイク	2	
	Ｕフレイク		1
	礫△	2	
	礫	13	
	石器計	17	1
ＣＰ－11	土器	52	
	スクレイパー	1	
	フレイク	4	
	コア	2	
	礫	7	
	石器計	14	
ＣＰ－12	土器	10	
	フレイク	1	
	コア	1	
	礫	2	
	石器計	4	
ＣＰ－13	土器	56	
	石鏃	1	
	フレイク	7	
	礫	6	
	石器計	14	

表Ⅷ－４－(3)

遺構番号	名称	数量 覆土	数量 床面
ＣＰ－14	土器	11	
	すり石		1
	フレイク	4	
	コア	1	
	礫	4	1
	石器計	9	2
ＣＰ－16	土器	6	
	フレイク	1	
	礫	4	
	石器計	5	
CSP-1	礫	2	
CSP-9	土器	1	
	フレイク	2	
	礫	3	
	石器計	5	
CSP-13	土器	1	
	礫	1	
CSP-17	土器	1	
CSP-22	磨製石斧	1	
CSP-25	土器	2	
	フレイク	1	
CSP-26	土器	2	
	スクレイパー	1	
	フレイク	1	
	石器計	2	
CSP-32	土器	5	
	フレイク	1	
	礫	2	
	石器計	3	
CSP-42	土器	12	
CSP-53	土器	2	
	礫	1	
CSP-55	土器	2	
	礫	3	
CSP-57	土器	3	
CSP-59	土器	1	
	石皿・台石	1	
CSP-60	土器	1	
	フレイク	1	
	礫	1	
	石器計	2	
CSP-61	土器	2	
	フレイク	1	
CSP-63	土器	1	
CSP-64	フレイク	13	
CSP-65	土器	3	
	礫	1	
CSP-67	土器	1	
CSP-69	土器	1	
	フレイク	1	
	礫	2	
	石器計	3	
CSP-72	土器	1	
	石皿・台石	1	
CSP-74	フレイク	1	
CSP-76	土器	7	
CSP-78	土器	2	
	礫	2	
CSP-79	土器	2	
CSP-10	土器	5	
CSP-101	土器	1	
	礫	1	
	合計	14,662	569

遺構出土掲載石器等一覧表

表Ⅷ－５－(1)

遺構	図一番号	種別	層	重量	石材
CH-1	7－1	石鏃	覆土	1.3	Sh
	－2	〃	〃	1.6	〃
	－3	ポイント	〃	5.4	〃
	－4	つまみ付ナイフ	覆14	15.2	〃
	－5	〃	覆土	4.1	〃
	－6	スクレイパー	〃	27.3	〃
	－7	〃	〃	82.0	〃
	－8	磨製石斧	覆14	110.5	Gr. Mud.
	－9	台石	覆土	1,140	Sa
CH-2	13－1	石鏃	Ⅰ	0.7	Ob
CH-2	13－2	石鏃	Ⅲb	0.5	Sh
	－3	〃	Ⅰ	1.1	〃
	－4	〃	覆1	0.7	Ob
	－5	〃	覆土	2.7	Sh
	－6	〃	Ⅰ	3.1	〃
	－7	〃	覆土	3.1	〃
	－8	ポイント	〃	5.3	〃
	－9	ドリル	〃	6.5	〃
	－10	〃	〃	5.7	〃
	－11	スクレイパー	〃	12.3	〃

表Ⅷ－５－(2)

遺構	図―番号	種別	層	重量	石材
CH-2	13―12	スクレイパー	Ⅲb	65.4	Sh
	―13	〃	床	92.4	〃
	―14	〃	〃	62.6	〃
	―15	〃	〃	79.1	〃
	14―16	〃	Ⅲa	60.6	〃
	―17	〃	覆10	36.2	〃
	―18	コア	床	138.8	〃
	―19	磨製石斧	覆土	47.4	Gr. Mud
	―20	〃	〃	54.3	〃
	―21	〃	床	8.3	Mud
	―22	すり石	覆10	870	And
	―23	たたき石	床	121.1	Gr. Mud
	―24	〃	〃	211.7	Sa
	―25	台石	〃	1,080	And
	―26	石皿	〃	8,700	〃
	―27	土製品	覆土	14.3	―
CH-3	16―1	石鏃	覆土	0.6	Sh
	―2	〃	Ⅲb	2.1	〃
	―3	〃	覆土	1.3	〃
	―4	磨製石斧	〃	79.1	Gr. Mud
	―5	たたき石	〃	119.9	Sh
CH-4	18―1	スクレイパー	床	37.7	Sh
	―2	Uフレイク	〃	4.8	〃
	―3	コア	柱穴15	68.3	〃
	―4	〃	柱穴20	411.4	〃
	―5	磨製石斧	覆土	55.6	Gr. Mud
	―6	すり石	炉	400.6	And
	―7	〃	〃	910	〃
	―8	たたき石	柱穴6	320.2	〃
	―9	〃	覆土	365.4	Che
	―10	〃	炉	284.2	〃
	―11	くぼみ石	〃	840	Tu
CH-5	25―1	石鏃	覆土	1.5	Aga
	―2	〃	覆10	2.8	Sh
	―3	ポイント	覆1	10.0	〃
	―4	つまみ付ナイフ	覆土	7.0	〃
	―5	スクレイパー	〃	5.4	〃
	―6	〃	〃	19.2	〃
CH-5	25―7	スクレイパー	覆1	34.3	Sh
	―8	コア	〃	160.4	〃
	―9	〃	覆3	41.5	〃
	―10	磨製石斧	覆土	99.8	Schi
	―11	〃	〃	110.1	Gr. Mud
	―12	〃	〃	49.4	〃
	26―13	すり石	覆1	800	And
	―14	〃	覆10	830	〃
	―15	〃	〃	540.2	Sa
	―16	〃	覆1	246.1	And
	―17	たたき石	覆10	332.6	Sa
	―18	〃	覆1	285.4	〃
	―19	くぼみ石	〃	214.7	Tu
	―20	二次加工ある礫	〃	42.6	Mud
	―21	砥石	覆3	384.4	Tu. Sa
	―22	石皿	覆土	1,200	And
CH-6	29―1	石鏃	覆土	1.8	Sh
	―2	ドリル	〃	1.7	〃
	―3	ポイント	〃	17.0	〃
	―4	つまみ付ナイフ	〃	17.4	〃
	―5	〃	覆4	138.6	〃
	―6	スクレイパー	覆土	24.3	〃
	―7	〃	〃	16.8	〃
	―8	磨製石斧	覆4	201.6	Sa
	―9	〃	覆土	128.4	〃
	30―10	すり石	覆3	469.2	And
	―11	〃	覆土	650	〃
	―12	〃	覆3	274.6	〃
	―13	〃	〃	559.0	Gn
	―14	石皿	〃	244.3	Tu
	―15	石製品	覆土	55.3	Tu. Sa
	―16	有孔石	〃	174.7	Sh
CH-7	33―1	石鏃	覆土	1.2	Sh
	―2	楔形石器	〃	19.8	〃
	―3	すり石	〃	379.0	And
	―4	たたき石	〃	288.6	Mud
	―5	〃	〃	581.8	Sa
	―6	石鋸	〃	27.9	Tu. Sa

表Ⅷ－５－(3)

遺構	図―番号	種別	層	重量	石材
CH-8	34―1	ポイント	覆土	9.2	Sh
	―2	スクレイパー	〃	22.2	〃
	―3	〃	〃	71.6	〃
CH-9	35―1	つまみ付ナイフ	覆土	18.1	Sh
	―2	すり石	〃	60.5	And
	―3	くぼみ石	〃	264.4	〃
CH-10	39―1	スクレイパー	床	34.5	Sh
	―2	〃	〃	13.8	〃
	―3	〃	〃	18.0	〃
	―4	〃	〃	49.6	〃
	―5	コア	〃	477.4	〃
	40―6	石皿・台石	炉	679	Sa
	―7	〃	〃	6,200	And
	―8	〃	〃	10,000	〃
CH-11	42―1	スクレイパー	柱穴	68.7	Sh
	―2	〃	〃	44.6	Sa
	―3	〃	覆土	13.1	Sh
CH-11	42―4	すり石	柱穴3	302.4	And
	―5	たたき石	炉	204.1	Sh
CH-12	44―1	スクレイパー	覆土	84.3	Sh
	―2	Uフレイク	床	27.2	〃
CH-13	46―1	スクレイパー	覆土	27.5	Sh
	―2	〃	〃	62.3	〃
	―3	〃	〃	9.6	〃
	―4	土製品	床	14.1	―
CTP-1	47―15	Uフレイク	覆土	10.7	Sh
	―16	〃	〃	16.5	〃
	―17	たたき石	〃	339.6	And
CP-8	49―5	すり石	覆土	589.6	And
	―6	〃	〃	458.4	〃
CP-11	49―10	コア	覆土	41.6	Sh
CP-13	50―9	石鏃	覆土	2.0	Sh
CP-14	50―4	すり石	底	587.6	And
	―5	コア	覆土	24.2	Sh

土器集中Ⅰ　掲載土器一覧表　　表Ⅷ－６

図―番号	分類	層	図―番号	分類	層	図―番号	分類	層	図―番号	分類	層
53-1	ⅢA	Ⅲd	53-4a	ⅡB	Ⅲd	54―7	ⅡB	Ⅲd	55―11	ⅢA	Ⅲd
2a	〃	〃	-4b	〃	〃	―8	〃	〃	―12	ⅡB	〃
-2b	〃	〃	54-5	〃	〃	―9	〃	〃	―13	〃	〃
-3	〃	〃	-6	〃	〃	55―10	〃	〃	―14	〃	〃

土器集中Ⅱ，Ｊ－62グリット掲載土器一覧表　　表Ⅷ－７－(1)

図―番号	分類	層	図―番号	分類	層	図―番号	分類	層	図―番号	分類	層
57―1	$ⅢB_1$	Ⅲb	59―21	$ⅣA_2$	Ⅲc	60―41	$ⅣA_2$	Ⅰ・攪乱	61―61	$ⅣA_2$	Ⅲa
―2	〃	〃	―22	〃	〃	―42	〃	〃	―62	〃	〃
―3	$ⅣA_2$	〃	―23	ⅢA	〃	―43	〃	攪乱	―63	〃	〃
―4	〃	〃	―24	$ⅣA_2$	〃	―44	〃	〃	―64	〃	〃
―5	〃	〃	―25	〃	〃	―45	〃	〃	―65	〃	〃
―6	〃	〃	―26	〃	〃	―46	〃	〃	―66	〃	〃
―7	〃	〃	―27	ⅢA	〃	―47	〃	〃	―67	〃	〃
―8	〃	〃	―28	$ⅣA_2$	〃	―48	〃	〃	―68	〃	Ⅲb
―9	〃	〃	―29	〃	Ⅲd	―49	ⅣB	Ⅰ・攪乱	―69	〃	〃
―10	〃	〃	―30	〃	〃	―50	〃	攪乱	―70	〃	〃
―11	ⅢA	〃	―31	〃	〃	―51	ⅤB	Ⅰ・攪乱	―71	〃	Ⅲa
―12	$ⅣA_2$	〃	―32	〃	Ⅲb・c・d	61―52	$ⅡB_2$	Ⅲb	―72	〃	Ⅲb
58―13	$ⅢB_2$	Ⅲc	―33	ⅢA	Ⅲd	―53	ⅢA	〃	―73	〃	Ⅲa
―14	$ⅣA_2$	〃	―34	〃	〃	―54	〃	〃	―74	〃	Ⅲb
―15	〃	Ⅲb・c・d・沢	60―35	ⅢA	Ⅰ・攪乱	―55	〃	Ⅲa	―75	〃	Ⅲa
―16	〃	Ⅲb・c	―36	〃	攪乱	―56	$ⅢB_1$	〃	―76	〃	Ⅲb
―17	〃	Ⅲc	―37	$ⅢB_1$	〃	―57	$ⅢB_2$	〃	―77	〃	Ⅲa
―18	〃	Ⅲb・c	―38	$ⅢB_2$	Ⅰ・攪乱	―58	ⅢC	〃	62―78	〃	〃
―19	〃	Ⅲc	―39	〃	攪乱	―59	〃	〃	―79	〃	Ⅲb
―20	〃		―40	$ⅣA_2$	Ⅰ・攪乱	―60	$ⅣA_2$	〃	―80	〃	〃

表Ⅶ－７－(2)

図一番号	分類	層	図一番号	分類	層	図一番号	分類	層	図一番号	分類	層
62- 81	ⅣA₂	Ⅲ b	63-105	ⅢA	Ⅲ c	64-129	ⅣA₂	Ⅲ c	65-153	ⅢB₂	Ⅲ d
- 82	〃	〃	-106	ⅢB₂	〃	-130	〃	〃	-154	〃	〃
- 83	〃	〃	-107	〃	〃	-131	〃	〃	-155	〃	〃
- 84	〃	〃	-108	〃	〃	-132	〃	〃	-156	〃	〃
- 85	〃	〃	-109	〃	〃	-133	〃	〃	-157	〃	〃
- 86	〃	〃	-110	〃	〃	-134	〃	〃	-158	ⅣA₂	〃
- 87	〃	Ⅲ a	-111	〃	〃	-135	〃	〃	-159	〃	〃
- 88	〃	Ⅲ b	-112	〃	〃	-136	〃	〃	-160	〃	〃
- 89	〃	〃	-113	〃	Ⅲb・c	-137	〃	〃	-161	〃	〃
- 90	〃	〃	-114	〃	Ⅲ c	-138	〃	〃	-162	〃	〃
- 91	〃	〃	-115	〃	〃	-139	〃	〃	-163	〃	〃
- 92	〃	〃	-116	ⅢC	〃	-140	〃	〃	-164	〃	〃
- 93	〃	〃	-117	ⅣA₂	〃	-141	〃	〃	-165	〃	〃
- 94	〃	〃	-118	〃	〃	-142	〃	〃	-166	〃	〃
- 95	〃	〃	-119	〃	〃	-143	〃	〃	-167	〃	〃
- 96	〃	Ⅲ a	-120	〃	〃	-144	〃	〃	-168	〃	〃
- 97	〃	Ⅲ b	-121	〃	〃	-145	〃	〃	-169	〃	〃
- 98	〃	Ⅲ a	-122	〃	〃	65-146	ⅢA	Ⅲ d	-170	〃	〃
- 99	〃	〃	-123	〃	〃	-147	〃	Ⅲ c	-171	〃	〃
-100	〃	〃	-124	〃	〃	-148	〃	Ⅲ d	-172	〃	〃
-101	〃	〃	-125	〃	〃	-149	〃	Ⅲ c	-173	〃	〃
63-102	ⅢA	Ⅲ c	-126	〃	〃	-150	〃	Ⅲ d			
-103	〃	〃	64-127	〃	〃	-151	ⅢB₁	〃			
-104	〃	〃	-128	〃	〃	-152	ⅢB₂	〃			

土器集中Ⅱ，Ｊ－63グリッド掲載土器一覧表　　表Ⅷ－８－(1)

図一番号	分類	層	図一番号	分類	層	図一番号	分類	層	図一番号	分類	層
66- 1	ⅣB	Ⅰ・攪乱	70- 33	ⅣA₂	Ⅲ c	73- 65	ⅢB₂	Ⅲ a	74- 97	ⅣA₂	Ⅲ b
- 2	ⅣA₂	Ⅲ b	- 34	〃	〃	- 66	〃	Ⅲ b	- 98	〃	〃
- 3	〃	〃	- 35	〃	〃	- 67	ⅣA₂	〃	- 99	〃	Ⅲ a
- 4	〃	〃	- 36	〃	〃	- 68	〃	〃	-100	〃	Ⅲ b
- 5	〃	〃	- 37	〃	〃	- 69	〃	〃	-101	〃	〃
- 6	〃	〃	- 38	ⅢB₂	〃	- 70	〃	〃	-102	〃	〃
67- 7	〃	〃	71- 39	ⅢA	Ⅲ d	- 71	〃	〃	-103	〃	〃
- 8	〃	〃	- 40	ⅣA₂	〃	- 72	〃	〃	-104	〃	〃
- 9	〃	〃	- 41	〃	Ⅲb・c・d	- 73	〃	〃	-105	〃	〃
- 10	〃	〃	- 42	〃	Ⅲb・d	- 74	〃	〃	-106	〃	〃
- 11	〃	〃	- 43	〃	Ⅲ d	- 75	〃	Ⅲ a	75-107	〃	〃
- 12	〃	〃	- 44	〃	〃	- 76	〃	Ⅲ b	-108	〃	〃
68- 13	〃	〃	72- 45	〃	Ⅰ・攪乱	- 77	〃	〃	-109	〃	〃
- 14	〃	〃	- 46	〃	Ⅰ	- 78	〃	〃	-110	〃	〃
- 15	〃	〃	- 47	ⅣB	〃	- 79	〃	Ⅲ a	-111	〃	〃
- 16	〃	〃	- 48	〃	Ⅰ・攪乱	- 80	〃	Ⅲ b	-112	〃	〃
- 17	〃	〃	- 49	ⅤB	〃	- 81	〃	Ⅲ a	-113	〃	Ⅲ a
- 18	〃	〃	- 50	〃	〃	74- 82	〃	Ⅲ b	-114	〃	〃
- 19	〃	〃	- 51	〃	〃	- 83	〃	Ⅲ a	-115	〃	Ⅲ b
- 20	〃	〃	- 52	〃	Ⅲ a	- 84	〃	Ⅲ b	-116	〃	〃
69- 21	〃	Ⅲb・Ⅲc	- 53	〃	Ⅰ・攪乱	- 85	〃	〃	-117	〃	〃
- 22	〃	〃	73- 54	ⅡB₂	Ⅲ b	- 86	〃	〃	-118	〃	Ⅲ a
- 23	〃	Ⅲ b	- 55	ⅢA	〃	- 87	〃	Ⅲ a	-119	〃	〃
- 24	〃	〃	- 56	〃	〃	- 88	〃	Ⅲ b	-120	〃	Ⅲ b
- 25	〃	〃	- 57	〃	〃	- 89	〃	Ⅲ a	-121	〃	Ⅲ a
- 26	〃	〃	- 58	〃	〃	- 90	〃	Ⅲ b	-122	〃	Ⅲ b
- 27	〃	Ⅲb・沢	- 59	ⅢB₂	Ⅲ a	- 91	〃	〃	-123	〃	〃
- 28	〃	Ⅲ b	- 60	〃	Ⅲ b	- 92	〃	〃	-124	〃	Ⅲ a
- 29	〃	〃	- 61	〃	〃	- 93	〃	〃	-125	〃	Ⅲ b
- 30	〃	〃	- 62	〃	〃	- 94	〃	Ⅲ a	-126	〃	〃
70- 31	〃	Ⅲ c	- 63	〃	〃	- 95	〃	Ⅲ b	-127	〃	Ⅲ a
- 32	〃	〃	- 64	〃	〃	- 96	〃	〃	-128	〃	Ⅲ b

表Ⅷ－８－(2)

図一番号	分類	層	図一番号	分類	層	図一番号	分類	層	図一番号	分類	層
75-129	ⅤA$_2$	Ⅲb	76-155	ⅣA$_2$	Ⅲc	77-181	ⅢB$_2$	Ⅲd	78-207	ⅣA$_2$	Ⅲd
-130	〃	Ⅲa	-156	〃	〃	-182	〃	〃	-208	〃	〃
-131	〃	Ⅲb	-157	〃	〃	-183	〃	〃	-209	〃	〃
-132	〃	Ⅲa	-158	〃	〃	-184	ⅣA$_2$	〃	-210	〃	〃
-133	ⅤC	Ⅲb	-159	〃	〃	-185	〃	〃	-211	〃	〃
76-134	ⅡB$_2$	Ⅲc	-160	〃	〃	-186	〃	〃	-212	〃	〃
-135	ⅢA	〃	-161	〃	〃	-187	〃	〃	-213	〃	〃
-136	〃	〃	-162	〃	〃	-188	〃	〃	-214	〃	〃
-137	ⅢB$_1$	〃	-163	〃	〃	-189	〃	〃	-215	〃	〃
-138	ⅢB$_2$	〃	-164	〃	〃	-190	〃	〃	-216	〃	〃
-139	〃	〃	-165	〃	〃	-191	〃	〃	-217	〃	〃
-140	〃	〃	-166	〃	〃	-192	〃	〃	-218	〃	〃
-141	〃	〃	-167	ⅣB	〃	-193	〃	〃	-219	〃	〃
-142	〃	〃	-168	〃	Ⅲd	-194	〃	〃	-220	〃	〃
-143	〃	〃	77-169	ⅢB$_2$	〃	-195	〃	〃	-221	〃	〃
-144	〃	〃	-170	〃	〃	-196	〃	〃	-222	〃	〃
-145	〃	〃	-171	ⅢA	〃	-197	〃	〃	-223	〃	〃
-146	〃	〃	-172	〃	〃	-198	〃	〃	-224	〃	〃
-147	ⅣA$_2$	〃	-173	〃	〃	-199	〃	〃	-225	〃	〃
-148	〃	〃	-174	ⅢB$_1$	〃	-200	〃	〃	-226	〃	〃
-149	〃	〃	-175	〃	〃	-201	〃	〃	-227	〃	〃
-150	〃	〃	-176	〃	〃	-202	〃	〃	-228	〃	〃
-151	〃	〃	-177	ⅢB$_2$	〃	-203	〃	〃	-229	〃	〃
-152	〃	〃	-178	〃	〃	78-204	〃	〃	-230	〃	〃
-153	〃	〃	-179	〃	〃	-205	〃	〃	-231	〃	〃
-154	〃	〃	-180	〃	〃	-206	〃	〃			

土器集中Ⅲ掲載土器一覧表　　表Ⅷ－９

図番号	分類	層	図番号	分類	層	図番号	分類	層	図番号	分類	層
79— 1	ⅤB	Ⅲa	80—16	ⅤB	Ⅲb	81—31	ⅤB	Ⅰ・攪乱	81—46	ⅤB	Ⅲa
— 2	〃	Ⅲb	—17	〃	Ⅲa	—32	〃	Ⅲb	—47	〃	Ⅰ・攪乱
— 3	〃	〃	—18	〃	Ⅲb	—33	〃	Ⅲa	—48	〃	Ⅲb
— 4	〃	Ⅲa	—19	〃	〃	—34	〃	Ⅰ・攪乱	—49	〃	Ⅰ
— 5	〃	〃	—20	〃	Ⅲa	—35	〃	Ⅰ	—50	〃	Ⅲb
— 6	〃	〃	—21	〃	〃	—36	〃	Ⅲb	—51	〃	〃
— 7	〃	Ⅰ・Ⅲb	—22	〃	〃	—37	〃	Ⅰ・攪乱	—52	〃	〃
— 8	〃	Ⅲa	—23	〃	Ⅲb	—38	〃	攪乱	—53	〃	〃
— 9	〃	Ⅰ	81—24	〃	攪乱	—39	〃	Ⅲb	—54	〃	攪乱
—10	〃	Ⅰ・Ⅲb	—25	〃	Ⅲa	—40	〃	〃	—55	〃	Ⅲb
—11	〃	Ⅲb	—26	〃	Ⅲb	—41	ⅤC	〃	—56	〃	〃
—12	〃	Ⅱ	—27	〃	Ⅰ・攪乱	—42	〃	Ⅲa	—57	〃	攪乱
—13	〃	Ⅲb	—28	〃	〃	—43	〃	〃	—58	〃	〃
—14	〃	〃	—29	〃	Ⅲb	—44	ⅤB	Ⅰ	—59	〃	〃
80—15	〃	〃	—30	〃	Ⅲa	—45	〃	Ⅲa	—60	〃	Ⅲc

沢部分包含層出土掲載土器一覧表　　表Ⅷ－10

図一番号	分類	出土区	層	図一番号	分類	出土区	層	図一番号	分類	出土区	層
83— 1 a	ⅡB$_2$	L—65	Ⅲ	83— 3 b	ⅢA	K—66	Ⅲ	84— 6	ⅣA$_2$	M—66	Ⅲ
— 1 b	〃	〃	〃	— 3 c	〃	〃	〃	— 7 a	ⅤB	L—66	〃
— 2	ⅢA	K—66	〃	— 4	〃	K—66・67	〃	— 7 b	〃	〃	〃
— 3 a	〃	〃	〃	84— 5	〃	K—66	〃				

包含層出土掲載土器一覧表

表Ⅷ－11

図一番号	分　類	出土区	層	図一番号	分　類	出土区	層	図一番号	分　類	出土区	層
85－ 1	ⅡB$_2$	L－66	Ⅲd	91－45	ⅣA$_2$	I－65	Ⅲb	97－ 89	ⅣB	O－60	Ⅲa
－ 2	〃	K－66	〃	－46	〃	K－67	〃	－ 90	〃	I－64	Ⅲc
－ 3	ⅡB$_1$	L－66	〃	－47	〃	J－64	Ⅲb・d	－ 91	〃	M－68	Ⅲa
86－ 4	ⅡB$_2$	K－66	Ⅲa・b	－48	〃	O－63	Ⅲa	－ 92	〃	N－67・O－68	〃
－ 5	〃	〃	Ⅲb	－49	〃	H・I－66	Ⅲd	－ 93	〃	I－64	Ⅲc
－ 6	〃	〃	〃	92－50	〃	H－66	〃	－ 94	〃	M－68	Ⅲa
－ 7	ⅢA	L－66	Ⅲ	－51	〃	J－64	Ⅲb	98－ 95	〃	K－62	Ⅲb
－ 8	〃	K－67	Ⅲa	－52	〃	I－66	Ⅲd	－ 96	ⅣC	O－63	Ⅲa・b
－ 9	〃	M－66	Ⅲb	93－53	〃	L－67	Ⅰ	－ 97	〃	M－60	Ⅲa
87－10	〃	M－64	Ⅲa	－54	〃	N－68	Ⅲa	－ 98	〃	N－62	〃
－11	〃	K－67	Ⅲb	－55	〃	N－65	Ⅰ	－ 99	〃	N－69	Ⅲb
－12	〃	〃	Ⅲa	－56	〃	L－69	Ⅲb	－100	〃	N－60	Ⅰ
－13	〃	〃	Ⅲa・b	－57	〃	N－66	〃	－101	〃	J－64	Ⅲa
－14	〃	N－68	〃	－58	〃	O－68	〃	－102	〃	N－61	Ⅲb
－15	〃	K－67	Ⅲa	94－59	〃	N－68	不　明	－103	〃	K－67	Ⅲa
－16	〃	J・K－66	I・撹乱・Ⅲa	－60	〃	M－66	Ⅲb	－104	〃	L－65	Ⅲb
－17	ⅢB$_1$	J－67	Ⅲd	－61	〃	O－68	〃	－105	〃	O－60	Ⅰ
－18	〃	L－66	Ⅲb	－62	〃	N－68	〃	99－106	ⅤB	M－64	Ⅲa
－19	〃	L－67	Ⅴ	－63	〃	O－69	Ⅰ・Ⅲa	－107	〃	〃	〃
88－20	ⅢB$_2$	O－65	Ⅲb	95－64	〃	L－69	Ⅲb	－108	〃	L－66	〃
－21	〃	L－69	〃	－65	〃	I－66	Ⅲd	－109	〃	M－63	Ⅲd
－22	〃	O－68	〃	－66	〃	L－65	Ⅲa	－110	〃	M－64	Ⅲa
－23	〃	K－67	Ⅲd	－67	〃	I－65	Ⅲb	－111	〃	N－64	Ⅲb
－24	〃	〃	Ⅲa	－68	〃	K－66	Ⅲd	－112	〃	M－63沢	Ⅲa・撹乱
－25	ⅢC	〃	Ⅲb	－69	〃	N－68	Ⅲ	－113	〃	L－68	Ⅲb
－26	ⅣA$_2$	不　明	不　明	－70	〃	M－67	Ⅲb	－114	〃	L－66	Ⅲa
－27	ⅣA$_1$	O－65	Ⅲb	－71	〃	L－65	Ⅲd	－115	〃	N－64	Ⅲb
89－28	ⅣA$_2$	M－66・67	〃	－72	〃	N－69	Ⅰ・Ⅲb	－116	〃	O－64	〃
－29	〃	I－65	〃	96－73	〃	K－66	Ⅲa	100－117	〃	J－67	〃
－30	〃	N－65	Ⅲa	－74	〃	M－66	Ⅲb	－118	〃	N－65	〃
－31	〃	J－61	撹　乱	－75	〃	K－66	Ⅰ	－119	〃	L－65	Ⅲa
－32	〃	L－65	Ⅰ	－76	〃	L－65	Ⅲa	－120	〃	M－65	Ⅲ
－33	〃	L－66・67	Ⅲa	－77	〃	I－65	Ⅲd	－121	〃	O－63	Ⅲa
－34	〃	J－64	Ⅲc・d	－78	〃	L－69	Ⅲa	－122	〃	O－68	〃
－35	〃	J－61	Ⅲb	－79	〃	O－69	〃	－123	〃	L－66	〃
－36	〃	K－62	Ⅲd	－80	〃	O－62	Ⅰ	－124	〃	N－62	Ⅰ
90－37	〃	H－66	〃	－81	〃	N－60	Ⅲb	－125	〃	J－67	Ⅲd
－38	〃	M－67	Ⅲa	－82	〃	L－65	Ⅰ	－126	〃	J－66	Ⅰ・撹乱
－39	〃	O－68	〃	－83	〃	N－68	Ⅲa	－127	〃	J－64	Ⅲd
－40	〃	K－61	Ⅴ	－84	〃	M－65	Ⅲb	－128	〃	N－64	Ⅰ
－41	〃	M－66	Ⅲb	－85	〃	I－63	Ⅲc	－129	〃	J－64	Ⅲc
－42	〃	I－65	〃	－86	〃	O－63	Ⅲb	－130	〃	M－65	Ⅲ
－43	〃	O－63	不　明	－87	〃	I－65	Ⅲd	－131	〃	M－64	〃
91－44	〃	K－65 L－64・65	Ⅲd	－88	ⅣB	J－64	Ⅲc				

包含層出土掲載土器（拓本）一覧表

表Ⅷ－12－(1)

図一番号	分　類	出土区	層	図一番号	分　類	出土区	層	図一番号	分　類	出土区	層
101－ 1	ⅠB	I－65	Ⅲd	101－13	ⅡB$_1$	L－65	Ⅲb	102－25	ⅢA	K－67	Ⅲd
－ 2	ⅡA	J－61	Ⅲa	－14	〃	〃	Ⅲd	－26	〃	K－66	Ⅲa
－ 3	〃	N－67	Ⅰ	－15	ⅡB$_2$	〃	Ⅲa	－27	〃	K－67	〃
－ 4	〃	沢	Ⅰ・撹乱	－16	〃	〃	〃	－28	〃	O－62	〃
－ 5	〃	J－61	Ⅲa	－17	〃	K－66	Ⅲd	－29	〃	L－65	〃
－ 6	ⅡB$_1$	K－66	Ⅲd	－18	〃	沢	〃	－30	〃	L－68	Ⅲb
－ 7	〃	沢	〃	－19	〃	N－65	Ⅰ	－31	〃	〃	〃
－ 8	〃	L－65	Ⅲb	－20	〃	I－65	Ⅲd	－32	〃	L－65	〃
－ 9	〃	沢	Ⅲd	－21	〃	L－68	Ⅲb	－33	〃	I－64	〃
－10	〃	K－66	〃	102－22	ⅢA	O－68	Ⅰ	－34	〃	L－65	Ⅲa
－11	〃	L－65	〃	－23	〃	L－67	Ⅲb	－35	〃	L－68	Ⅲb
－12	〃	〃	〃	－24	〃	L－65	Ⅲa	－36	〃	K－66	Ⅲa

表Ⅷ－12－(2)

図—番号	分　類	出土区	層	図—番号	分　類	出土区	層	図—番号	分　類	出土区	層
—37	ⅢA	M—65	Ⅲb	105— 97	ⅢB₁	L—68	Ⅲb	108—157	ⅣA₁	M—67	Ⅲa
—38	〃	O—68	Ⅲa	— 98	〃	N—68	〃	—158	〃	J—67	Ⅲd
—39	〃	K—66	〃	— 99	〃	L—68	Ⅲa	—159	〃	〃	〃
103—40	〃	I—64	Ⅲb	106—100	ⅢB₂	N—67	Ⅰ	—160	〃	O—63	Ⅲ
—41	〃	K—66	Ⅲd	—101	〃	K—67	Ⅲb	—161	〃	M—63	Ⅲd
—42	〃	L—63	Ⅲb	—102	〃	K—62	〃	—162	ⅣA₂	I—66	〃
—43	〃	K—66	Ⅲa	—103	〃	J—67	Ⅲd	—163	〃	N—65	Ⅰ
—44	〃	J—69	Ⅰ	—104	〃	J—64	Ⅲb	—164	〃	I—63	Ⅲd
—45	〃	L—68	Ⅲb	—105	〃	M—67	〃	—165	〃	K—66	〃
—46	〃	L—65	Ⅲa	—106	〃	K—67	〃	—166	〃	I—65	Ⅲb
—47	〃	M—64	〃	—107	〃	M—60	〃	—167	〃	J—64	〃
—48	〃	M—67	Ⅲb	—108	〃	J—64	〃	—168	〃	K—65	Ⅰ
—49	〃	O—69	Ⅲa	—109	〃	O—65	Ⅲa	—169	〃	J—64	Ⅲd
—50	〃	L—66	〃	—110	〃	M—65	Ⅲb	—170	〃	K—62	Ⅲb
—51	〃	L—67	Ⅲb	—111	〃	K—66	Ⅲ	109—171	〃	J—64	〃
—52	〃	K—67	Ⅲd	—112	〃	K—68	Ⅲb	—172	〃	〃	Ⅲd
104—53	〃	J—67	〃	—113	〃	L—67	Ⅴ	—173	〃	I—63	〃
—54	〃	K—67	Ⅲb	—114	〃	I—64	Ⅲd	—174	〃	I—65	〃
—55	〃	〃	〃	—115	〃	L—65	Ⅲa	—175	〃	K—66	Ⅰ
—56	〃	K—66	Ⅲa	—116	〃	J—64	Ⅲb	—176	〃	M—67	Ⅲb
—57	〃	K—67	Ⅲd	—117	〃	K—66	〃	—177	〃	J—64	Ⅲd
—58	〃	L—67	Ⅲa	—118	〃	O—65	〃	—178	〃	O—63	Ⅲa
—59	〃	〃	Ⅲb	107—119	〃	J—67	Ⅲd	—179	〃	K—62	Ⅲd
—60	〃	N—66	Ⅲa	—120	〃	L—67	Ⅲb	—180	〃	I—65	〃
—61	〃	L—67	Ⅲb	—121	〃	M—66	〃	—181	〃	I—66	〃
—62	〃	M—66	Ⅲa	—122	〃	M—65	〃	—182	〃	I—65	〃
—63	〃	J—67	Ⅲb	—123	〃	K—66	Ⅰ	—183	〃	I—66	〃
—64	〃	〃	Ⅲd	—124	〃	J—67	Ⅲd	—184	〃	〃	〃
—65	〃	K—67	Ⅲb	—125	〃	L—64	Ⅲb	—185	〃	I—65	Ⅲb
—66	〃	N—66	〃	—126	〃	J—67	Ⅲd	—186	〃	〃	Ⅲd
—67	〃	沢	Ⅲd	—127	〃	L—65	Ⅲd	—187	〃	I—63	Ⅲc
—68	〃	L—65	〃	—128	〃	K—67	Ⅲb	—188	〃	I—66	Ⅲd
—69	〃	K—62	Ⅲb	—129	〃	I—63	Ⅲc	—189	〃	L—65	Ⅲa
—70	〃	〃	〃	—130	〃	O—63	Ⅲb	—190	〃	〃	〃
—71	〃	〃	Ⅲa	—131	〃	J—66	Ⅲd	—191	〃	J—65	Ⅲd
—72	〃	L—66	〃	—132	〃	M—66	Ⅲb	—192	〃	L—65	Ⅲa
—73	〃	O—63	Ⅰ	—133	〃	J—61	攪　乱	—193	〃	N—65	Ⅰ
—74	〃	L—66	Ⅲa	—134	〃	O—63	Ⅲ	—194	〃	L—64	Ⅲd
—75	〃	M—66	〃	—135	〃	〃	Ⅲa	—195	〃	I—66	Ⅲd
—76	〃	L—65	〃	—136	〃	L—65	〃	—196	〃	J—65	〃
105—77	ⅢB₁	N—63	〃	—137	〃	O—69	Ⅰ	—197	〃	K—61	攪　乱
—78	〃	J—69	Ⅲd	—138	〃	M—67	Ⅲb	—198	〃	I—63	Ⅲd
—79	〃	N—63	Ⅰ	—139	〃	O—64	〃	110—199	〃	I—66	〃
—80	〃	N—68	Ⅲb	—140	〃	L—66	〃	—200	〃	L—65	〃
—81	〃	K—66	〃	—141	〃	K—66	Ⅰ	—201	〃	H—66	〃
—82	〃	M—65	〃	—142	〃	O—69	Ⅲa	—202	〃	I—66	Ⅰ・攪乱
—83	〃	I—66	Ⅲd	—143	〃	M—66	Ⅲb	—203	〃	L—68	Ⅲb
—84	〃	J—67	攪　乱	108—144	ⅣA₁	J—64	Ⅲc	—204	〃	K—66	Ⅰ
—85	〃	L—67	Ⅲa	—145	〃	K—67	Ⅲa	—205	〃	O—67	〃
—86	〃	J—66	Ⅲb	—146	〃	N—69	〃	—206	〃	H—66	Ⅲd
—87	〃	N—69	〃	—147	〃	K—66	Ⅲb	—207	〃	L—65	Ⅲa
—88	〃	O—67	Ⅲd	—148	〃	〃	〃	—208	〃	I—65	Ⅲb
—89	〃	L—68	Ⅲb	—149	〃	O—65	Ⅲa	—209	〃	〃	〃
—90	〃	J—67	Ⅲd	—150	〃	J—67	Ⅲd	—210	〃	L—66	Ⅲa
—91	〃	〃	〃	—151	〃	K—67	〃	—211	〃	J—60	Ⅰ
—92	〃	〃	〃	—152	〃	M—67	Ⅲb	—212	〃	I—65	Ⅲd
—93	〃	〃	〃	—153	〃	L—67	Ⅰ	—213	〃	I—66	Ⅲb
—94	〃	L—65	Ⅲa	—154	〃	M—67	Ⅲb	—214	〃	J—65	Ⅲd
—95	〃	K—67	Ⅲb	—155	〃	J—67	Ⅲd	—215	〃	J—66	〃
—96	〃	沢	Ⅰ・攪乱	—156	〃	I—64	Ⅲb	—216	〃	I—64	Ⅲc

表Ⅷ—12—(3)

図—番号	分　類	出土区	層	図—番号	分　類	出土区	層	図—番号	分　類	出土区	層
110—217	ⅣA₂	L—67	Ⅲb	113—275	ⅣA₂	O—69	Ⅲa	116—333	ⅣC	N—62	Ⅲa
111—218	〃	J—64	〃	—276	〃	K—66	Ⅰ	—334	〃	N—61	Ⅲb
—219	〃	L—65	Ⅲa	114—277	〃	M—65	Ⅲb	—335	〃	J—64	〃
—220	〃	J—64	Ⅰ・撹乱	—278	〃	N—66	Ⅰ	—336	〃	N—60	〃
—221	〃	K—64	Ⅲa	—279	〃	O—60	Ⅲa	—337	ⅤB	M—64	Ⅲa
—222	〃	J—64	Ⅲb	—280	〃	K—66	Ⅲb	—338	〃	N—64	Ⅰ・撹乱
—223	〃	I—66	Ⅲd	—281	〃	K—68	Ⅳ	—339	〃	J—67	Ⅲa
—224	〃	L—65	Ⅲa	—282	〃	M—65	Ⅲb	—340	〃	M—64	〃
—225	〃	K—66	Ⅰ	—283	〃	〃	〃	—341	〃	O—64	Ⅰ
—226	〃	J—64	Ⅲc	—284	〃	K—67	Ⅲa	—342	〃	N—64	Ⅰ・撹乱
—227	〃	〃	Ⅲb	—285	〃	L—65	Ⅰ	—343	〃	〃	Ⅰ
—228	〃	O—63	Ⅰ・撹乱	—286	〃	〃	〃	—344	〃	N—66	〃
—229	〃	K—62	Ⅲb	—287	〃	L—68	Ⅲb	—345	〃	N—62	Ⅲa
—230	〃	L—65	Ⅲd	—288	〃	O—68	Ⅲa	—346	〃	M—64	〃
—231	〃	L—66	〃	—289	〃	N—66	Ⅲb	—347	〃	〃	〃
—232	〃	K—66	Ⅰ	—290	〃	I—60	Ⅰ	—348	〃	〃	〃
—233	〃	L—65	Ⅲb	—291	〃	O—69	Ⅲa	—349	〃	〃	〃
—234	〃	〃	〃	—292	〃	L—65	〃	—350	〃	〃	〃
—235	〃	〃	Ⅲa	—293	〃	L—67	Ⅰ	—351	〃	〃	〃
—236	〃	O—63	〃	—294	〃	I—65	Ⅲd	—352	〃	L—66	〃
—237	〃	M—63	〃	—295	〃	J—64	Ⅲc	—353	〃	N—64	〃
—238	〃	M—65	〃	—296	〃	O—68	Ⅲa	—354	〃	M—64	〃
—239	〃	I—65	Ⅲb	—297	〃	N—66	Ⅰ	—355	〃	J—67	Ⅲd
—240	〃	K—66	〃	—298	〃	J—64	Ⅲb	117—356	〃	M—64	Ⅲa
—241	〃	O—63	Ⅲa	—299	ⅣB	〃 沢	Ⅲd・Ⅰ・撹乱	—357	〃	N—66	Ⅰ
112—242	〃	M—69	〃	115—300	〃	J—64	Ⅲc	—358	〃	L—65	Ⅲa
—243	〃	N—68	Ⅲb	—301	〃	M—60	Ⅲa	—359	〃	O—62	〃
—244	〃	〃	〃	—302	〃	J—68	撹　乱	—360	〃	N—66	Ⅰ
—245	〃	N—67	Ⅲa	—303	〃	N—67	Ⅲa	—361	〃	N—65	〃
—246	〃	L—67	Ⅰ	—304	〃	J—64	Ⅲb	—362	〃	O—64	Ⅲb
—247	〃	K—66	〃	—305	〃	N—68	Ⅲa	—363	〃	O—64	〃
—248	〃	〃	Ⅲd	—306	〃	J—64	Ⅰ・撹乱	—364	〃	N—68	〃
—249	〃	O—69	Ⅰ	—307	〃	N—68	Ⅰ	—365	〃	O—63	Ⅰ
—250	〃	沢	〃	—308	〃	I—63	Ⅲc	—366	〃	L—65	〃
—251	〃	N—68	Ⅲa	—309	〃	沢	撹乱	—367	〃	L—66	Ⅲa
—252	〃	L—65	〃	—310	〃	N—67	Ⅲa	—368	〃	N—64	Ⅰ
—253	〃	O—66	Ⅲb	—311	〃	M—65	Ⅲb	—369	〃	M—64	Ⅲa
—254	〃	I—66	〃	—312	〃	L—66	Ⅲa	—370	〃	N—62	〃
—255	〃	沢	Ⅰ・撹乱	—313	〃	沢	撹乱	—371	〃	〃	〃
—256	〃	I—65	Ⅲb	—314	〃	J—64	Ⅲb	—372	〃	〃	Ⅰ
—257	〃	L—65	Ⅲa	—315	〃	K—66	Ⅰ	—373	〃	N—67	〃
—258	〃	K—65	〃	—316	〃	J—64	Ⅲb	—374	〃	J—67	Ⅲa
—259	〃	O—67	〃	—317	〃	〃	Ⅰ	—375	〃	N—62	〃
—260	〃	N—67	Ⅲb	—318	〃	N—67	Ⅲa	—376	〃	N—64	Ⅰ
113—261	〃	O—68	Ⅲa	—319	〃	M—66	Ⅲb	—377	〃	M—65	Ⅲa
—262	〃	J—64	Ⅲb	—320	〃	K—61	撹乱	—378	ⅤC	K—68	Ⅲb
—263	〃	K—66	Ⅰ	116—321	〃	N—66	Ⅰ	—379	〃	O—64	Ⅰ
—264	〃	N—68	Ⅲb	—322	〃	〃	〃	—380	〃	O—65	〃
—265	〃	〃	〃	—323	ⅣC	N—62	〃	—381	〃	L—68	Ⅲb
—266	〃	O—68	〃	—324	〃	L—65	Ⅲa	—382	〃	〃	〃
—267	〃	L—66	Ⅲa	—325	〃	N—60	Ⅰ	—383	〃	M—63	Ⅲd
—268	〃	O—68	〃	—326	〃	L—66	Ⅲa	—384	〃	M—62	Ⅲa
—269	〃	〃	〃	—327	〃	N—62	Ⅰ	—385	〃	O—64	〃
—270	〃	L—69	〃	—328	〃	L—66	Ⅲa	—386	〃	L—65	Ⅰ
—271	〃	N—68	Ⅲb	—329	〃	N—67	Ⅰ	—387	〃	L—66	Ⅲa
—272	〃	〃	Ⅰ	—330	〃	L—69	Ⅲa	—388	〃	J-68・L-67	Ⅰ・Ⅲb
—273	〃	K—66	Ⅲa	—331	〃	M—60	Ⅰ	—389	〃	K—67	Ⅲb
—274	〃	N—67	〃	—332	〃	L—69	Ⅲa				

包含層出土掲載石器一覧表

表Ⅷ－13－(1)

番号	種別	出土区	層	重量(g)	石材	番号	種別	出土区	層	重量(g)	石材	番号	種別	出土区	層	重量(g)	石材
1	石鏃	J－63	Ⅲb	0.8	Sh	54	石鏃	O－65	Ⅲa	2.8	Sh	107	ポイント・ナイフ	O－68	Ⅲa	19.2	Sh
2	〃	N－69	Ⅲa	1.0	〃	55	〃	L－65	Ⅰ	4.6	〃	108	〃	M－65	Ⅲb	26.6	〃
3	〃	J－62	Ⅲb	0.8	Ob	56	〃	N－69	〃	3.2	〃	109	〃	K－66	〃	52.5	〃
4	〃	O－67	Ⅲa	2.3	Aga	57	〃	O－65	Ⅲa	2.5	〃	110	〃	N－62	Ⅲa	50.3	〃
5	〃	O－65	〃	0.4	〃	58	〃	O－67	Ⅰ	3.7	〃	111	〃	J－63	Ⅲb	56.6	〃
6	〃	J－62	Ⅲc	0.8	Sh	59	〃	N－64	〃	5.4	〃	112	〃	K－62	〃	99.7	〃
7	〃	M－65	Ⅲa	0.9	Aga	60	〃	N－65	〃	0.9	〃	113	〃	J－67	〃	50.0	〃
8	〃	O－69	〃	0.7	Sh	61	〃	L－65	Ⅲd	1.4	〃	114	〃	K－66	〃	36.7	〃
9	〃	L－65	Ⅲd	0.8	Aga	62	〃	N－69	Ⅲa	1.3	〃	115	つまみ付ナイフ	M－66	〃	1.4	〃
10	〃	O－68	Ⅲa	0.9	Sh	63	〃	M－65	Ⅲb	1.3	Aga	116	〃	〃	Ⅲa	2.4	〃
11	〃	N－60	Ⅰ	1.3	〃	64	〃	L－67	Ⅲa	1.9	Sh	117	〃	N－61	Ⅲb	4.5	〃
12	〃	L－69	Ⅲa	0.9	〃	65	〃	O－68	〃	3.4	〃	118	〃	N－67	Ⅰ	15.9	〃
13	〃	O－68	Ⅰ	1.0	〃	66	〃	L－65	〃	1.2	〃	119	〃	K－67	Ⅲa	3.6	〃
14	〃	L－67	Ⅲa	1.0	〃	67	〃	N－65	Ⅰ	2.4	〃	120	〃	N－67	Ⅰ	11.6	〃
15	〃	L－66	〃	1.3	Aga	68	〃	N－67	〃	0.5	〃	121	〃	I－66	Ⅲd	20.1	〃
16	〃	J－62	Ⅲc	1.2	Sh	69	〃	O－69	〃	0.9	〃	122	〃	O－68	Ⅲa	15.9	〃
17	〃	N－66	Ⅰ	1.0	〃	70	〃	O－66	〃	1.4	〃	123	〃	J－63	Ⅲb	32.2	〃
18	〃	J－62	Ⅲc	0.4	Aga	71	〃	L－65	Ⅲb	1.7	〃	124	〃	沢	Ⅰ	15.4	〃
19	〃	L－67	Ⅲa	1.0	Sh	72	〃	J－62	攪乱	3.3	〃	125	〃	L－69	〃	6.9	〃
20	〃	M－67	Ⅰ	1.1	〃	73	〃	L－62	Ⅰ	5.8	〃	126	〃	J－62	Ⅲa	6.9	〃
21	〃	L－68	Ⅲb	1.8	〃	74	ドリル	K－61	攪乱	0.7	〃	127	〃	O－67	〃	11.3	〃
22	〃	N－61	〃	3.1	〃	75	〃	O－64	Ⅰ	0.7	Aga	128	〃	N－60	Ⅰ	9.4	〃
23	〃	L－65	Ⅲa	4.3	〃	76	〃	O－60	〃	1.7	Sh	129	〃	J－67	Ⅲd	11.3	〃
24	〃	L－69	Ⅰ	0.4	〃	77	〃	N－69	〃	1.2	〃	130	〃	M－65	Ⅲa	17.6	〃
25	〃	L－67	Ⅲa	0.7	〃	78	〃	N－66	〃	6.0	〃	131	〃	J－67	Ⅲb	17.9	〃
26	〃	O－64	Ⅲb	1.6	〃	79	〃	〃	〃	1.8	〃	132	〃	N－60	Ⅰ	14.5	〃
27	〃	N－63	〃	3.0	〃	80	〃	O－63	〃	2.5	〃	133	〃	K－65	Ⅲd	17.9	〃
28	〃	O－68	Ⅲa	0.6	〃	81	〃	L－67	Ⅲb	2.8	〃	134	〃	J－62	Ⅲa	30.6	〃
29	〃	L－66	Ⅲc	1.0	〃	82	〃	L－65	Ⅲa	3.6	〃	135	〃	K－67	Ⅲb	12.0	〃
30	〃	J－62	Ⅲa	0.7	〃	83	〃	L－68	Ⅲb	0.8	〃	136	〃	M－65	Ⅲa	26.0	〃
31	〃	J－63	Ⅲb	0.7	Aga	84	〃	O－69	Ⅰ	1.5	〃	137	〃	O－64	Ⅰ	41.7	〃
32	〃	〃	Ⅲa	1.1	Sh	85	〃	O－67	〃	1.5	〃	138	〃	O－65	Ⅲb	25.6	〃
33	〃	J－62	〃	0.7	〃	86	〃	N－66	Ⅲb	2.0	〃	139	〃	L－65	Ⅲd	25.7	〃
34	〃	O－67	〃	1.5	〃	87	〃	O－64	〃	6.6	〃	140	〃	N－65	Ⅲb	23.6	〃
35	〃	M－67	〃	1.1	〃	88	〃	M－67	〃	7.1	〃	141	〃	K－64	Ⅲd	40.1	〃
36	〃	O－65	〃	1.7	〃	89	〃	〃	Ⅰ	9.0	〃	142	〃	O－69	Ⅲa	12.4	〃
37	〃	L－68	Ⅲb	1.7	〃	90	〃	O－69	Ⅲa	6.2	〃	143	〃	N－66	Ⅲb	7.4	〃
38	〃	L－67	Ⅲa	1.8	〃	91	〃	M－69	〃	8.0	〃	144	〃	N－60	Ⅰ	13.1	〃
39	〃	N－69	Ⅰ	0.8	Ob	92	〃	J－66	Ⅲd	5.5	〃	145	〃	L－68	Ⅲb	23.1	〃
40	〃	L－69	〃	1.7	〃	93	〃	J－63	〃	8.8	〃	146	〃	L－66	Ⅲa	19.7	〃
41	〃	J－64	Ⅲc	1.2	Sh	94	〃	M－65	Ⅲa	24.2	〃	147	〃	K－67	Ⅲb	12.5	〃
42	〃	L－69	Ⅰ	0.4	Ob	95	〃	M－67	Ⅰ	11.9	〃	148	〃	L－67	Ⅲa	5.0	〃
43	〃	N－69	Ⅲa	0.5	〃	96	〃	N－62	Ⅲa	1.6	〃	149	〃	K－68	〃	12.8	〃
44	〃	M－67	〃	0.5	Sh	97	ポイント・ナイフ	M－67	Ⅰ	7.5	〃	150	〃	N－69	〃	40.9	Aga
45	〃	O－65	〃	0.7	〃	98	〃	L－64	Ⅲd	6.6	〃	151	エンドスクレイパー	O－69	Ⅲ	4.5	Sh
46	〃	O－64	Ⅲb	0.6	Aga	99	〃	M－64	Ⅲa	20.8	〃	152	〃	O－60	Ⅰ	6.3	〃
47	〃	L－66	Ⅲa	1.0	Sh	100	〃	L－68	Ⅲb	10.1	〃	153	〃	N－68	〃	7.5	〃
48	〃	M－64	〃	0.8	Od	101	〃	L－65	Ⅰ	10.5	〃	154	〃	J－67	Ⅲb	8.9	〃
49	〃	L－69	Ⅰ	2.3	〃	102	〃	L－66	〃	11.5	〃	155	〃	M－67	Ⅰ	6.4	〃
50	〃	N－65	〃	1.5	Sh	103	〃	O－63	Ⅲb	7.5	〃	156	〃	O－66	〃	14.9	〃
51	〃	L－65	Ⅲa	1.9	〃	104	〃	L－68	〃	17.8	〃	157	〃	K－65	Ⅲd	6.7	〃
52	〃	N－62	〃	2.6	〃	105	〃	L－65	Ⅲa	7.7	〃	158	〃	N－67	Ⅰ	15.0	〃
53	〃	沢	Ⅰ	3.1	〃	106	〃	O－69	Ⅴ	15.8	〃	159	〃	N－66	〃	17.4	〃

表Ⅷ－13－(2)

番号	種別	出土区	層	重量(g)	石材	番号	種別	出土区	層	重量(g)	石材	番号	種別	出土区	層	重量(g)	石材
160	エンドスクレイパー	N—60	Ⅲa	5.7	Sh	213	スクレイパー	O—66	Ⅲa	31.7	Sh	266	磨製石斧	N—68	Ⅲa	45.7	Gr. Mud
161	〃	K—62	Ⅲb	25.9	〃	214	〃	N—66	Ⅲb	35.7	〃	267	〃	〃	Ⅲb	186.9	〃
162	〃	O—65	Ⅲa	15.6	〃	215	〃	O—64	Ⅰ	31.0	〃	268	〃	N—66	〃	162.9	〃
163	〃	N—69	Ⅰ	9.0	〃	216	〃	O—63	Ⅲb	43.4	〃	269	〃	J—67	〃	299.1	Scha
164	〃	N—67	〃	10.4	Aga	217	〃	H—66	〃	65.7	〃	270	〃	M—70	Ⅰ	236.3	Gr. Mud
165	〃	N—64	〃	10.2	Sh	218	〃	O—62	Ⅰ	11.9	〃	271	〃	N—69	〃	86.0	〃
166	〃	K—68	Ⅲa	8.8	〃	219	〃	L—64	Ⅲb	20.9	〃	272	〃	J—68	〃	116.5	Gn
167	〃	O—67	Ⅰ	9.7	〃	220	〃	O—65	Ⅲa	25.7	〃	273	〃	K—62	Ⅲb	144.1	Scha
168	〃	L—68	Ⅲa	11.3	〃	221	〃	L—67	Ⅲb	52.0	〃	274	〃	J—66	攪乱	114.6	Gr. Mud
169	〃	M—65	〃	12.4	Aga	222	〃	N—67	Ⅲa	24.0	〃	275	礫器	J—67	Ⅲb	421.4	Sh
170	〃	L—68	Ⅲb	12.3	Sh	223	〃	O—69	〃	45.9	〃	276	〃	N—61	Ⅲb	283.3	Sa
171	〃	N—60	Ⅰ	20.5	〃	224	〃	O—68	〃	46.5	〃	277	〃	O—68	Ⅰ	173.5	Mud
172	〃	M—66	〃	31.4	〃	225	〃	N—65	Ⅰ	45.8	〃	278	石鋸	M—67	Ⅲa	14.3	Tu. Sa
173	〃	J—70	Ⅲb	21.9	〃	226	〃	N—64	Ⅲb	30.5	〃	279	〃	J—66	Ⅰ	110.4	And
174	〃	N—67	Ⅰ	28.0	〃	227	〃	O—69	Ⅲa	8.0	〃	280	〃	O—62	〃	670.0	〃
175	〃	N—64	〃	33.0	〃	228	〃	N—69	〃	6.2	〃	281	〃	L—69	Ⅲb	287.3	〃
176	〃	N—62	〃	25.6	〃	229	〃	O—69	〃	6.6	〃	282	〃	K—66	〃	71.8	〃
177	〃	K—65	Ⅲd	31.5	〃	230	〃	O—68	〃	11.4	〃	283	擦切痕ある礫	沢	攪乱	108.1	Gr. Mud
178	〃	M—69	Ⅲa	5.6	〃	231	〃	O—69	Ⅰ	28.7	〃	284	〃	L—65	Ⅲb	860.0	〃
179	〃	L—68	Ⅲb	13.1	〃	232	〃	M—68	Ⅲb	19.6	〃	285	〃	K—62	Ⅰ	390.6	〃
180	〃	N—69	Ⅰ	22.0	〃	233	楔形石器	O—68	Ⅲa	3.8	〃	286	すり石	J—68	〃	207.2	And
181	〃	〃	Ⅲ	17.8	〃	234	〃	M—69	〃	5.5	〃	287	〃	沢	攪乱	221.7	〃
182	スクレイパー	N—66	Ⅰ	2.2	〃	235	〃	O—65	〃	5.9	〃	288	〃	L—67	Ⅲb	284.3	〃
183	〃	N—67	〃	4.0	〃	236	〃	J—62	Ⅰ	7.1	〃	289	〃	〃	〃	392.0	〃
184	〃	O—68	〃	10.9	〃	237	〃	L—68	Ⅲb	12.2	〃	290	〃	N—69	Ⅰ	329.2	〃
185	〃	O—69	〃	8.4	〃	238	〃	O—68	Ⅲa	19.5	〃	291	〃	I—66	Ⅲd	488.2	〃
186	〃	N—66	〃	3.1	〃	239	〃	J—62	〃	7.6	〃	292	〃	J—67	Ⅲb	362.2	〃
187	〃	L—66	Ⅲa	5.7	〃	240	〃	J—63	Ⅲb	7.4	〃	293	〃	K—67	〃	446.0	〃
188	〃	N—60	Ⅰ	9.7	〃	241	〃	N—60	Ⅰ	9.1	〃	294	〃	J—67	〃	358.4	〃
189	〃	L—66	Ⅲa	10.6	〃	242	〃	J—67	Ⅲb	12.0	〃	295	〃	J—62	〃	551.4	〃
190	〃	N—67	〃	6.0	〃	243	〃	K—65	Ⅲd	11.1	〃	296	〃	沢	攪乱	513.4	〃
191	〃	O—69	〃	5.4	〃	244	〃	L—65	Ⅲa	10.7	〃	297	〃	J—67	Ⅲb	357.2	〃
192	〃	L—65	〃	11.1	〃	245	〃	K—62	攪乱	4.6	〃	298	〃	L—64	Ⅰ	558.6	Sa
193	〃	O—67	Ⅰ	6.1	〃	246	〃	K—68	Ⅲb	8.5	〃	299	〃	J—67	Ⅲd	640.0	And
194	〃	〃	〃	7.6	〃	247	〃	K—61	〃	11.6	〃	300	〃	K—63	Ⅲb	315.2	Sa
195	〃	O—68	Ⅲb	14.5	〃	248	〃	O—66	Ⅲa	7.2	〃	301	〃	K—62	Ⅲb	279.6	And
196	〃	N—64	Ⅲa	22.0	〃	249	〃	M—65	〃	10.4	〃	302	〃	K—67	Ⅲa	375.0	〃
197	〃	O—64	Ⅰ	15.0	〃	250	三脚石器	N—67	Ⅰ	33.9	〃	303	〃	J—62	Ⅲc	810.0	Gn
198	〃	O—69	Ⅲa	14.6	〃	251	〃	L—67	Ⅴ	24.5	〃	304	〃	K—63	Ⅰ	920.0	Sa
199	〃	N—65	〃	16.6	〃	252	〃	J—68	攪乱	29.0	〃	305	〃	J—67	Ⅲb	284.0	And
200	〃	O—64	Ⅲb	17.7	〃	253	異形石器	J—62	Ⅲa	4.9	〃	306	〃	O—67	Ⅲa	660	Sa
201	〃	O—65	Ⅲa	31.0	〃	254	〃	L—65	〃	7.3	Ob	307	〃	O—65	Ⅲb	378.0	〃
202	〃	O—68	〃	10.2	〃	255	トランシェ様石器	J—66	攪乱	20.4	Sh	308	〃	L—66	〃	750	〃
203	〃	O—64	Ⅲb	27.6	〃	256	〃	J—67	Ⅲb	29.2	〃	309	〃	J—62	〃	760	Q. P.
204	〃	O—63	Ⅰ	23.0	〃	257	〃	J—63	〃	57.9	〃	310	〃	J—65	Ⅰ	820	Sa
205	〃	O—66	Ⅲb	70.2	〃	258	〃	O—69	Ⅲa	100.9	〃	311	〃	N—62	Ⅲa	860	〃
206	〃	L—65	Ⅲa	63.1	〃	259	磨製石斧	O—66	Ⅰ	12.7	Mud	312	〃	J—67	Ⅲb	572.2	Gn
207	〃	O—67	〃	24.0	〃	260	〃	L—67	Ⅲb	6.5	Tu	313	〃	I—65	〃	177.4	Sa
208	〃	M—68	Ⅲb	33.2	〃	261	〃	O—64	Ⅰ	9.6	Mud	314	〃	L—64	〃	347.8	And
209	〃	M—60	〃	35.1	〃	262	〃	O—68	Ⅲa	21.9	Gr. Mud	315	〃	K—62	攪乱	700	〃
210	〃	M—64	Ⅲa	41.1	〃	263	〃	K—67	Ⅲb	50.1	〃	316	〃	沢	〃	595.4	〃
211	〃	M—65	〃	38.5	〃	264	〃	N—67	Ⅲa	50.5	Schi	317	〃	〃	〃	517.8	〃
212	〃	N—64	Ⅰ	37.6	〃	265	〃	N—68	Ⅲb	39.7	Gr. Mud	318	〃	J—66	Ⅲb	555.0	〃

表Ⅷ－13－(3)

番号	種別	出土区	層	重量(g)	石材	番号	種別	出土区	層	重量(g)	石材	番号	種別	出土区	層	重量(g)	石材
319	すり石	J－64	Ⅲb	1,060	And	372	くぼみ石	J－62	Ⅲb	132.8	Tu	425	円盤状土製品	K－67	Ⅲa	7.7	—
320	〃	N－68	Ⅰ	100.7	Pum	373	〃	K－62	〃	585.8	〃	426	〃	J－62	Ⅲd	16.3	—
321	〃	M－68	Ⅲa	225.8	And	374	〃	N－67	Ⅰ	147.2	〃	427	〃	〃	撹乱	11.1	—
322	〃	J－69	Ⅰ	480.8	〃	375	〃	L－66	Ⅲa	252.0	Sa	428	〃	N－68	Ⅰ	45.3	—
323	〃	J－67	Ⅲb	500	〃	376	〃	J－63	Ⅲb	740	Mud	429	〃	I－66	Ⅲd	8.1	—
324	〃	I－66	Ⅰ	600	〃	377	〃	O－69	Ⅲa	180.2	〃	430	〃	I－65	〃	43.8	—
325	〃	J－66	撹乱	710	〃	378	〃	N－66	Ⅰ	375.2	〃	431	〃	J－63	〃	12.3	—
326	〃	J－63	Ⅲc	1,040	〃	379	〃	J－62	Ⅲc	192.4	Sa	432	〃	J－62	撹乱	27.2	—
327	〃	沢	撹乱	880	〃	380	〃	沢	Ⅲd	1,210	Mud	433	〃	K－62	Ⅲb	20.9	—
328	〃	K－66	Ⅲa	1,090	Gn	381	〃	N－60	Ⅲb	174.4	Sa	434	〃	K－63	Ⅲd	14.0	—
329	〃	K－65	Ⅲd	830	And	382	〃	I－66	〃	389.1	Mud	435	〃	K－67	Ⅲa	24.5	—
330	〃	I－65	Ⅲb	1,000	〃	383	〃	K－62	〃	468.8	Tu	436	〃	K－62	Ⅲb	14.2	—
331	〃	J－67	〃	1,430	Gn	384	〃	〃	〃	405.2	Mud	437	〃	K－65	〃	22.3	—
332	〃	O－65	〃	940	And	385	〃	沢	撹乱	451.5	Sa	438	〃	J－67	〃	1.9	—
333	〃	K－62	〃	1,000	Dio	386	〃	L－68	Ⅲb	330.4	And	439	〃	O－64	Ⅰ	6.3	—
334	〃	J－67	〃	770	And	387	〃	O－67	Ⅲa	315.0	Mud	440	〃	J－67	Ⅲb	7.3	—
335	〃	K－66	Ⅲa	1,270	Gn	388	〃	K－62	〃	222.5	Tu	441	〃	M－69	Ⅲa	16.5	—
336	〃	J－66	撹乱	1,480	And	389	〃	〃	Ⅰ	245.8	Mud	442	〃	N－65	Ⅲb	10.4	—
337	〃	N－60	Ⅰ	151.6	〃	390	〃	L－64	Ⅲd	416.8	And	443	〃	M－65	Ⅲa	14.5	—
338	〃	J－62	Ⅲb	187.3	〃	391	〃	K－67	Ⅲb	396.3	Mud	444	〃	L－65	〃	12.1	—
339	〃	K－62	撹乱	356.2	〃	392	〃	J－63	〃	496.6	And	445	〃	M－65	〃	5.3	—
340	〃	K－65	Ⅲd	362.2	〃	393	〃	沢	撹乱	1,130	〃	446	〃	N－65	〃	19.8	—
341	〃	N－60	Ⅲa	470.6	〃	394	砥石	K－67・O－68	Ⅰ・Ⅲa	486.3	Tu	447	〃	O－63	〃	6.3	—
342	〃	N－65	Ⅰ	532.2	〃	395	〃	N－69・O－69	Ⅰ	464.8	〃	448	〃	I－64	Ⅲd	11.5	—
343	〃	沢	撹乱	484.0	〃	396	〃	O－67	〃	160.2	〃	449	〃	L－65	Ⅲa	6.0	—
344	〃	〃	〃	494.6	〃	397	〃	L－65	Ⅲa	610	Tu. Sa	450	耳飾り	M－66	〃	3.4	—
345	たたき石	J－67	Ⅲb	450.2	Sa	398	〃	N－68	Ⅰ	404.2	Tu	451	〃	J－62	Ⅲa	0.9	—
346	〃	J－63	〃	195.9	Che	399	石皿・台石	J－64	Ⅲb	—	And	452	〃	N－60	Ⅲb	26.1	—
347	〃	N－67	Ⅰ	380.6	Sa	400	〃	K－61	〃	—	〃	453	土製品	L－66	Ⅲa	2.4	—
348	〃	K－66	Ⅲb	318.0	Dac	401	〃	O－63	Ⅰ	—	〃	454	鐸形土製品	N－67	Ⅲb	15.7	—
349	〃	J－67	〃	394.2	Sa	402	〃	M－67	Ⅲb	—	〃	455	〃	N－66	〃	78.6	—
350	〃	L－66	Ⅲa	261.2	And	403	〃	L－66	〃	—	〃	456	土製品	O－63	Ⅲa	15.1	—
351	〃	M－65	Ⅲb	211.0	Sa	404	〃	N－64	Ⅰ	—	〃	457	玉	M－64	Ⅰ	0.9	Per
352	〃	J－64	Ⅲd	189.5	〃	405	石錘	N－68	〃	17.7	Tu	458	〃	K－67	Ⅲa	5.2	不明
353	〃	K－66	Ⅰ	283.4	〃	406	〃	M－69	Ⅲa	41.8	〃	459	〃	O－66	Ⅰ	1.5	Tu
354	〃	K－62	Ⅲb	413.4	〃	407	〃	M－63	Ⅲb	123.4	Sa	460	垂飾品	N－67	〃	1.7	〃
355	〃	沢	撹乱	238.3	〃	408	〃	K－66	〃	207.2	Rhy	461	〃	K－67	Ⅲa	3.3	Tal
356	〃	J－67	Ⅲb	429.2	〃	409	〃	J－62	Ⅲa	214.5	Sa	462	〃	M－67	Ⅰ	6.3	Tu
357	〃	〃	〃	419.6	Tu	410	石冠	K－65	Ⅲd	660	〃	463	〃	N－62	Ⅲa	12.2	〃
358	〃	K－68	Ⅰ	470.4	Sa	411	石刀	K－66	Ⅲb	97.8	Sl	464	〃	L－68	Ⅲb	3.4	Jad
359	〃	J－68	〃	303.6	〃	412	〃	沢	撹乱	150.7	〃	465	〃	O－68	〃	2.8	〃
360	〃	N－68	Ⅲb	352.4	And	413	〃	M－65	Ⅲa	1,160	〃	466	石製品	O－63	Ⅲa	8.9	Tu
361	〃	沢	撹乱	315.0	Sa	414	土偶	M－64	〃	48.8	—	467	〃	L－65	〃	12.6	〃
362	〃	L－65	Ⅲa	337.4	And	415	〃	O－66・P－63	Ⅰ・Ⅲa	45.0	—	468	〃	O－64	Ⅲb	17.7	〃
363	〃	L－64	Ⅲd	418.8	Sa	416	〃	L－66・M－65	Ⅰ・Ⅲa	137.4	—	469	〃	L－69	〃	31.5	〃
364	〃	O－66	Ⅲa	414.8	〃	417	足形付土版	J－62	Ⅲd	131.3	—	470	〃	L－68	Ⅰ	27.4	〃
365	〃	J－63	Ⅲb	392.0	Tu	418	円盤状土製品	K－67	Ⅲb	20.9	—	471	磨痕ある剝片	M－65	Ⅲb	23.8	Sh
366	〃	N－60	Ⅰ	237.0	〃	419	〃	M－67	Ⅲa	18.9	—						
367	〃	M－65	〃	444.0	Sa	420	〃	J－62	Ⅲc	9.8	—						
368	〃	J－67	Ⅲb	473.8	〃	421	〃	L－68	Ⅲb	8.5	—						
369	〃	L－65	Ⅲa	315.8	〃	422	〃	L－69	Ⅰ	8.3	—						
370	〃	N－65	Ⅲb	393.8	〃	423	〃	I－65	Ⅲb	5.7	—						
371	くぼみ石	〃	〃	269.3	Mud	424	〃	J－62	〃	10.2	—						

動物遺存体一覧表　　表Ⅷ－14

遺構番号	層	重　量	同定結果	サンプル
CH-3	覆土	0.043	魚骨(含鰭棘骨)	焼土
	〃	0.078	〃	〃
CH-4	覆土	0.175	魚骨(含鰭棘骨)	焼土
	〃	0.277	〃	〃
CH-10	床	0.010	獣骨片	焼土(HF-2)
CP-5	底	0.076	サケ椎体	土壌
	〃	0.744	獣骨片	〃
		0.624	魚骨	柱穴状ピット内土壌
		0.028	魚骨(含鰭棘片)	〃
		0.053	サケ歯・椎体片	〃
		0.421	魚骨（含鰭棘片・サケ椎骨)	壙底出土土器内土壌
		0.024	獣骨	〃
CP-7		0.019	魚骨(含鰭棘骨)	土壌・焼土
CF-5		0.635	魚骨片	焼土
		0.646	〃	〃
		0.002	魚骨(含鰭棘片)	〃
		0.052	〃	〃
		0.950	獣骨片	〃
		1.589	〃	〃
CF-7		0.009	魚骨(含鰭棘骨)	土壌、焼土
CF-16		2.588	海棲獣骨片	焼土
		0.633	魚骨(含ニシン尾椎)	〃
		1.038	サケ	〃
		0.738	魚骨(含椎体・鰭棘片)	〃
		0.641	獣骨片	〃
		0.008	タヌキ？末節骨	〃
		0.085	魚骨(含鰭棘片)	〃
CF-16		0.008	魚骨(含鰭棘片)	焼土
		0.118	〃	〃
		0.807	含シカ椎骨・ウグイ椎骨	〃
		0.024	魚骨(含鰭棘骨)	〃
		0.099	〃	〃
		0.016	獣骨･魚骨(含ウグイ腹椎・尾椎)	〃
		0.110	獣骨	〃
		0.189	魚骨(含鰭棘骨)	〃
		0.016	〃	〃
		0.308	〃	〃
		0.050	カレイ、その他？	〃
CF-19		0.596	鳥骨(中手？骨)	焼土
		0.665	ニシン腹椎・尾椎・棘片)	〃
		0.633	獣骨片	〃
		0.986	〃	〃
		0.003	魚骨(含鰭刺骨)	〃
		0.053	〃	〃
CF-28		0.114	獣骨片	焼土
CF-30		0.028	魚骨(カレイ類)	焼土
		0.667	魚骨	〃
CF-31		0.044	獣骨片	焼土
CF-33		0.040	魚骨(サケ類)	焼土
CF-40		0.178	魚骨(含鰭棘骨)	焼土
		0.295	〃	〃
CF-42		0.089	魚骨(含鰭棘骨)	焼土
		0.164	〃	〃

図版　Ⅰ

Ｃ地区　調査風景

Ｃ地区　全完掘風景

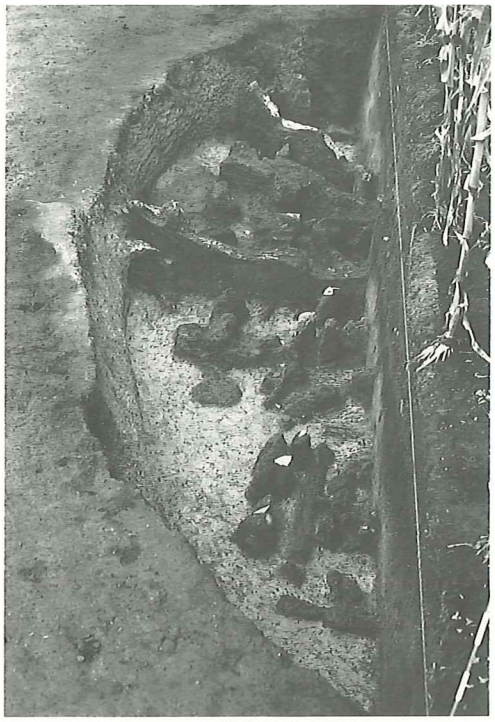
図版　2

調査風景（沢部分）

調査風景（沢部分）

調　査　風　景

図版　3



ＣＨ－１　炭化材出土状況

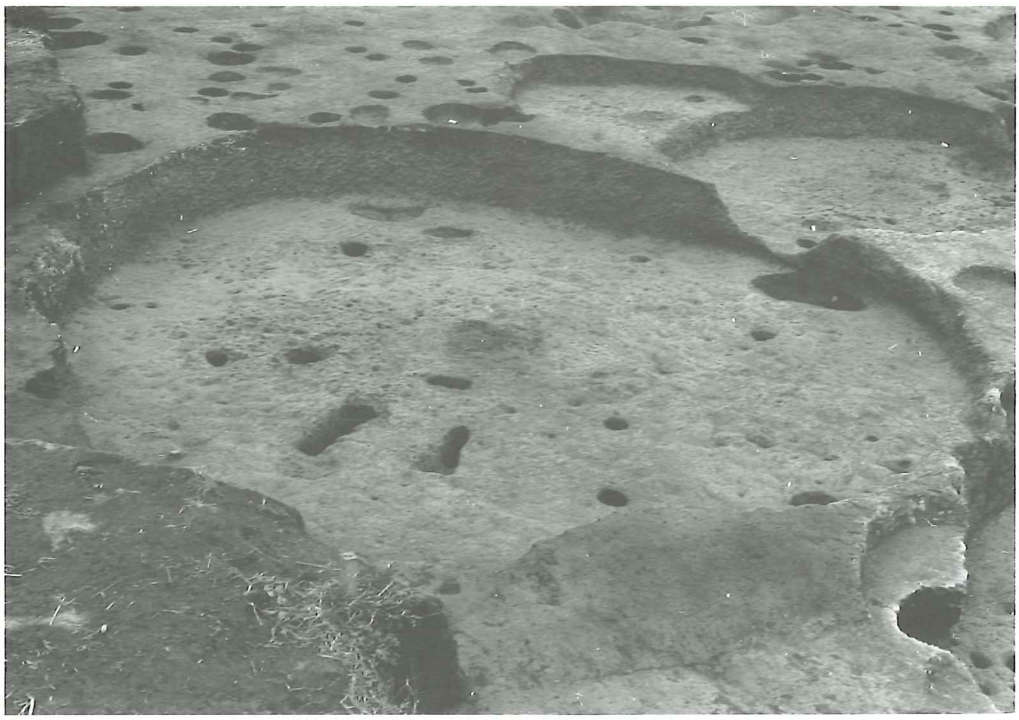
ＣＨ－１　完　掘

ＣＨ－２　床面炭化材と土器片出土状況

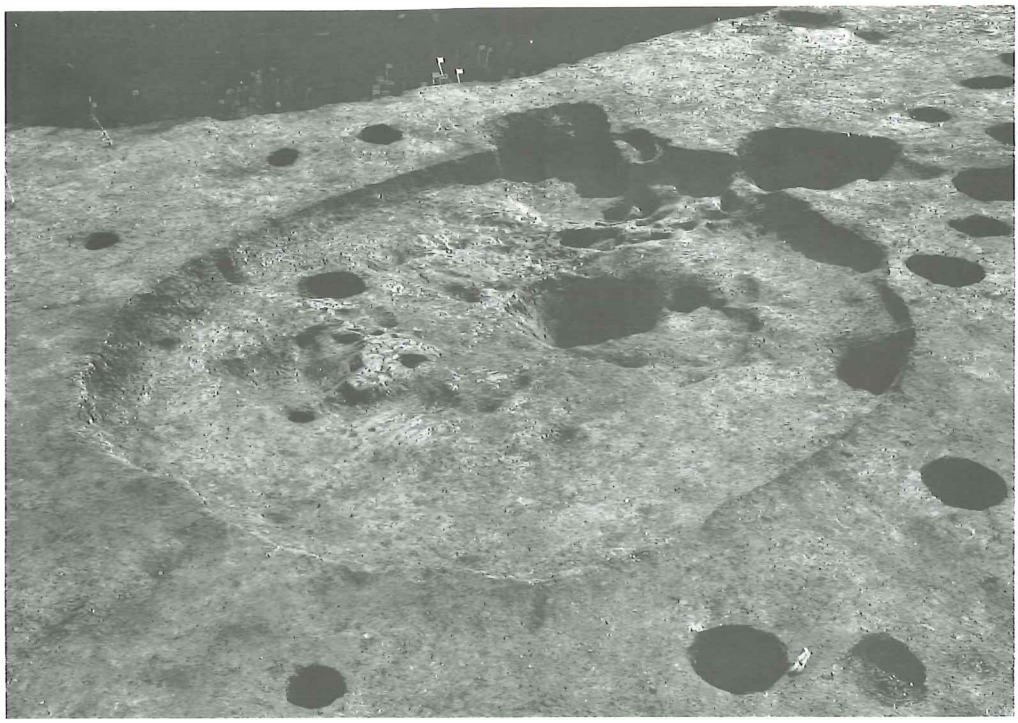
ＣＨ－２　覆土遺物出土状況

ＣＨ－２　炭化材出土状況

図版　4



ＣＨ－２　完



ＣＨ－３　完　　掘

図版　5

ＣＨ－４　完掘

ＣＨ－４　床面炉（土器片と礫）

ＣＨ－５　覆土土器出土状況

ＣＨ－５　床面遺物出土状況

ＣＨ－５　完　　掘

図版 6

ＣＨ－７・９　完　掘

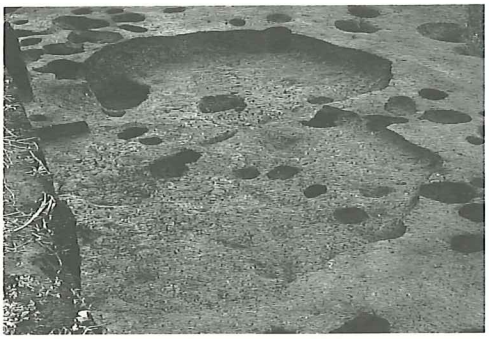
ＣＨ－７・９　セクションと遺物出土状況

ＣＨ－10　床面遺物出土状況

ＣＨ－10　床面炉のセクション

ＣＨ－10　完　　掘

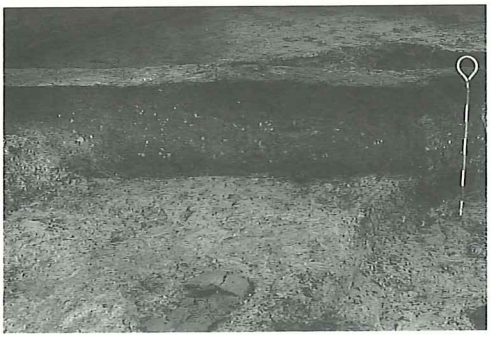
図版 7



ＣＨ－11・12　完掘

ＣＨ－11　床面炉（土器片囲い炉）

ＣＨ－11　完　　掘



ＣＨ－13　セクション

ＣＨ－13　完掘

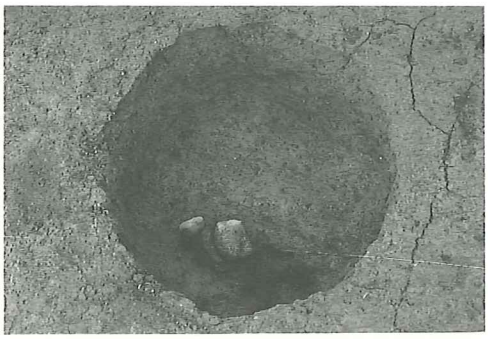
図版 8

ＣＴＰ－Ⅰ　セクション

ＣＴＰ－Ⅰ完掘

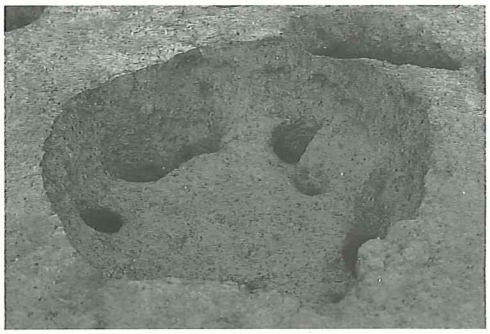
ＣＰ－５と立石

図版 9

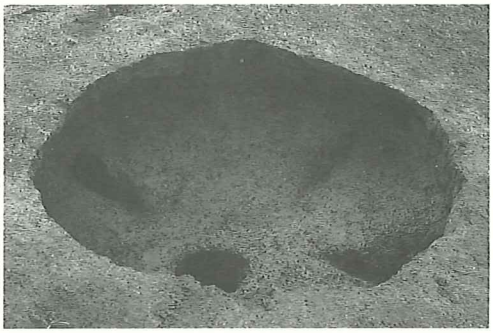


ＣＰ－７　完掘

ＣＰ－８　完掘



ＣＰ－12　完掘



ＣＰ－13　完掘

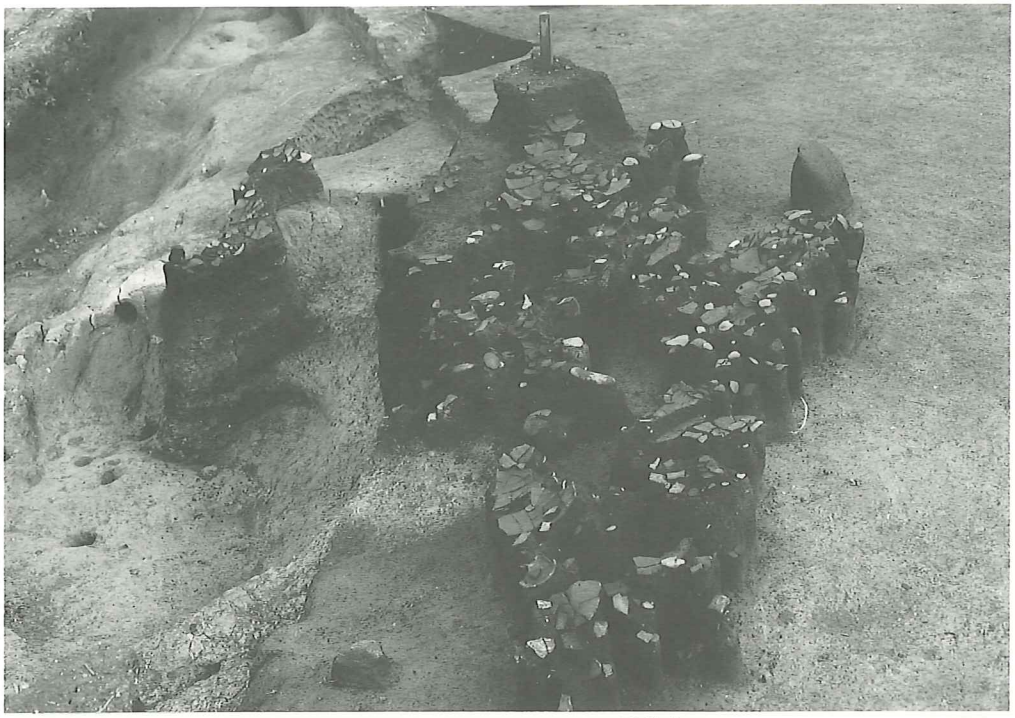
包含層Ⅲ層土器出土状況（後期図Ⅷ－93－62）

図版 10

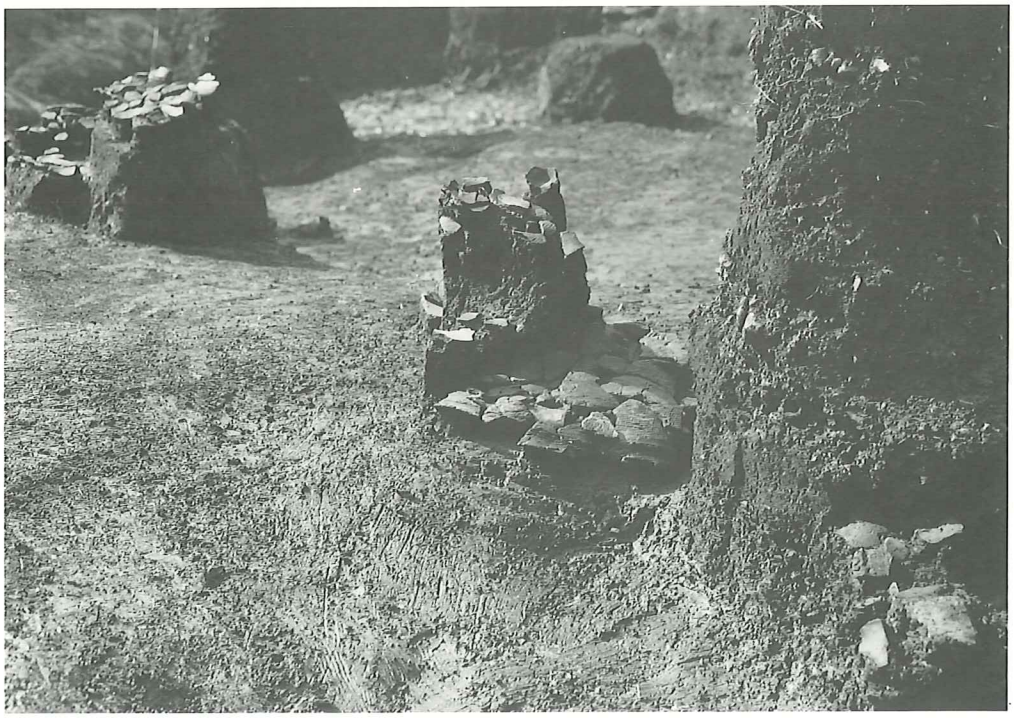
沢部分土器出土状況　土器集中Ⅱ

沢部分土器出土状況　土器集中Ⅱ

図版 11



Ｍ・Ｎ－65 Grid　土器出土状況　土器集中Ⅲ



包含層Ⅲｄ層　土器出土状況（前期）

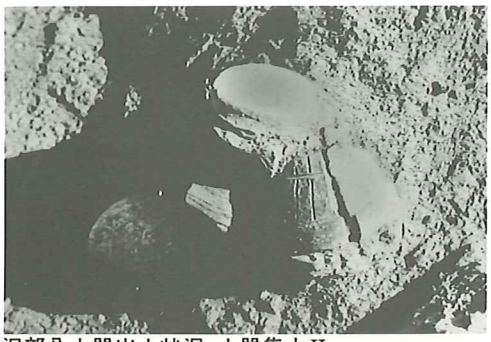
図版 12

包含層Ⅲｃ・ｄ層　土器出土状況（前期～中期）

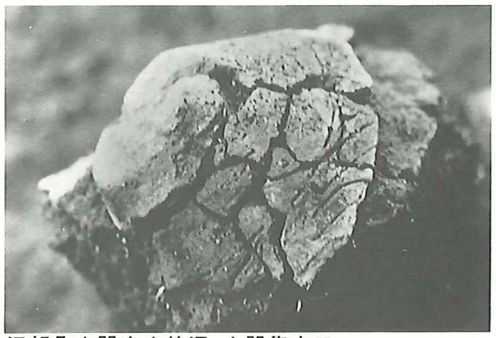
包含層Ⅲｃ・ｄ層　土器出土状況（前期～中期）

包含層Ⅲｄ層 土器出土状況（前期）

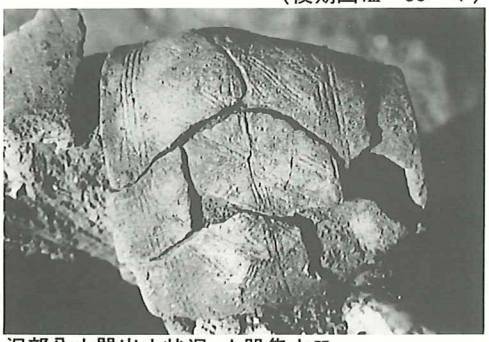
図版 13



沢部分土器出土状況　土器集中Ⅱ
（後期図Ⅷ－66－４）



沢部分土器出土状況　土器集中Ⅱ
（後期図Ⅷ－69－25）

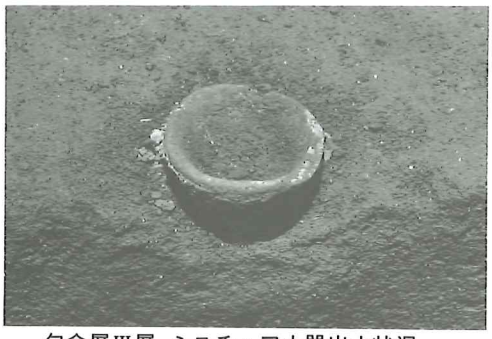


沢部分土器出土状況　土器集中Ⅱ
（後期図Ⅷ－67－11）

沢部分土器出土状況　土器集中Ⅱ
（後期図Ⅷ－69－21）

沢部分土器出土状況　土器集中Ⅱ（後期図Ⅷ－66－５）

図版 14



包含層Ⅲ層　ミニチュア土器出土状況
（図Ⅷ－95－70）

包含層Ⅲ層　鐸形土製品（図Ⅷ－159－455）

包含層Ⅲ層下　土器出土状況（図Ⅷ－84－５）

図版 15

Ⅳ群Ｃ類　ＣＨ－１（図Ⅷ－５－１）

Ⅳ群Ｃ類　ＣＨ－２（図Ⅷ－10－５）

Ⅳ群Ｃ類　ＣＨ－２（図Ⅷ－10－３）

図版 18

Ⅲ群Ａ類　ＣＨ－５（図Ⅷ－21－６）

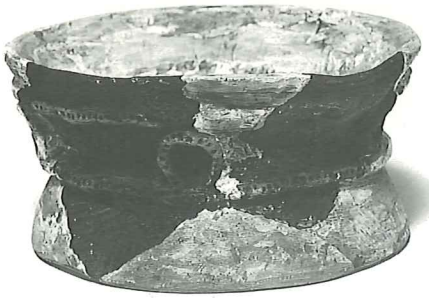
図版 19

Ⅲ群Ａ類　ＣＨ－５（図Ⅷ－22－７）

Ⅲ群Ｂ$_1$類　ＣＨ－７（図Ⅷ－32－４）

Ⅲ群Ａ類　ＣＨ－６（図Ⅷ－27－２）

Ⅲ群Ａ類　ＣＨ－９（図Ⅷ－36－２）



Ⅲ群Ｂ$_2$類　ＣＨ－６（図Ⅷ－27－５）

図版 20

Ⅲ群Ｂ₂類　ＣＨ－10（図Ⅷ－38－２）

Ⅲ群Ｂ₁類　ＣＨ－11（図Ⅷ－41－１）

Ⅳ群Ａ₂類　ＣＰ－５（図Ⅷ－48－１）

Ⅴ群Ｂ類　ＣＨ－10（図Ⅷ－38－10）

図版 21

Ⅲ群Ａ類　土器集中Ⅰ（図Ⅷ－53－１）

Ⅱ群Ｂ類　土器集中Ⅰ（図Ⅷ－53－2ａ）

Ⅱ群Ｂ類　土器集中Ⅰ（図Ⅷ－53－4ａ）

Ⅱ群Ｂ類　土器集中Ⅰ（図Ⅷ－53－4ｂ）

図版 22

II群Ｂ類　土器集中Ｉ（図Ⅷ－54－６）

II群Ｂ類　土器集中Ｉ（図Ⅷ－54－８）

II群Ｂ類　土器集中Ｉ（図Ⅷ－54－７）

II群Ｂ類　土器集中Ｉ（図Ⅷ－55－10）

II群Ｂ類　土器集中Ｉ（図Ⅷ－54－９）

図版 23

Ⅲ群Ａ類　土器集中Ⅰ（図Ⅷ－55－11）

Ⅱ群Ｂ類　土器集中Ⅰ（図Ⅷ－55－12）

Ⅱ群Ｂ類　土器集中Ⅰ（図Ⅷ－55－14）

Ⅱ群Ｂ類　土器集中Ⅰ

図版 24

Ⅳ群Ｂ類　土器集中Ⅱ（図Ⅷ－66－１）

Ⅳ群Ａ$_2$類　土器集中Ⅱ（図Ⅷ－66－３）

Ⅳ群Ａ$_2$類　土器集中Ⅱ（図Ⅷ－66－４）

Ⅳ群Ａ$_2$類　土器集中Ⅱ（図Ⅷ－66－２）

Ⅳ群Ａ$_2$類　土器集中Ⅱ（図Ⅷ－66－５）

図版 25

Ⅳ群Ａ$_2$類　土器集中Ⅱ（図Ⅷ－66－６）

Ⅳ群Ａ$_2$類　土器集中Ⅱ（図Ⅷ－67－８）

Ⅳ群Ａ$_2$類　土器集中Ⅱ（図Ⅷ－67－９）

Ⅳ群Ａ$_2$類　土器集中Ⅱ（図Ⅷ－67－７）

Ⅳ群Ａ$_2$類　土器集中Ⅱ（図Ⅷ－67－10）

図版 26

Ⅳ群Ａ$_2$類　土器集中Ⅱ（図Ⅷ－71－42）

Ⅳ群Ａ$_2$類　土器集中Ⅱ（図Ⅷ－69－22）

Ⅳ群Ａ$_2$類　土器集中Ⅱ（図Ⅷ－69－21）

Ⅳ群Ａ$_2$類　土器集中Ⅱ（図Ⅷ－69－23）

図版 27

Ⅳ群Ａ$_2$類　土器集中Ⅱ（図Ⅷ－70－33）

Ⅳ群Ａ$_2$類　土器集中Ⅱ（図Ⅷ－70－34）

Ⅳ群Ａ$_2$類　土器集中Ⅱ（図Ⅷ－70－35）

Ⅳ群Ａ$_2$類　土器集中Ⅱ（図Ⅷ－71－41）

図版 28

Ⅵ群Ａ$_2$類　土器集中Ⅱ（図Ⅷ－71－43）

図版 29

Ⅳ群Ａ$_2$類　土器集中Ⅱ（図Ⅷ－67－11）

Ⅳ群Ａ$_2$類　土器集中Ⅱ（図Ⅷ－68－13）

Ⅳ群Ａ$_2$類　土器集中Ⅱ（図Ⅷ－68－15）

Ⅳ群Ａ$_2$類　土器集中Ⅱ（図Ⅷ－68－19）

図版 30

Ⅲ群Ｂ$_1$類　土器集中Ⅱ（図Ⅷ－57－２）

Ⅳ群Ａ$_2$類　土器集中Ⅱ（図Ⅷ－57－４）

Ⅳ群Ａ$_2$類　土器集中Ⅱ（図Ⅷ－57－３）

Ⅳ群Ａ$_2$類　土器集中Ⅱ（図Ⅷ－58－15）

図版 31

Ⅳ群Ａ$_2$類　土器集中Ⅱ（図Ⅷ－57－８）

Ⅳ群Ａ$_2$類　土器集中Ⅱ（図Ⅷ－58－16）

Ⅲ群Ｂ$_2$類　土器集中Ⅱ（図Ⅷ－58－13）

Ⅳ群Ａ$_2$類　土器集中Ⅱ（図Ⅷ－58－17）

Ⅳ群Ａ$_2$類　土器集中Ⅱ（図Ⅷ－58－18）

図版 32

Ⅳ群Ａ$_2$類　土器集中Ⅱ（図Ⅷ－58－19）

Ⅳ群Ａ$_2$類　土器集中Ⅱ（図Ⅷ－58－20）

Ⅲ群Ａ類　土器集中Ⅱ（図Ⅷ－59－23）

Ⅳ群Ａ$_2$類　土器集中Ⅱ（図Ⅷ－59－21）

Ⅳ群Ａ$_2$類　土器集中Ⅱ（図Ⅷ－59－28）

図版 33

Ⅳ群Ａ$_2$類　土器集中Ⅱ（図Ⅷ－59－29）

Ⅴ群Ｂ類　土器集中Ⅲ（図Ⅷ－79－１）

Ⅳ群Ａ$_2$類　土器集中Ⅱ（図Ⅷ－59－30）

Ⅴ群Ｂ類　土器集中Ⅲ（図Ⅷ－79－２）

Ⅳ群Ａ$_2$類　土器集中Ⅱ（図Ⅷ－59－32）

Ⅴ群Ｂ類　土器集中Ⅲ（図Ⅷ－79－４）

図版34

Ⅴ群Ｂ類　土器集中Ⅲ（図Ⅷ－79－６）

Ⅴ群Ｂ類　土器集中（図Ⅷ－79－10）

Ⅴ群Ｂ類　土器集中Ⅲ（図Ⅶ－79－８）

Ⅴ群Ｂ類　土器集中Ⅲ（図Ⅷ－79－11）

Ⅴ群Ｂ類　土器集中Ⅲ（図Ⅶ－79－９）

Ⅴ群Ｂ類　土器集中Ⅲ（図Ⅷ－79－12）

図版　35

Ⅴ群Ｂ類　土器集中Ⅲ（図Ⅷ－79－13）

Ⅴ群Ｂ類　土器集中Ⅲ（図Ⅷ－80－16）

Ⅴ群Ｂ類　土器集中Ⅲ（図Ⅷ－79－14）

Ⅴ群Ｂ類　土器集中Ⅲ（図Ⅷ－80－18）

Ⅴ群Ｂ類　土器集中Ⅲ（図Ⅷ－80－15）

Ⅴ群Ｂ類　土器集中Ⅲ（図Ⅷ－80－19）

図版　36

Ⅲ群Ａ類　包含層（図Ⅷ－83－２）

Ⅲ群Ａ類　包含層（図Ⅷ－83－３Ｃ）

Ⅲ群Ａ類　包含層（図Ⅷ－83－４）

Ⅲ群Ａ類　包含層（図Ⅷ－83－３ｂ）

Ⅴ群Ｂ類　包含層（図Ⅷ－84－７ｂ）

図版　37

Ⅲ群Ａ類　包含層（国Ⅷ－83－３ａ）

Ⅲ群Ａ類　包含層（図Ⅷ－84－５）

Ⅴ群Ｂ類　包含層（図Ⅷ－84－７ａ）

Ⅱ群Ｂ$_2$類　包含層（図Ⅷ－83－Ｉａ）

図版　38

Ⅱ群Ｂ$_2$類　包含層（図Ⅷ－83－１ｂ）

Ⅳ群Ａ$_2$類　包含層（図Ⅷ－84－６）

Ⅱ群Ｂ$_2$類　包含層（図Ⅷ－85－１）

Ⅱ群Ｂ$_2$類　包含層（図Ⅷ－85－３）

図版　39

II群Ｂ₂類　包含層（図Ⅷ－86－４）

III群Ａ類　包含層（図Ⅷ－86－８）

III群Ａ類　包含層（図Ⅷ－87－10）

II群Ｂ₂類　包含層（図Ⅷ－85－２）

III群Ａ類　包含層（図Ⅷ－87－12）

図版　40

Ⅲ群Ａ類　包含層（図Ⅷ－86－９）

図版　41

Ⅲ群Ａ類　包含層（図Ⅷ－87－11）

Ⅲ群Ａ類　包含層（図Ⅷ－87－14）

Ⅲ群Ａ類　包含層（図Ⅷ－87－15）

Ⅲ群Ａ類　包含層（図Ⅷ－87－13）

Ⅲ群Ｂ$_2$類　包含層（図Ⅷ－88－20）

図版　42

Ⅲ群Ａ類　包含層

Ⅲ群Ｂ$_2$類　包含層（図Ⅷ－88－21）

Ⅲ群Ｃ類　包含層（図Ⅷ－88－25）

Ⅳ群Ａ類　包含層（図Ⅷ－88－27）

Ⅳ群Ａ$_2$類　包含層（図Ⅷ－95－72）

図版　43

Ⅳ群Ｂ類　包含層（図Ⅷ－97－92）

Ⅳ群Ａ$_2$類　包含層（図Ⅷ－95－69）

Ⅳ群Ａ$_2$類　包含層（図Ⅷ－95－68）

Ⅳ群Ａ$_2$類　包含層（図Ⅷ－89－34）

図版　44

Ⅳ群Ａ$_2$類　包含層（図Ⅷ－90－38）

Ⅳ群Ａ$_2$類　包含層（図Ⅷ－96－74）

Ⅳ群Ａ$_2$類　包含層（図Ⅷ－96－73）

Ⅳ群Ａ$_2$類　包含層（図Ⅷ－90－93）

Ⅳ群Ａ$_2$類　包含層（図Ⅷ－93－58）

Ⅳ群Ａ$_2$類　包含層（図Ⅷ－89－30）

図版　45

Ⅳ群Ａ$_2$類　包含層（図Ⅷ－90－40）

Ⅳ群Ａ$_2$類　包含層（図Ⅷ－89－31）

Ⅳ群Ａ$_2$類　包含層（図Ⅷ－89－28）

Ⅳ群Ａ$_2$類　包含層（図Ⅷ－89－33）

Ⅳ群Ａ$_2$類　包含層（図Ⅷ－90－37）

図版　46

Ⅳ群Ａ$_2$類　包含層（図Ⅷ－90－41）

Ⅳ群Ａ$_2$類　包含層（図Ⅷ－91－46）

Ⅳ群Ａ$_2$類　包含層（図Ⅷ－91－49）

Ⅳ群Ａ$_2$類　包含層（図Ⅷ－91－44）

Ⅳ群Ａ$_2$類　包含層（図Ⅷ－92－50）

図版　47

Ⅳ群Ａ$_2$類　包含層（図Ⅷ－91－48）

Ⅳ群Ａ$_2$類　包含層（図Ⅷ－91－47）

Ⅳ群Ａ$_2$類　包含層（図Ⅷ－88－26）

Ⅳ群Ａ$_2$類　包含層（図Ⅷ－94－59）

図版　48

Ⅳ群Ａ$_2$類　包含層（図Ⅷ－93－54）

Ⅳ群Ａ$_2$類　包含層（図Ⅷ－93－57）

Ⅳ群Ａ$_2$類　包含層（図Ⅷ－93－55）

Ⅳ群Ａ$_2$類　包含層（図Ⅷ－93－62）

Ⅳ群Ａ$_2$類　包含層（図Ⅷ－94－60）

図版　49

Ⅳ群Ａ$_2$類　包含層（図Ⅷ－96－78）

Ⅳ群Ａ$_2$類　包含層（図Ⅷ－96－80）

Ⅳ群Ｂ類　包含層（図Ⅷ－97－89）

Ⅳ群Ａ$_2$類　包含層（図Ⅷ－96－79）

Ⅳ群Ｂ類　包含層（図Ⅷ－98－96）

図版　50

Ⅳ群Ｂ類　包含層（図Ⅷ－98－97）

Ⅳ群Ｂ類　包含層（図Ⅷ－97－90）

Ⅳ群Ｃ類　包含層（図Ⅷ－97－101）

Ⅳ群Ｃ類　包含層（図Ⅷ－98－100）

図版　51

Ⅳ群Ｃ類　包含層（図Ⅷ－98－98）

Ⅳ群Ｃ類　包含層（図Ⅷ－98－99）

Ⅳ群Ｃ類　包含層（図Ⅷ－98－103）

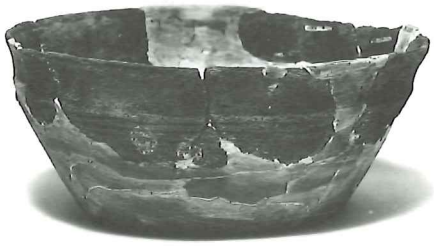
Ⅳ群Ｃ類　包含層（図Ⅷ－98－102）

Ⅴ群Ｂ類　包含層（図Ⅷ－99－106）

Ⅴ群Ｂ類　包含層（図Ⅷ－99－107）

図版　52

Ⅴ群Ｂ類　包含層（図Ⅷ－99－108）



Ⅴ群Ｂ類　包含層（図Ⅷ－99－111）

Ⅴ群Ｃ類　包含層（図Ⅷ－99－113）

Ⅴ群Ｂ類　包含層（図Ⅷ－99－112）

Ⅴ群Ｂ類　包含層（図Ⅷ－99－114）

Ⅴ群Ｂ類　包含層（図Ⅷ－99－116）

図版　53

Ⅴ群Ｂ類　包含層（図Ⅷ－100－125）

Ⅴ群Ｂ類　包含層（図Ⅷ－100－121）

Ⅴ群Ｂ類　包含層（図Ⅷ－100－119）

Ⅴ群Ｂ類　包含層（図Ⅷ－100－122）

Ⅴ群Ｂ類　包含層（図Ⅷ－100－123）

図版　54

Ⅴ群Ｂ類　包含層（図Ⅷ－100－118）

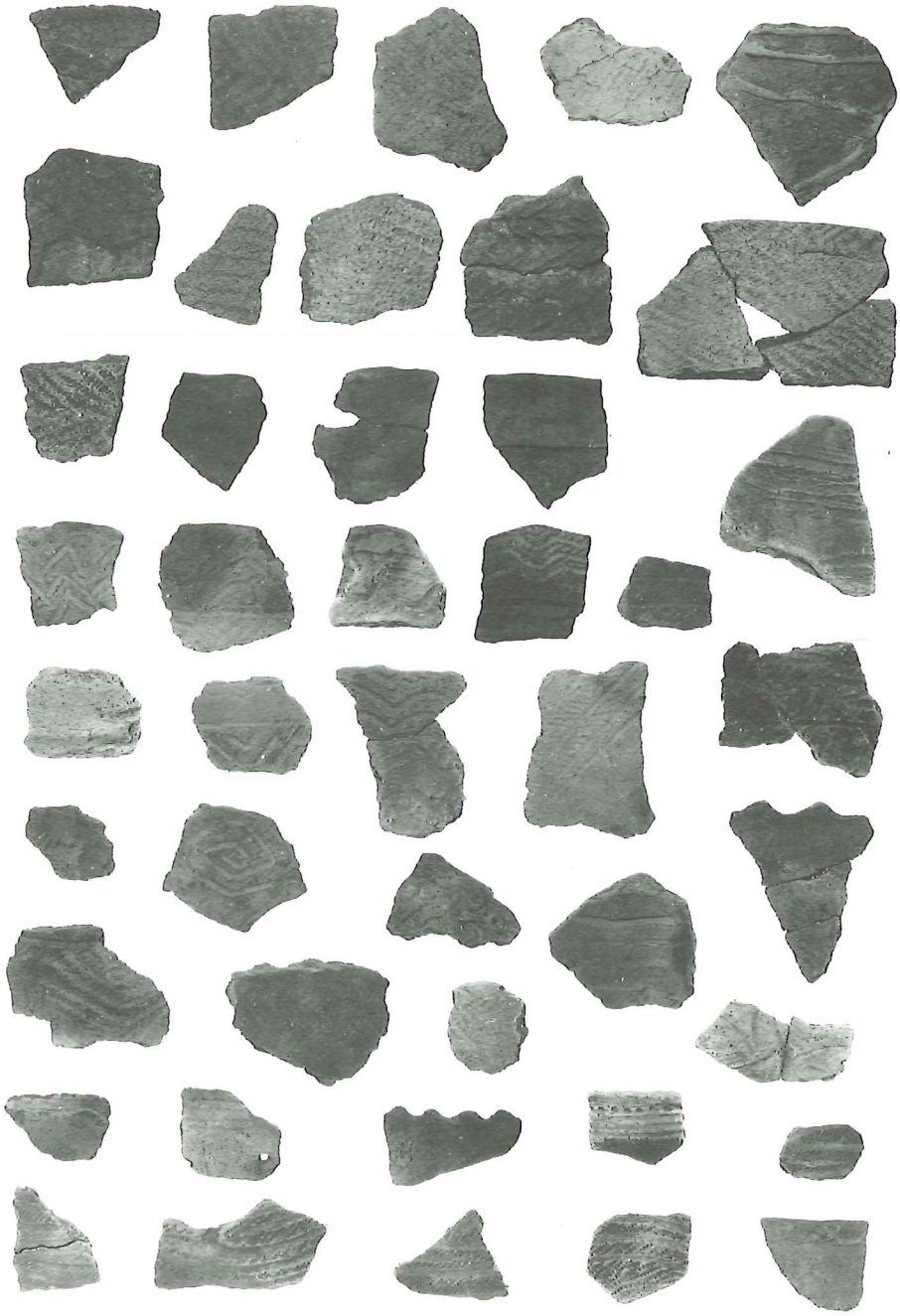
Ⅴ群Ｂ類　包含層（図Ⅷ－100－117）

Ⅳ群Ｂ類　包含層（図Ⅷ－97－93）

図版　55

Ⅴ群Ｂ類　包含層

図版　56

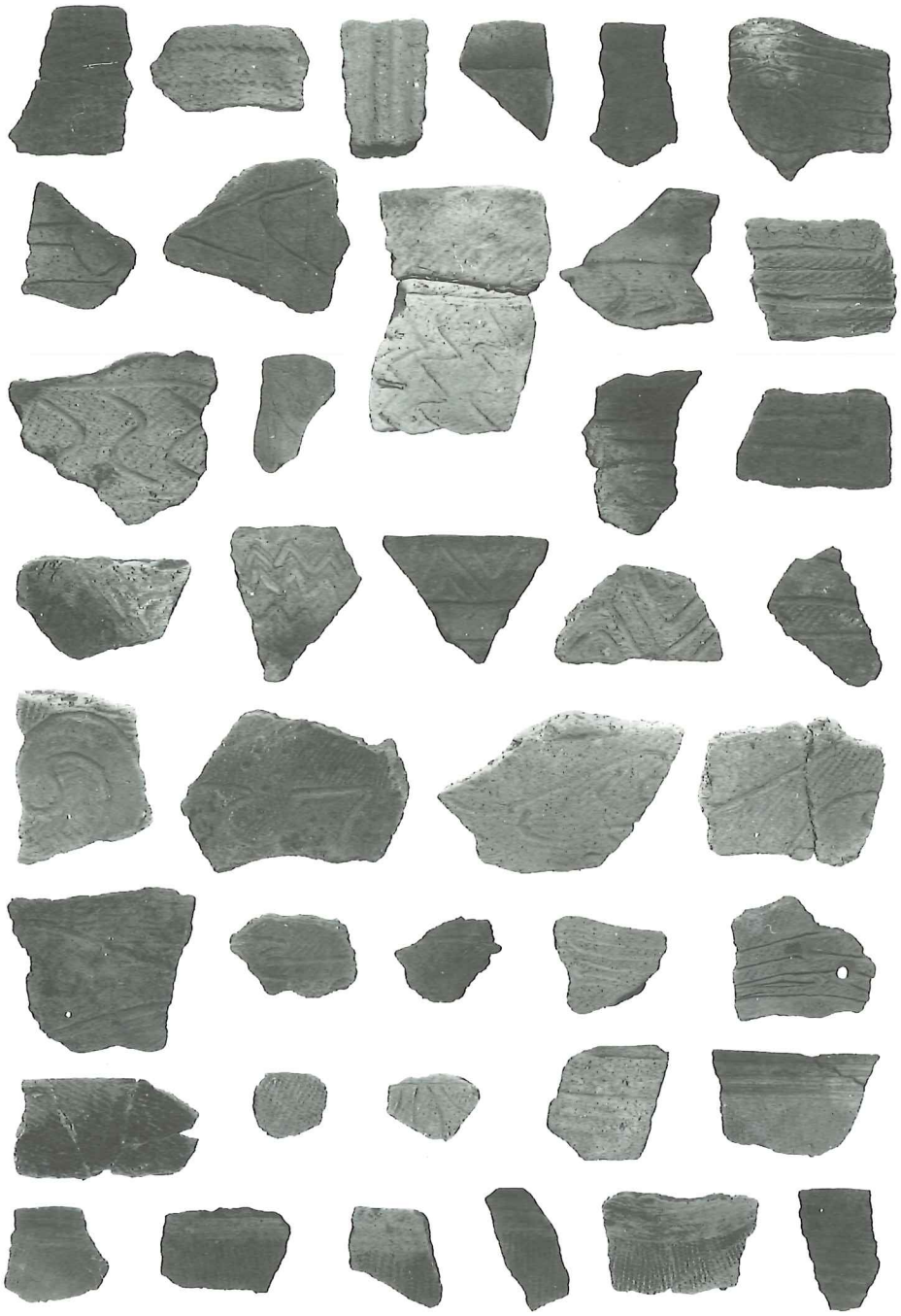


ＣＨ－Ｉ　出土の土器

図版　57

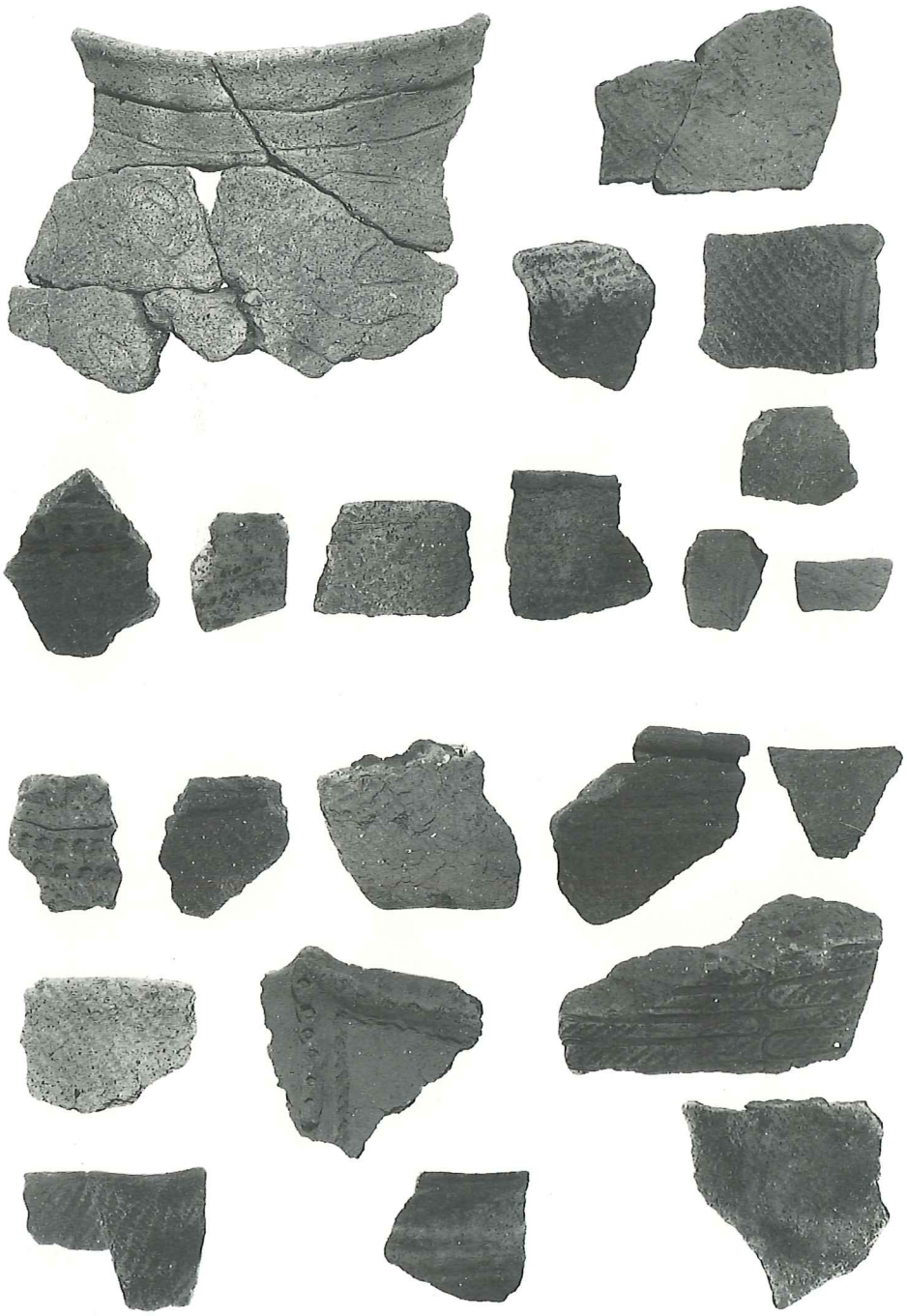
ＣＨ－２　出土の土器

図版　58



ＣＨ－２　出土の土器

図版　59



ＣＨ－3・4出土の土器

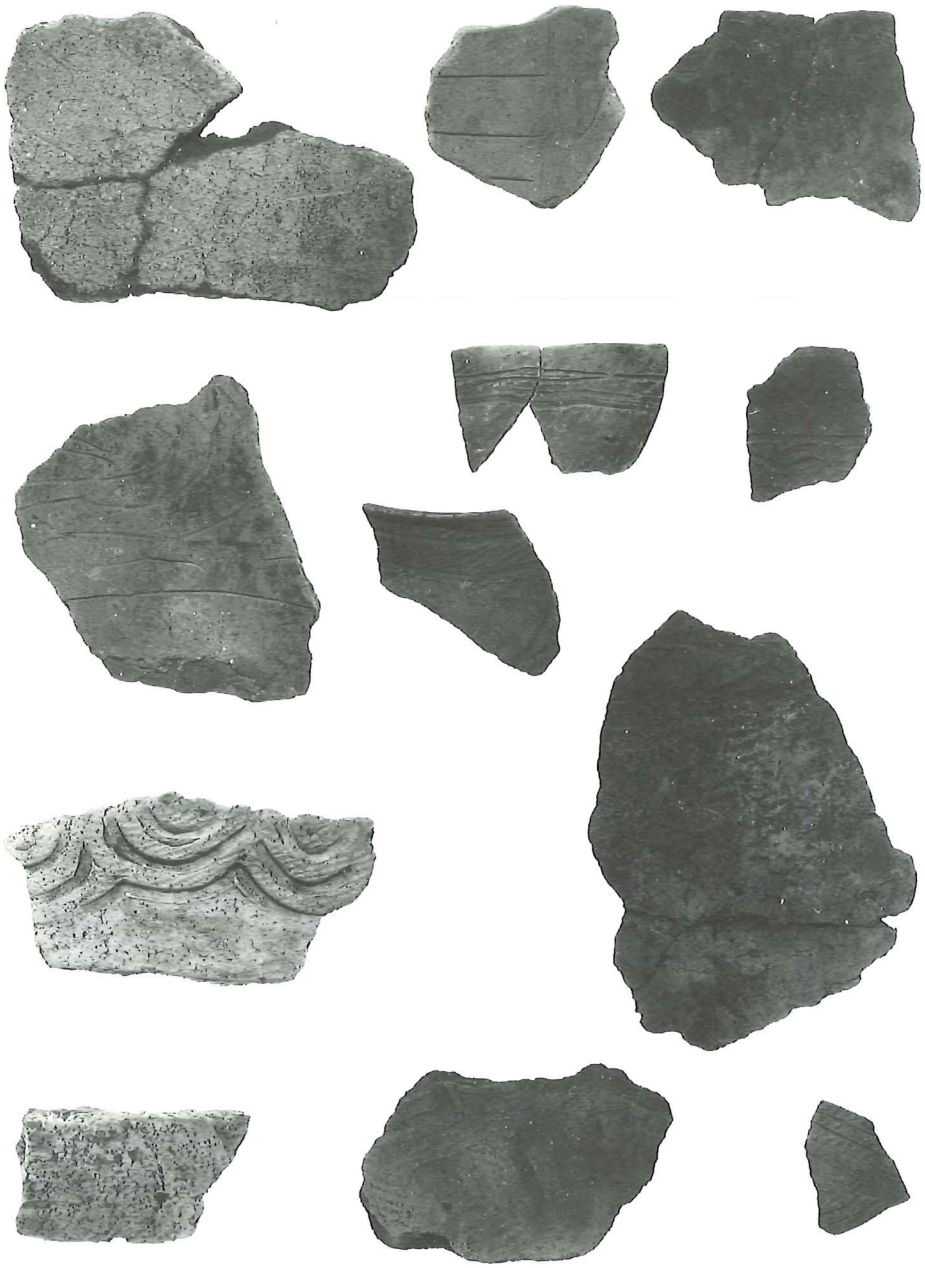
図版　60

ＣＨ－５　出土の土器

図版　61

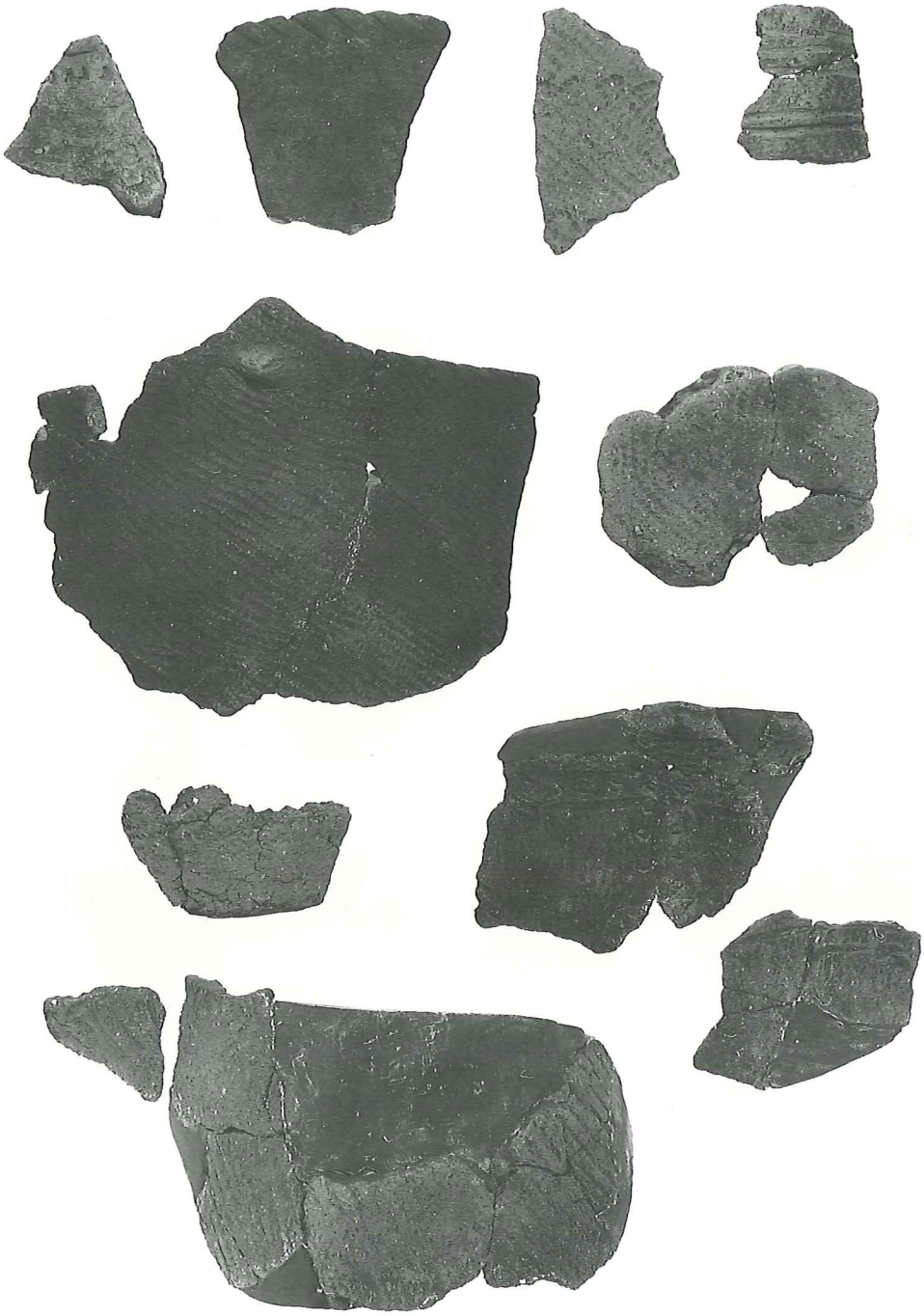
ＣＨ－５　出土の土器

図版　62



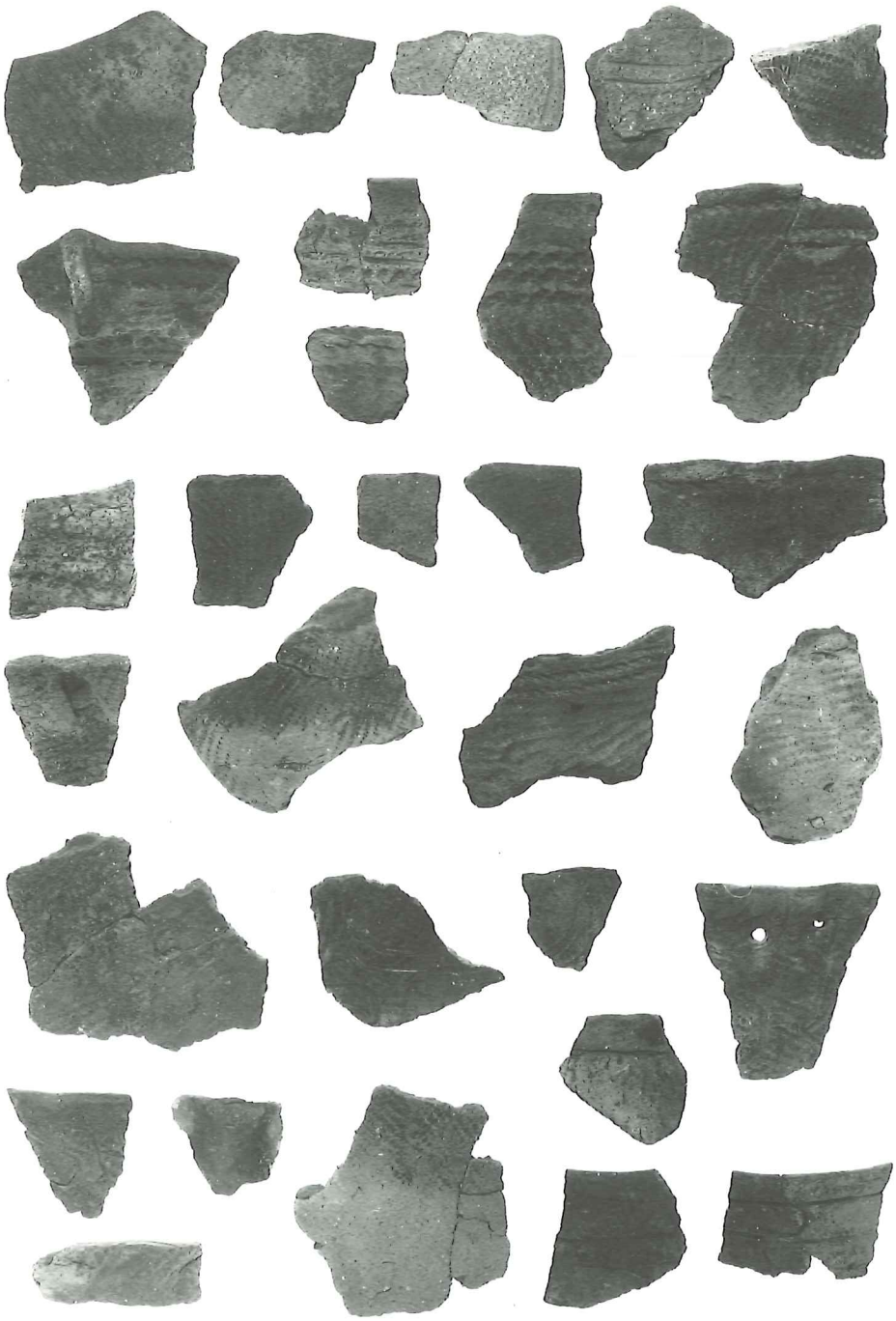
ＣＨ－５　出土の土器

図版　63



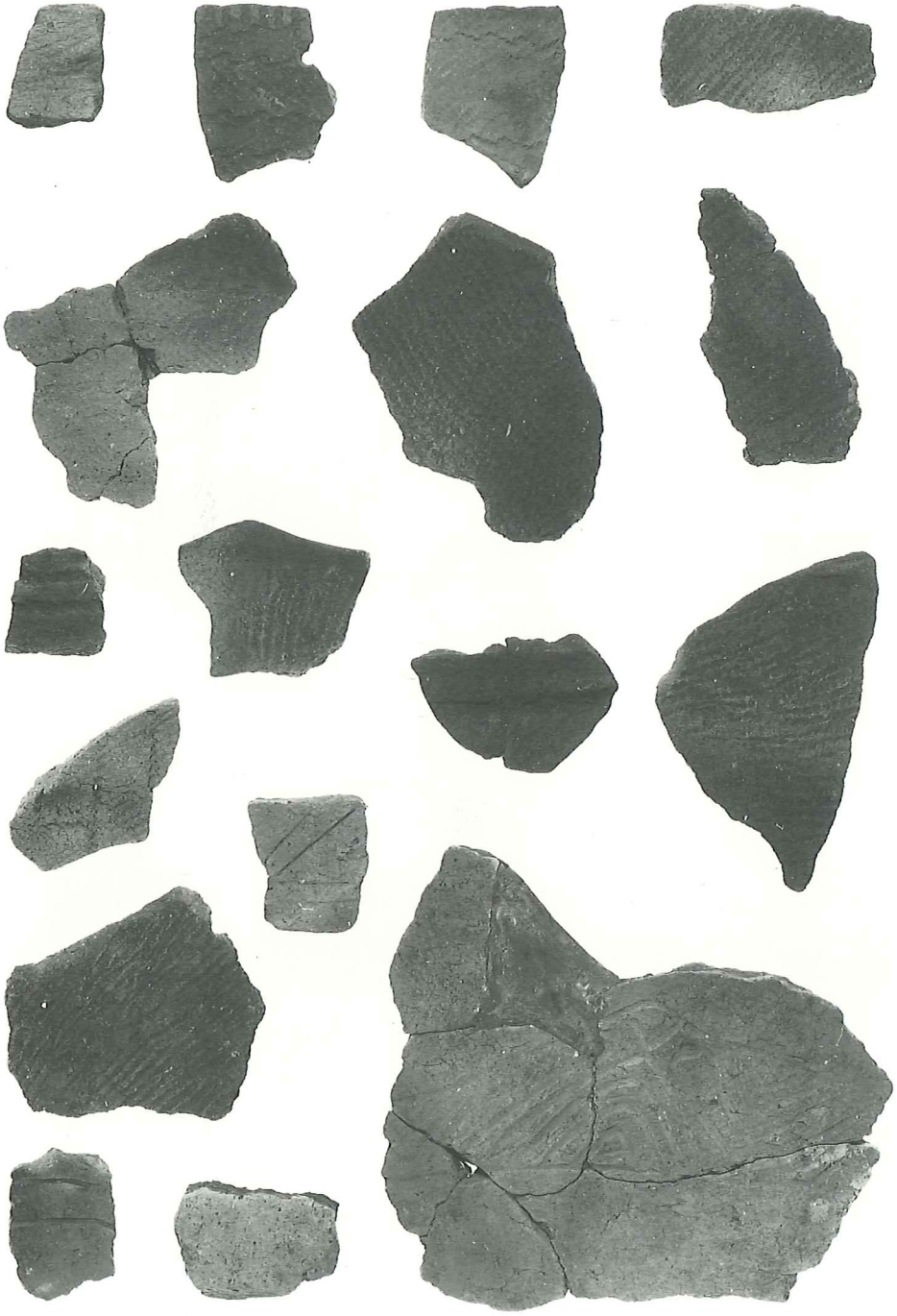
ＣＨ－６　出土の土器

図版　64



ＣＨ－６　出土の土器

図版　65

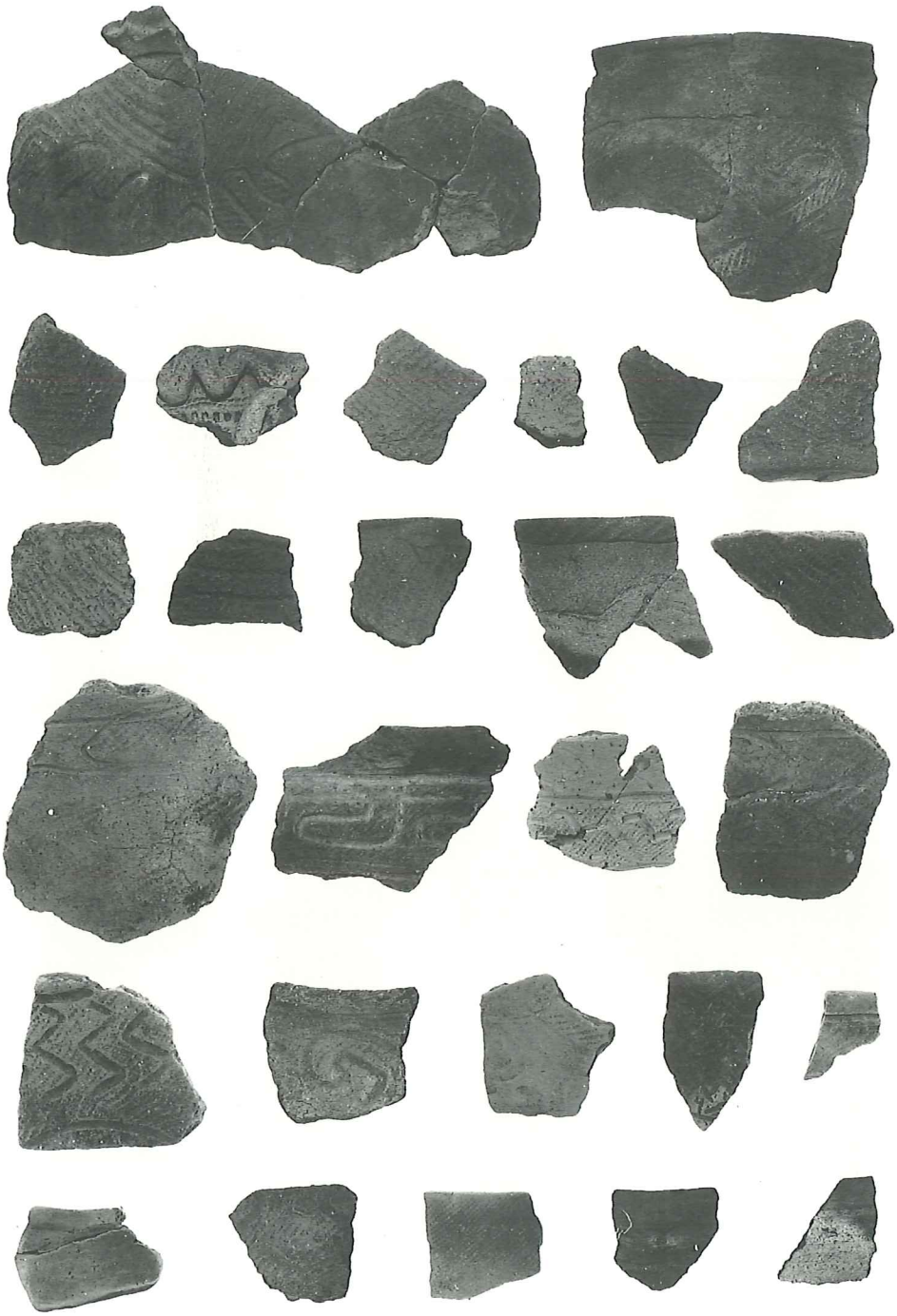


ＣＨ－７　出土の土器

図版　66

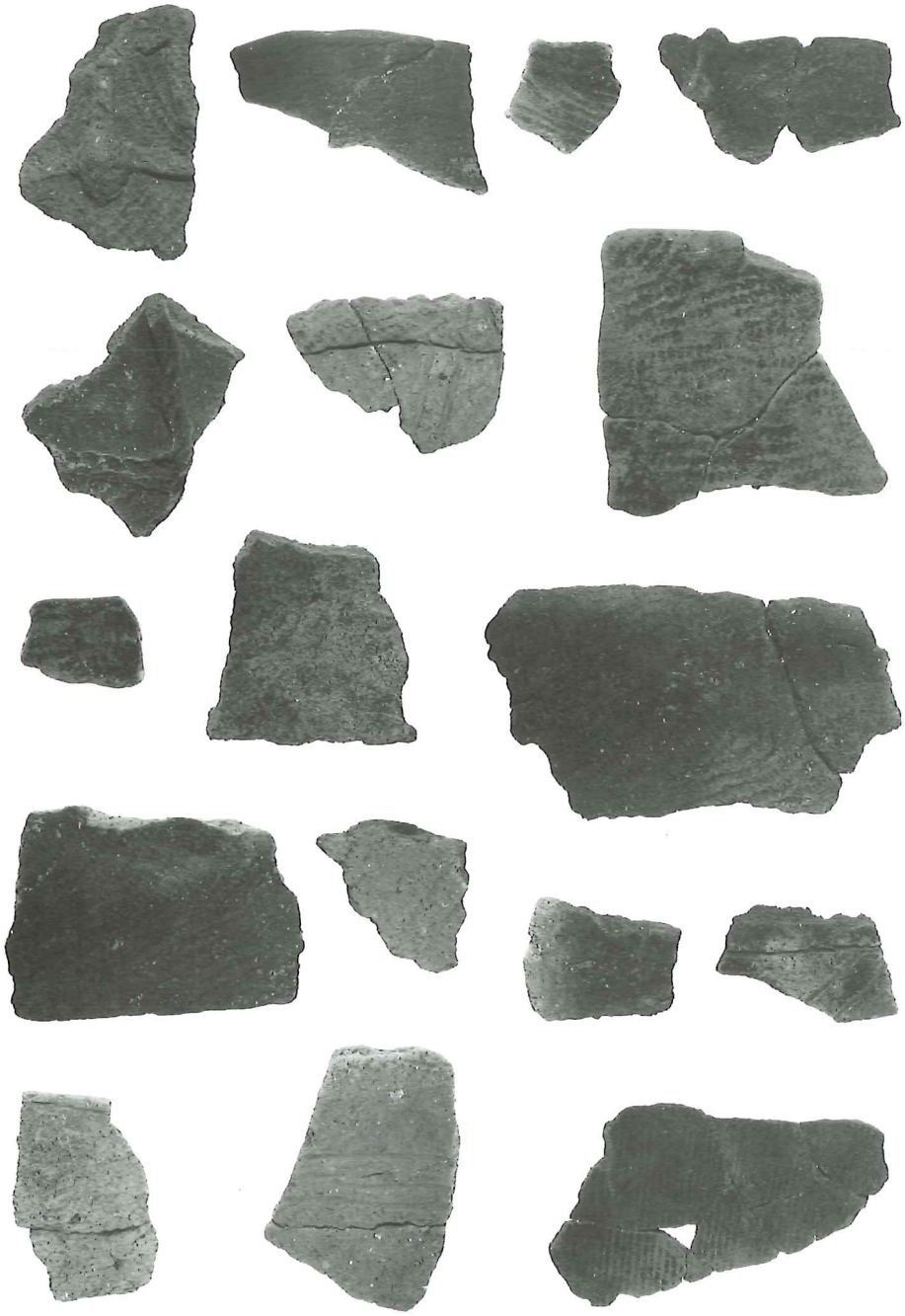
ＣＨ－８　出土の土器

図版　67



ＣＨ－10　出土の土器

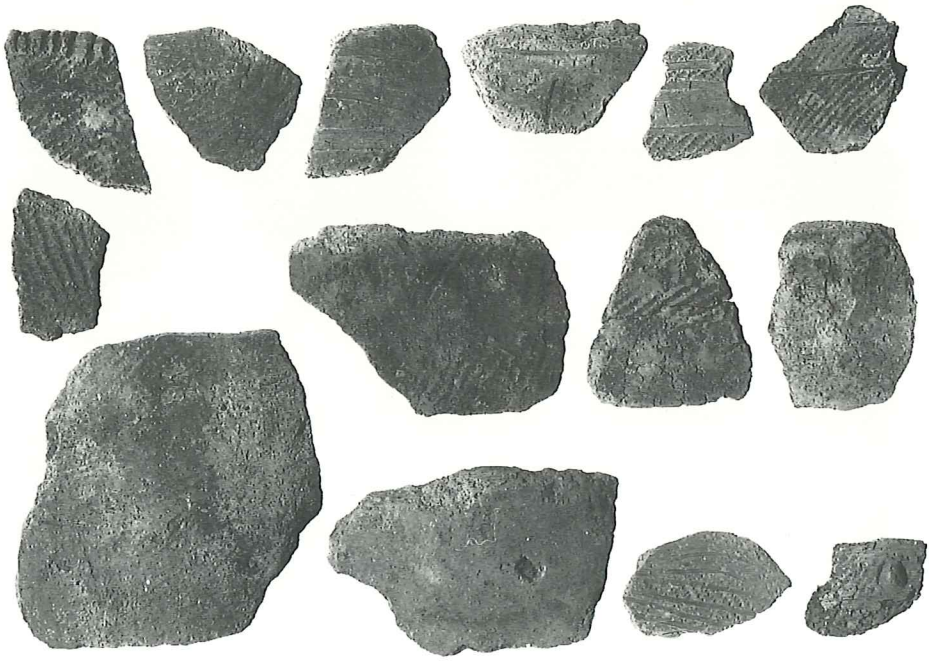
図版　68



ＣＨ－11　出土の土器

図版　69

ＣＨ－12・13　出土の土器

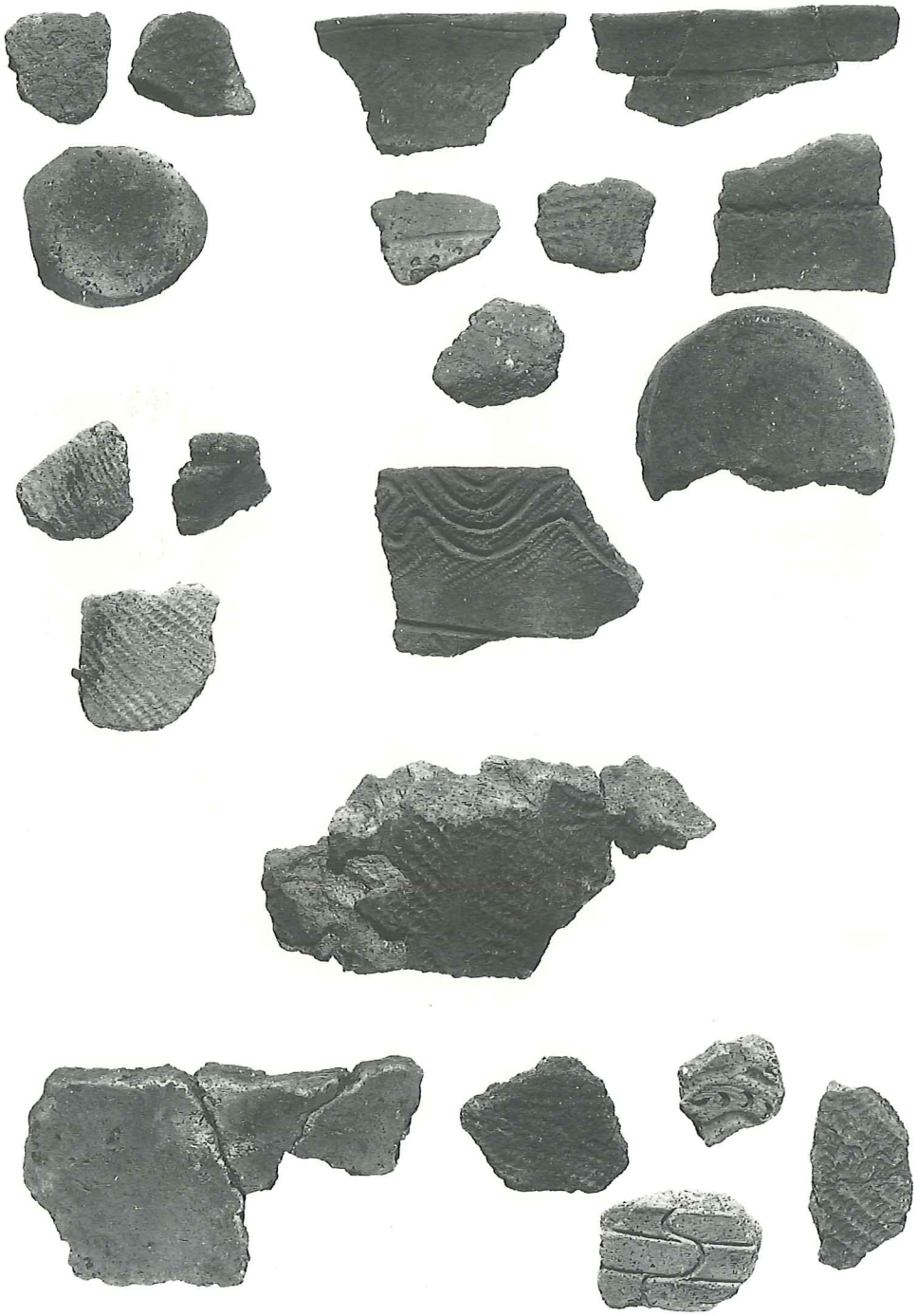


ＣＴＰ－１　出土の土器

図版　70

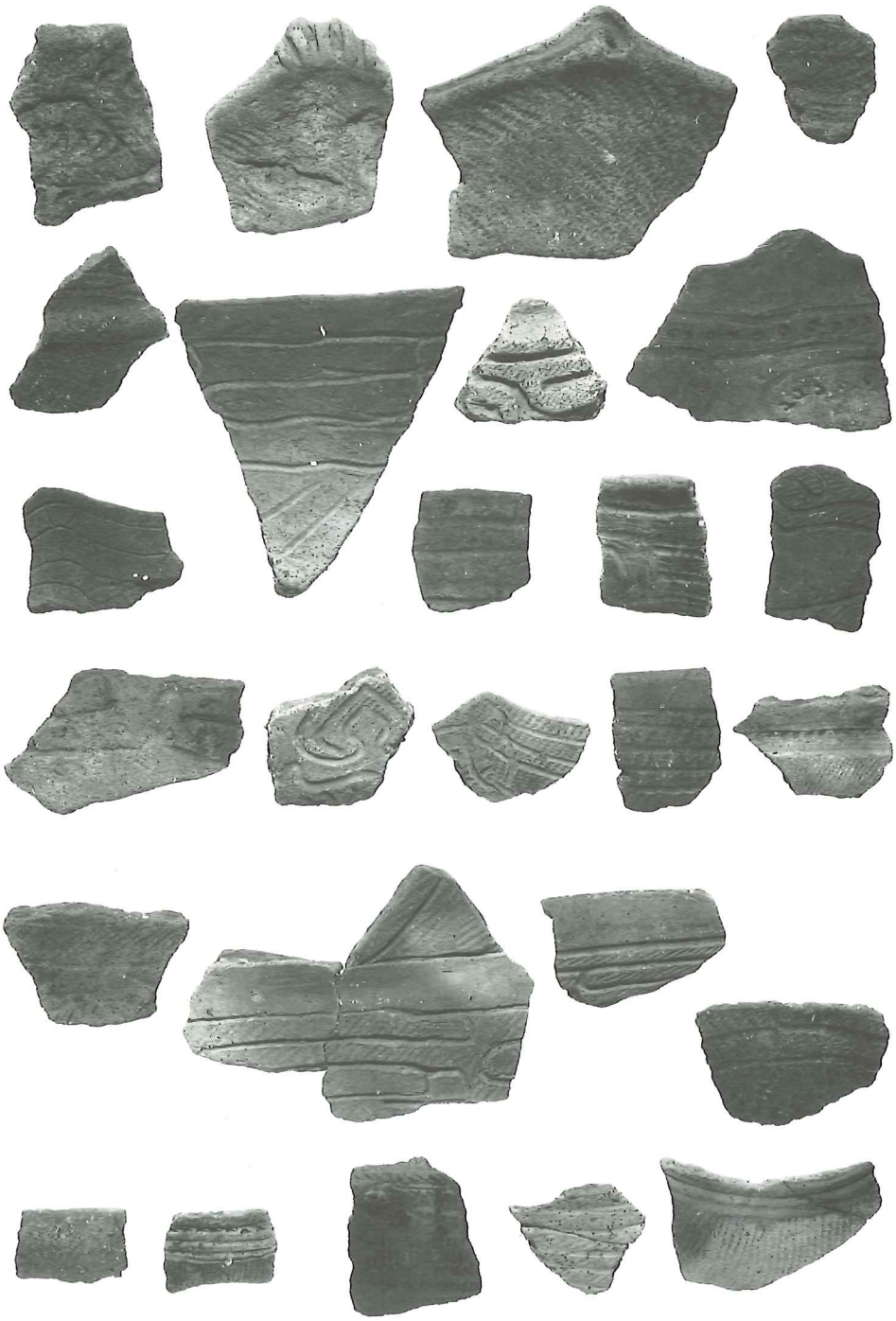
ＣＰ－４・５・７・８・10・11　出土の土器

図版　71



ＣＰ－12・13・14・15・16・17　出土の土器

図版　72



土器集中Ⅱ　Ｊ－62・63Ⅰ層出土の土器（上４列Ｊ－62、下２列Ｊ－63）

図版　73

土器集中Ⅱ　Ｊ－62Ⅲ層出土の土器

図版　74

土器集中Ⅱ　Ｊ－62Ⅲ層出土の土器

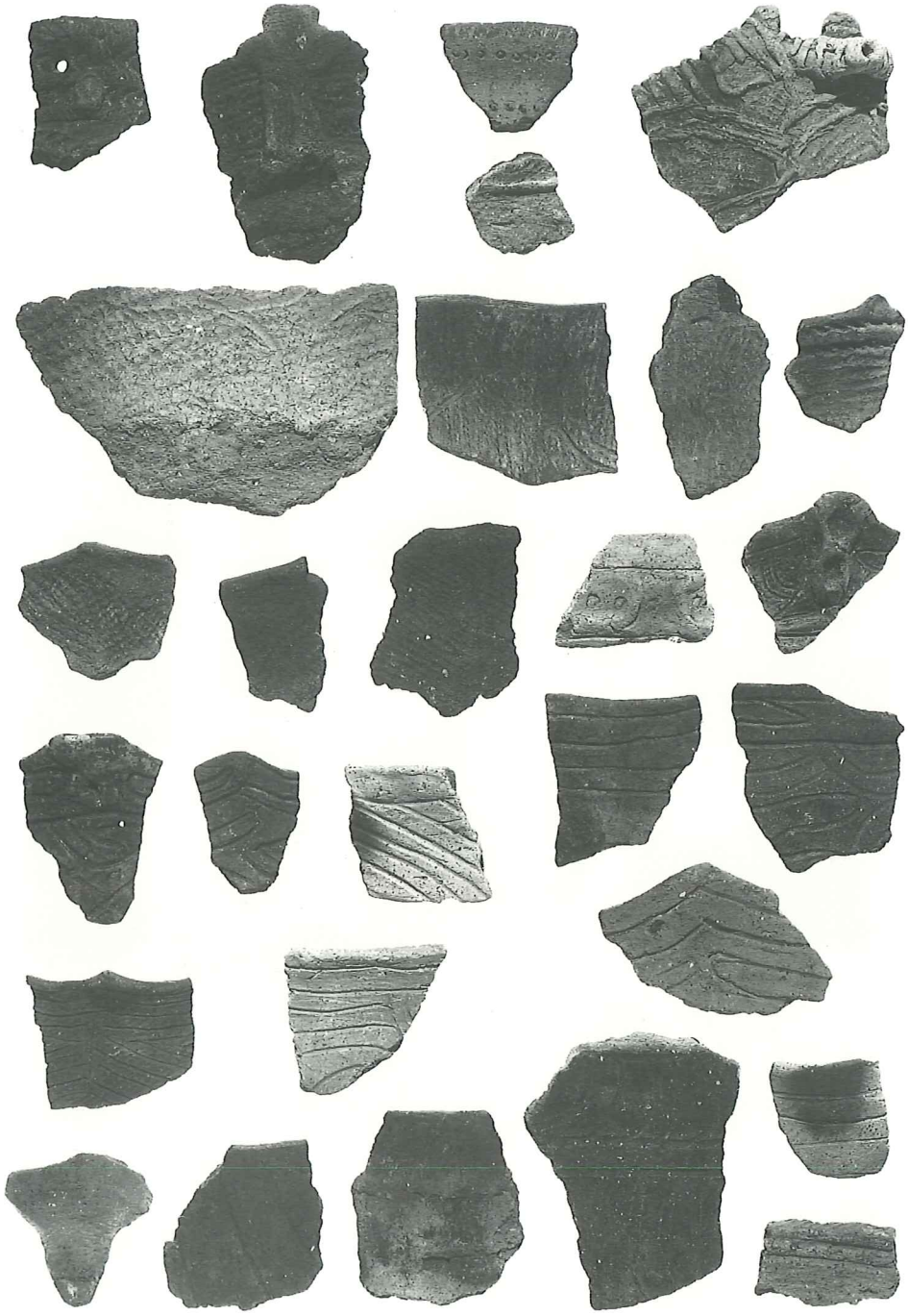
図版　75

土器集中Ⅱ　Ｊ－62Ⅲｃ層出土の土器

図版　76

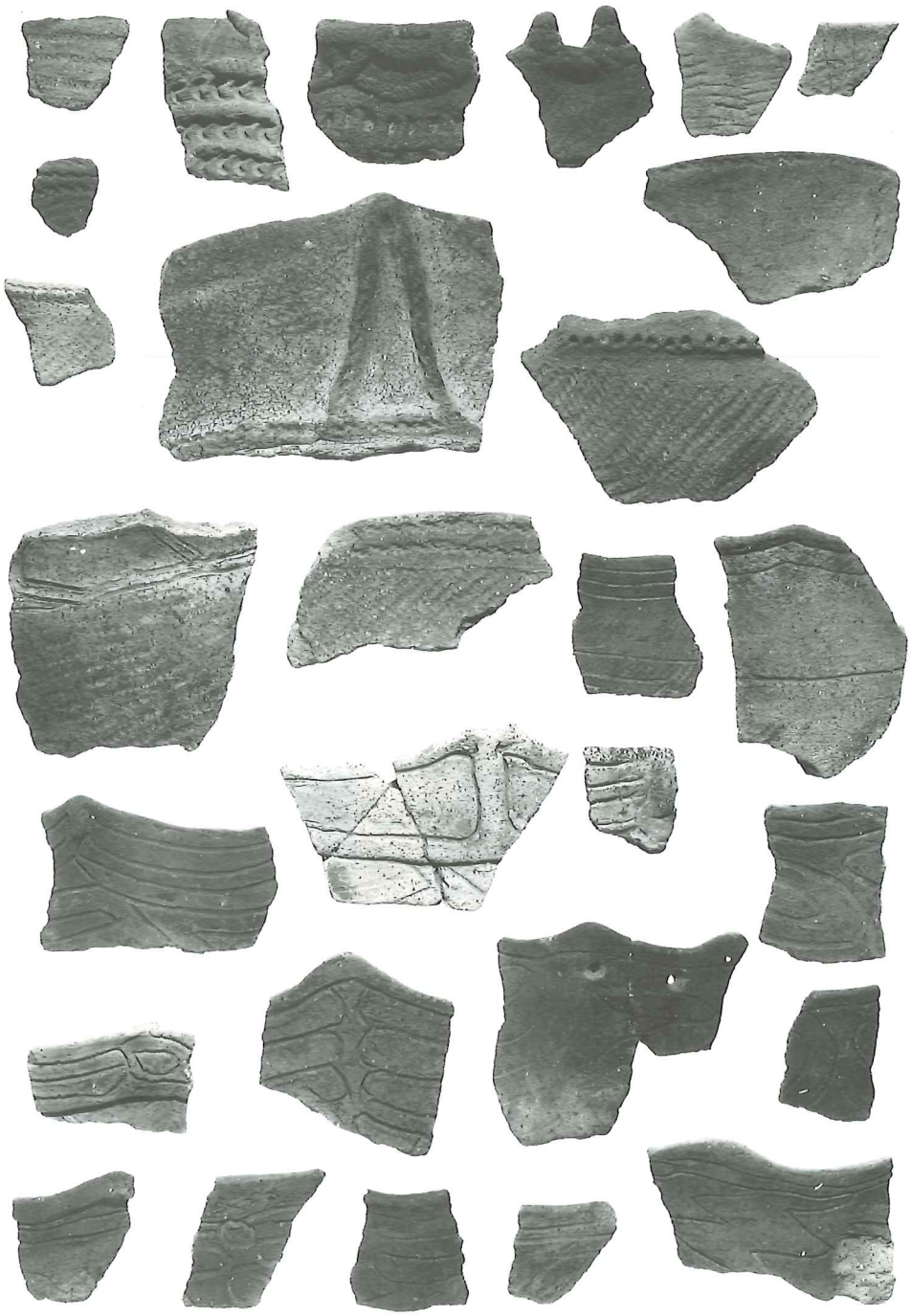
土器集中Ⅱ　Ｊ－62Ⅲｃ層出土の土器

図版　77



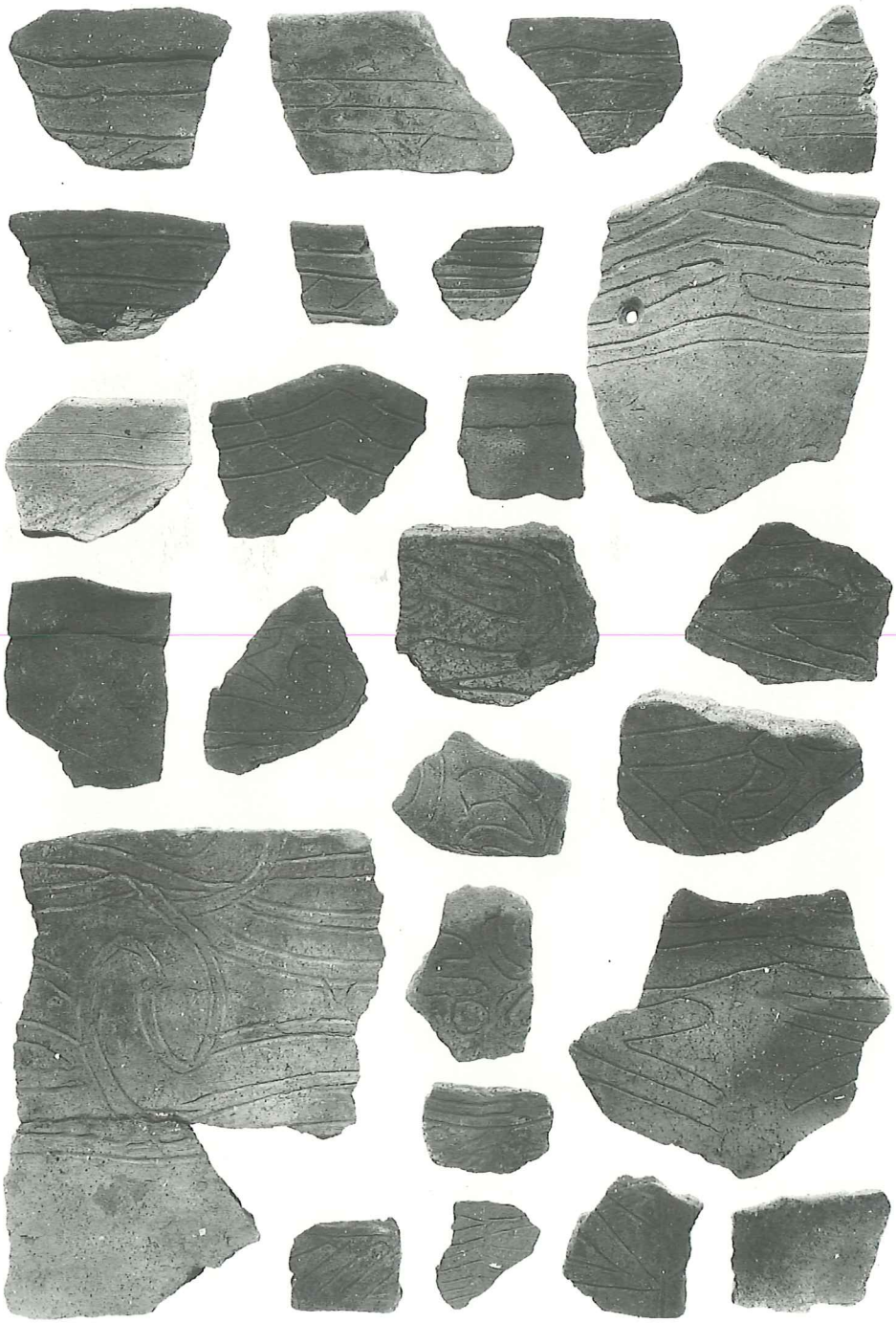
土器集中Ⅱ　Ｊ－62Ⅲｄ層出土の土器

図版　78



土器集中Ⅱ　Ｊ－63Ⅲ層出土の土器

図版　79

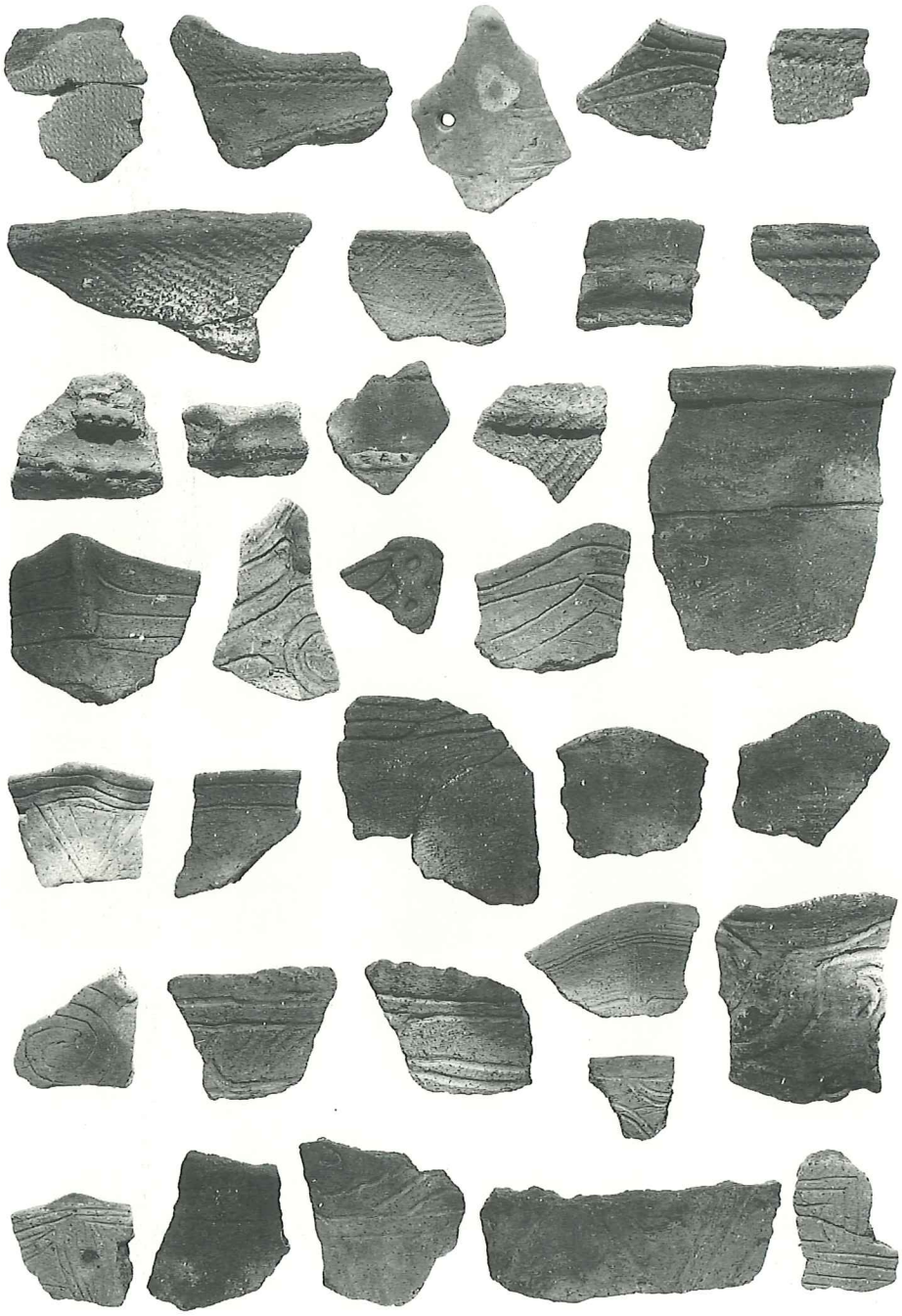


土器集中Ⅱ　Ｊ－63Ⅲ層出土の土器

図版　80

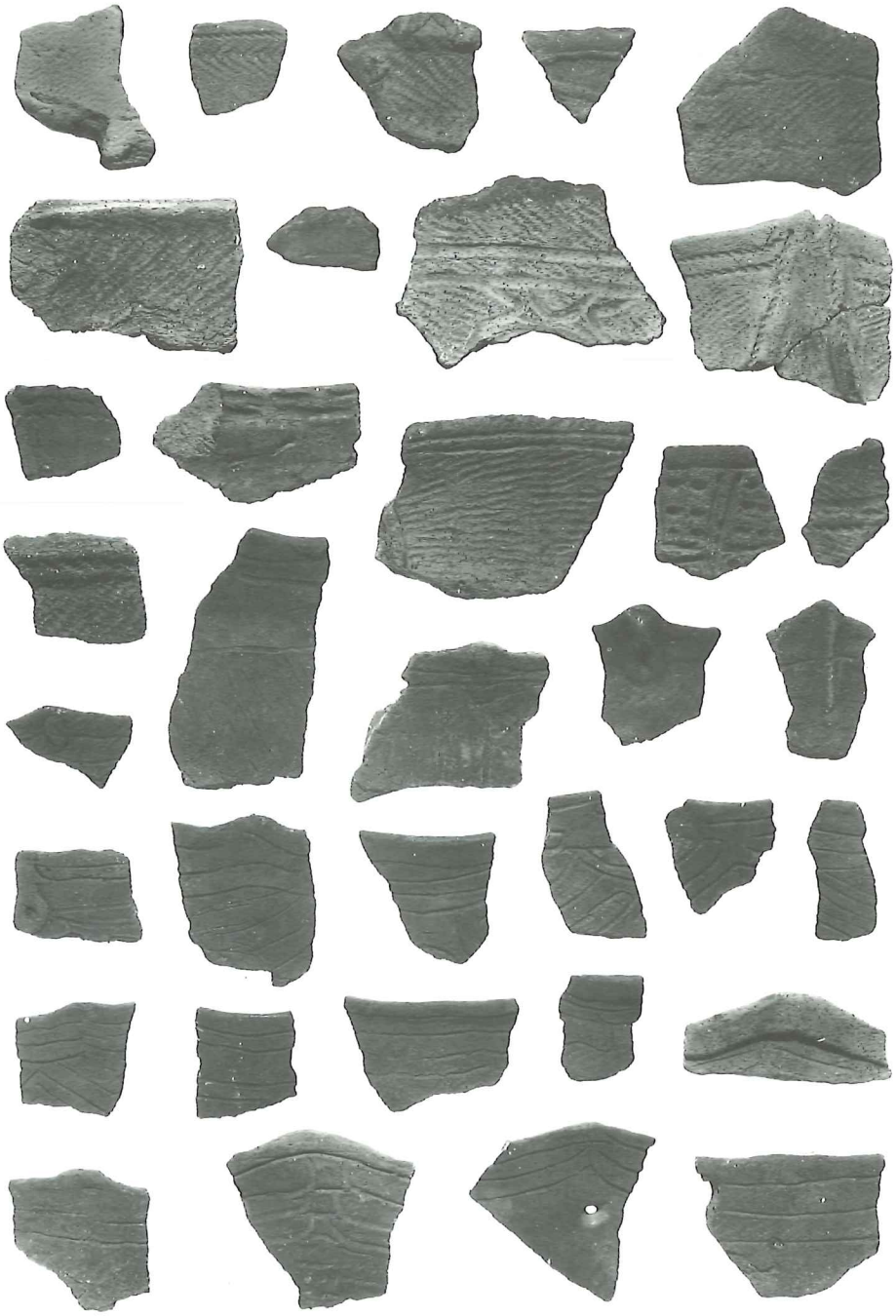
土器集中Ⅱ　Ｊ－63Ⅲ層出土の土器

図版　81



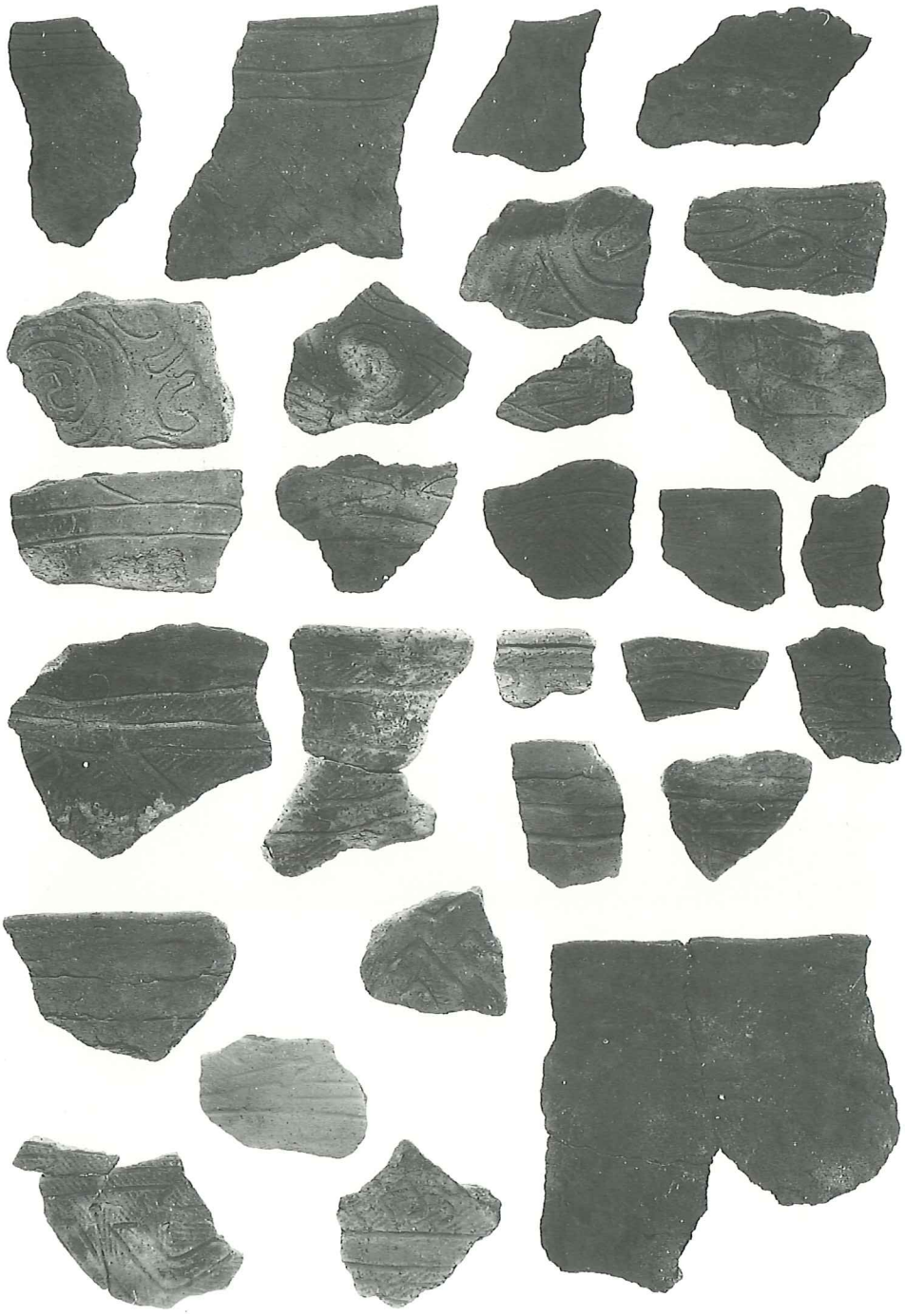
土器集中Ⅱ　Ｊ－63Ⅲｃ層出土の土器

図版　82



土器集中Ⅱ　Ｊ－63Ⅲｄ層出土の土器

図版　83

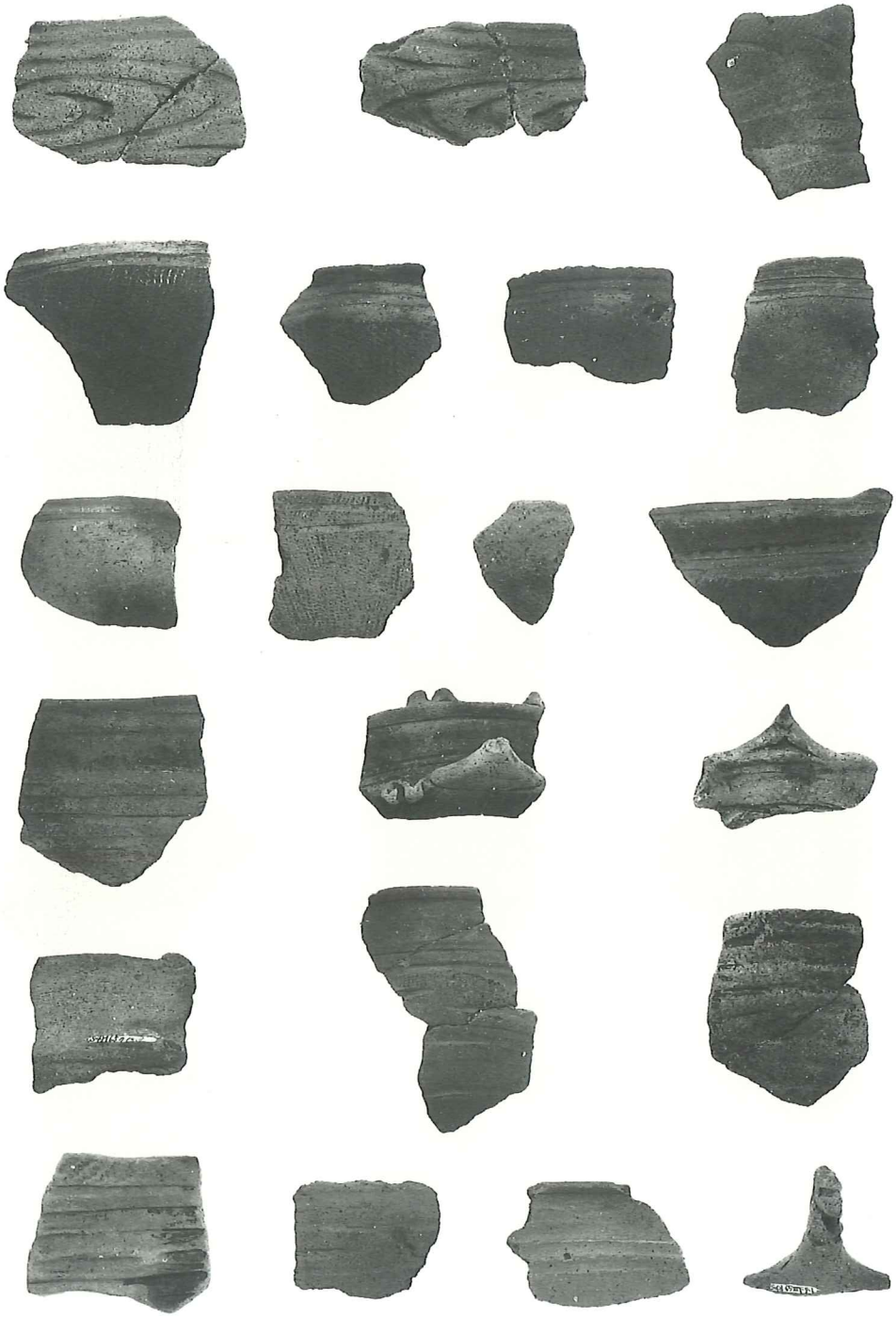


土器集中Ⅱ　Ｊ－63Ⅲｄ層出土の土器

図版　84

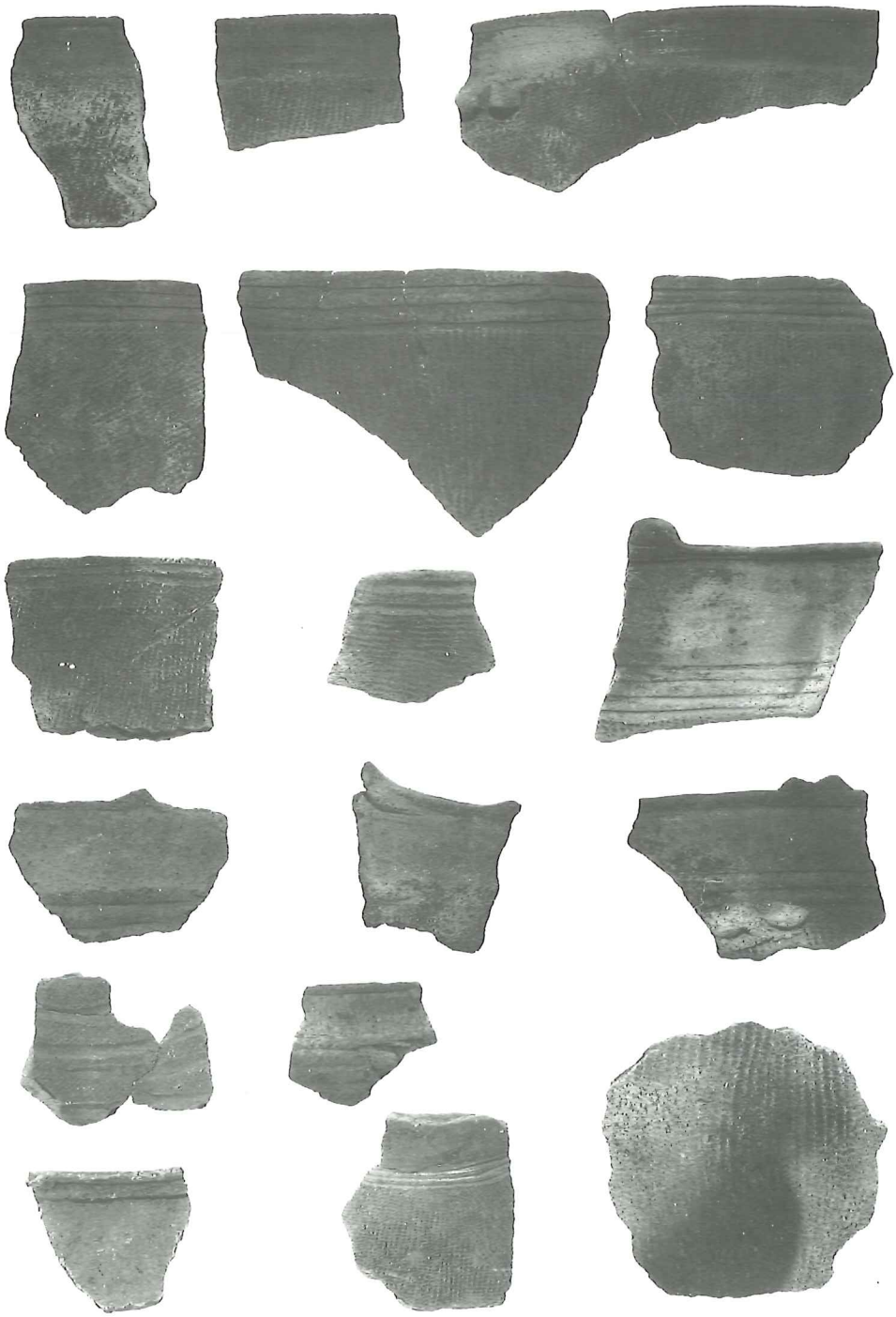
土器集中Ⅱ　Ｊ－63Ⅲ・Ⅲｃ層出土の土器

図版　85



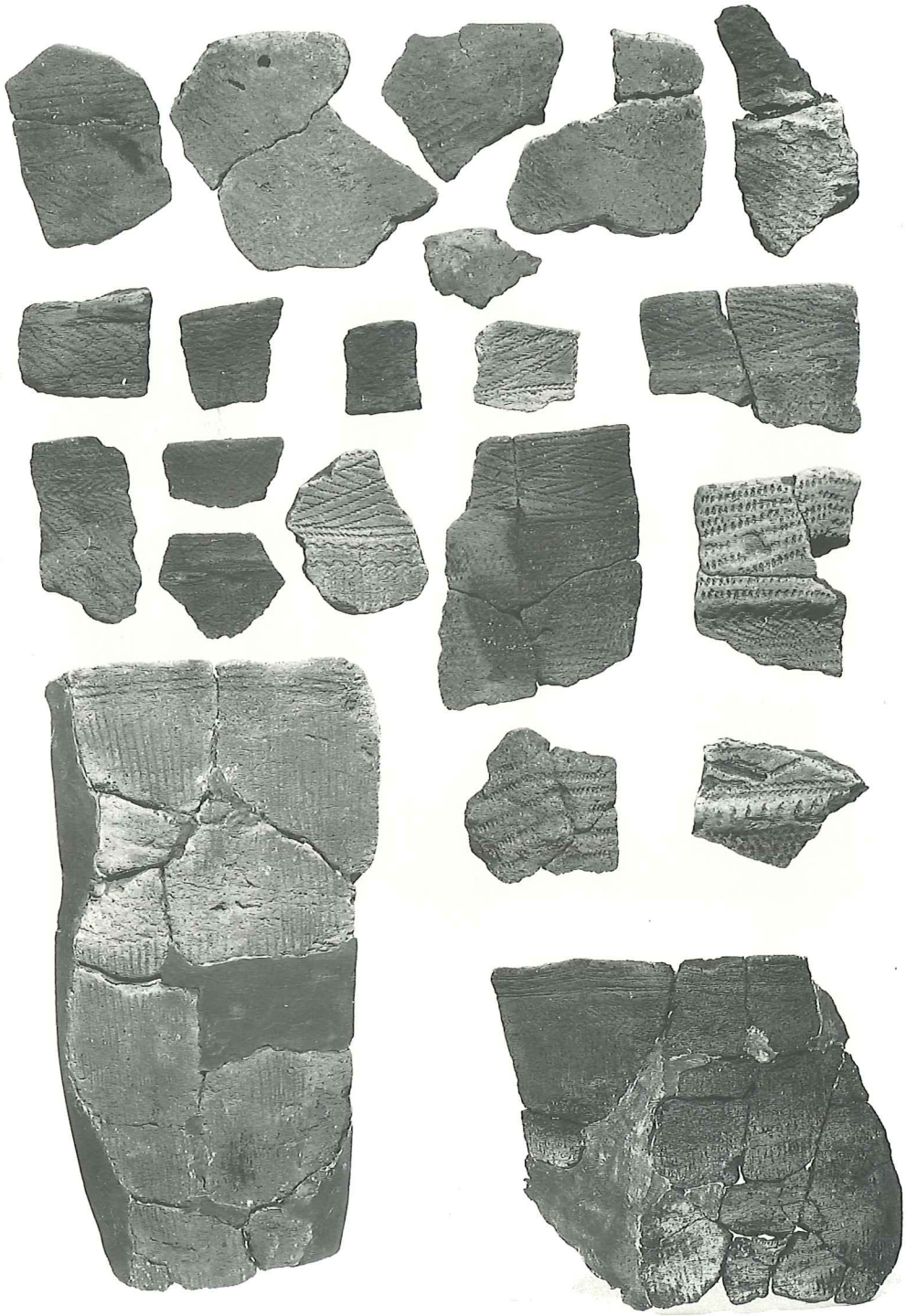
土器集中Ⅲ（浅鉢）.

図版　86



土器集中Ⅲ（深鉢・壺形）

図版　87



Ⅰ・Ⅱ群土器　包含層出土の土器

図版　88

Ⅲ群Ａ類　包含層出土の土器

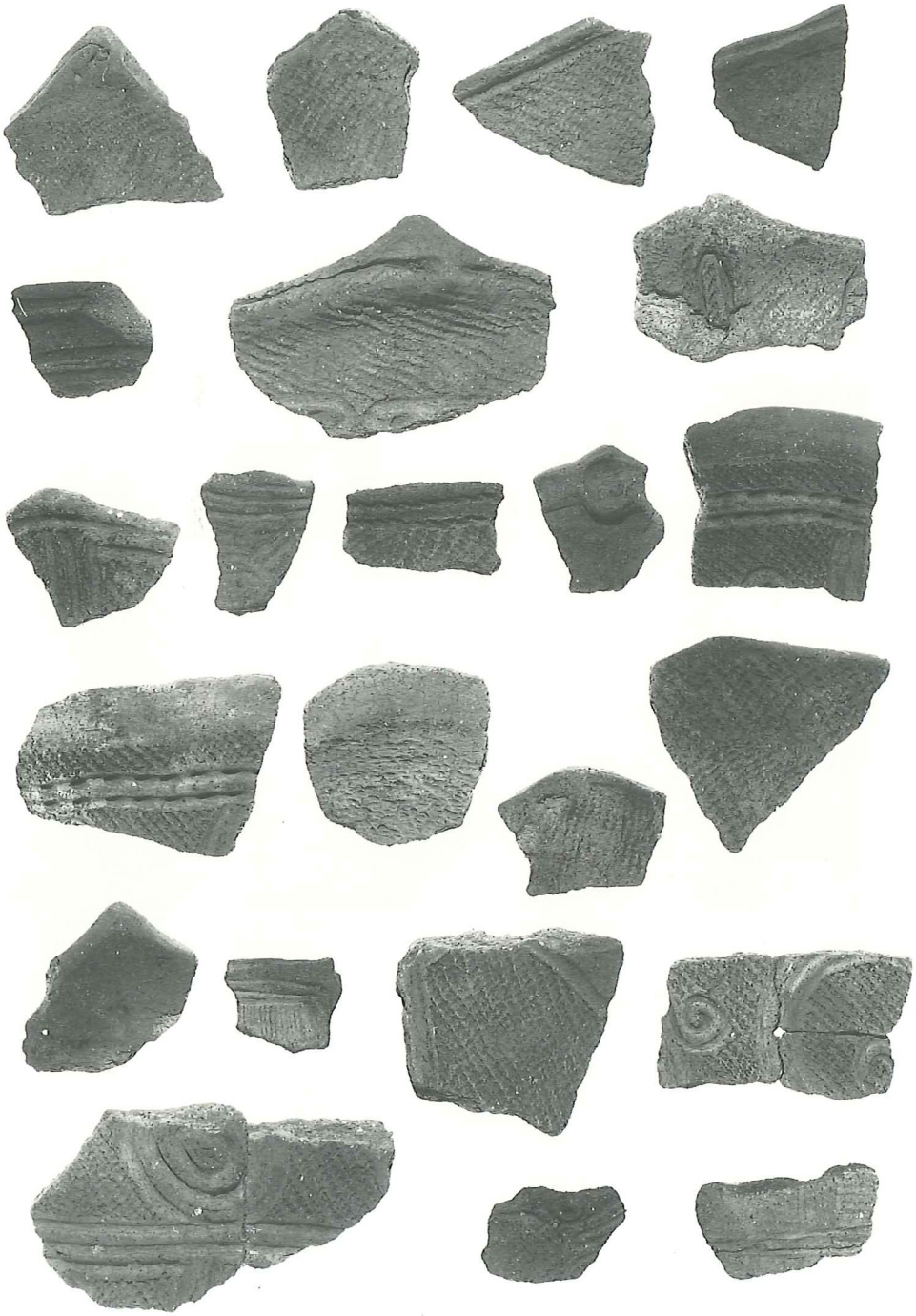
図版　89

Ⅲ群Ａ類　包含層出土の土器

図版　90

Ⅲ群Ａ類・大木８ａ式土器　包含層出土の土器

図版　91

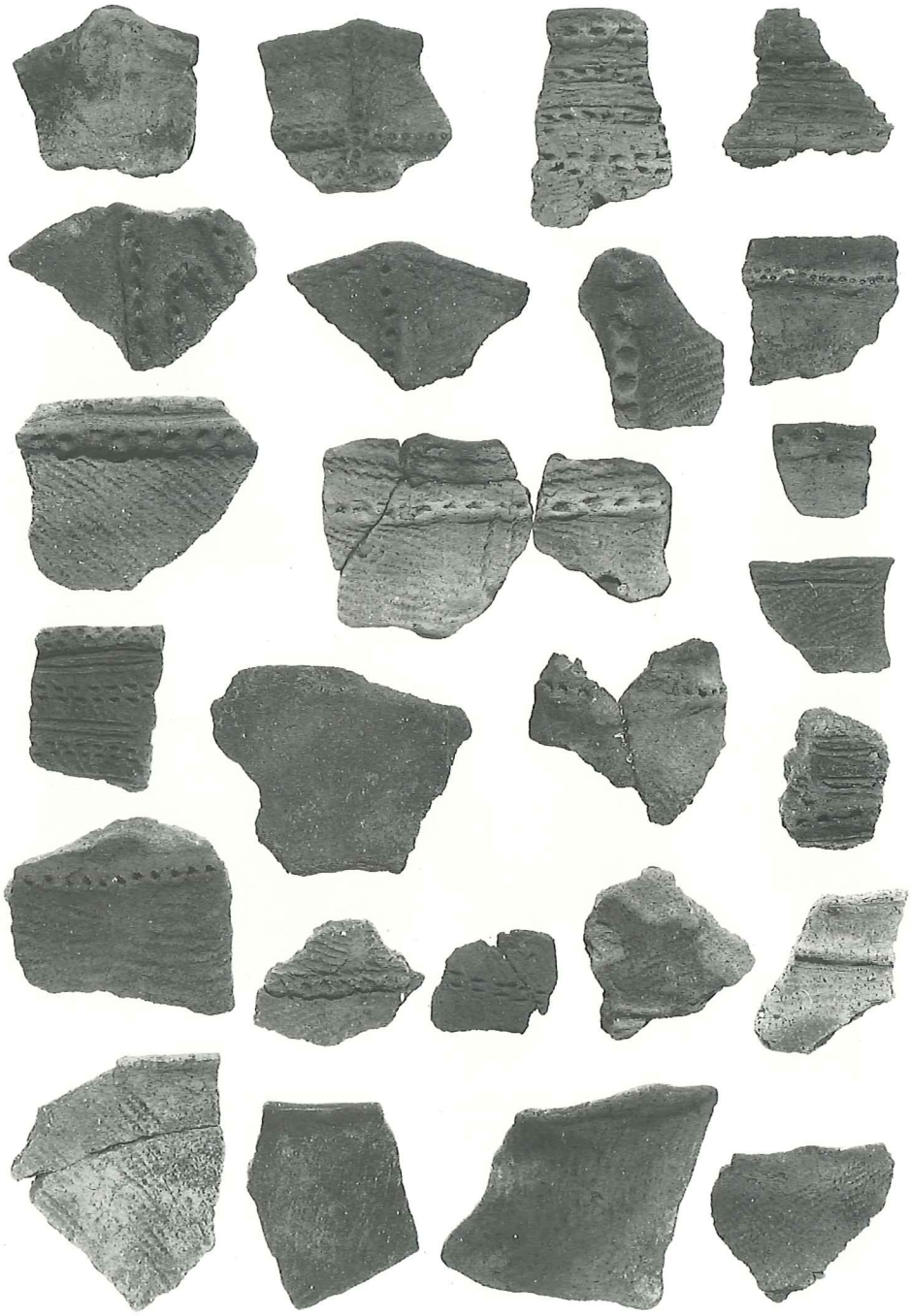


Ⅲ群 B_1 類　包含層出土の土器

図版　92

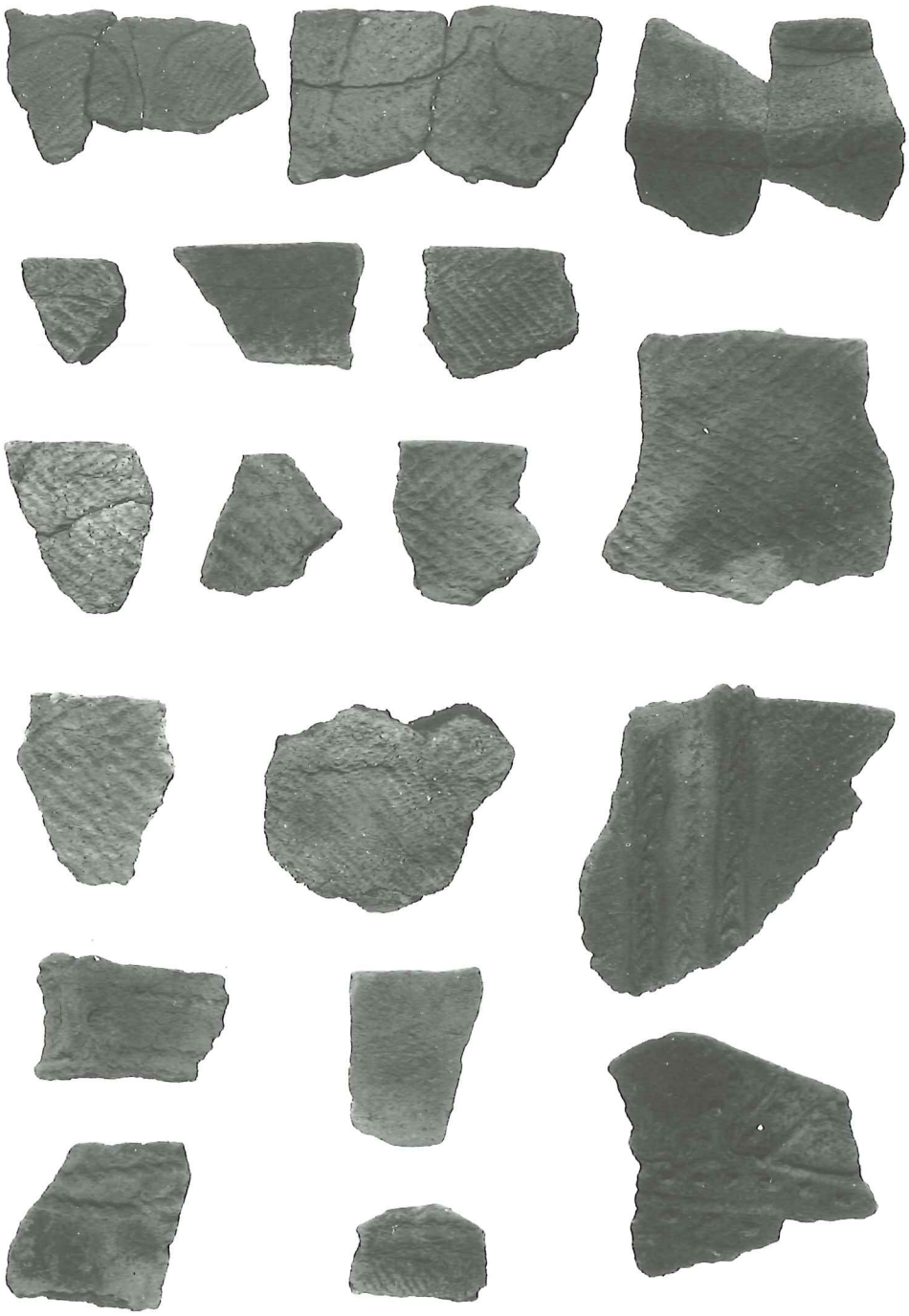
Ⅲ群Ｂ$_2$類　包含層出土の土器

図版　93



Ⅲ群Ｂ$_2$類　包含層出土の土器

図版　94



Ⅳ群Ａ$_1$類　包含層出土の土器

図版　95

Ⅳ群Ａ$_2$類　包含層出土の土器

図版　96

Ⅳ群Ａ$_2$類　包含層出土の土器

図版　97

Ⅳ群Ａ$_2$類　包含層出土の土器

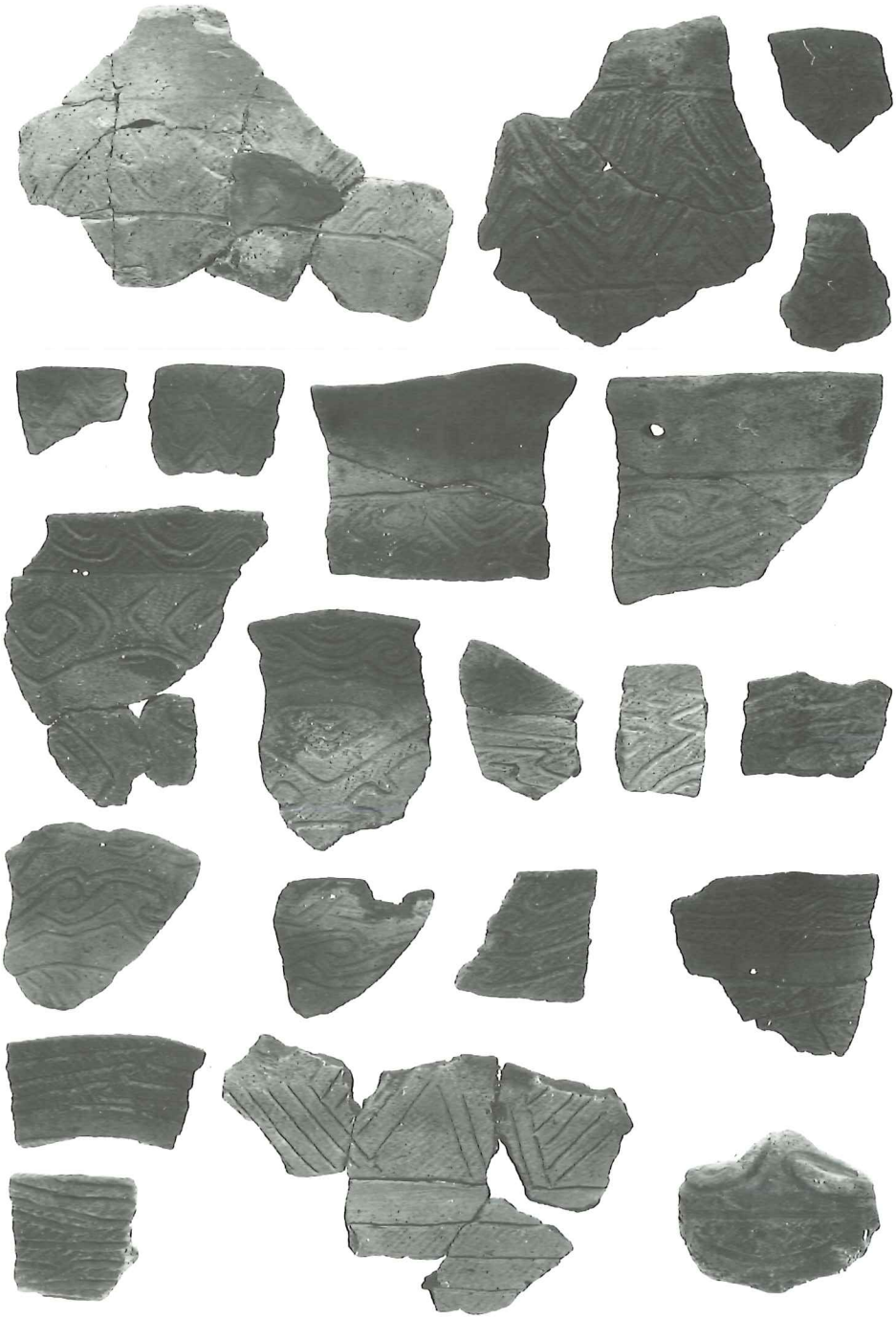
図版　98

Ⅳ群Ａ$_2$類　包含層出土の土器

図版　99

Ⅳ群Ａ$_2$類　包含層出土の土器

図版　100



Ⅳ群Ａ$_2$類、Ⅳ群Ｂ類、十腰内Ⅱ式　包含層出土の土器

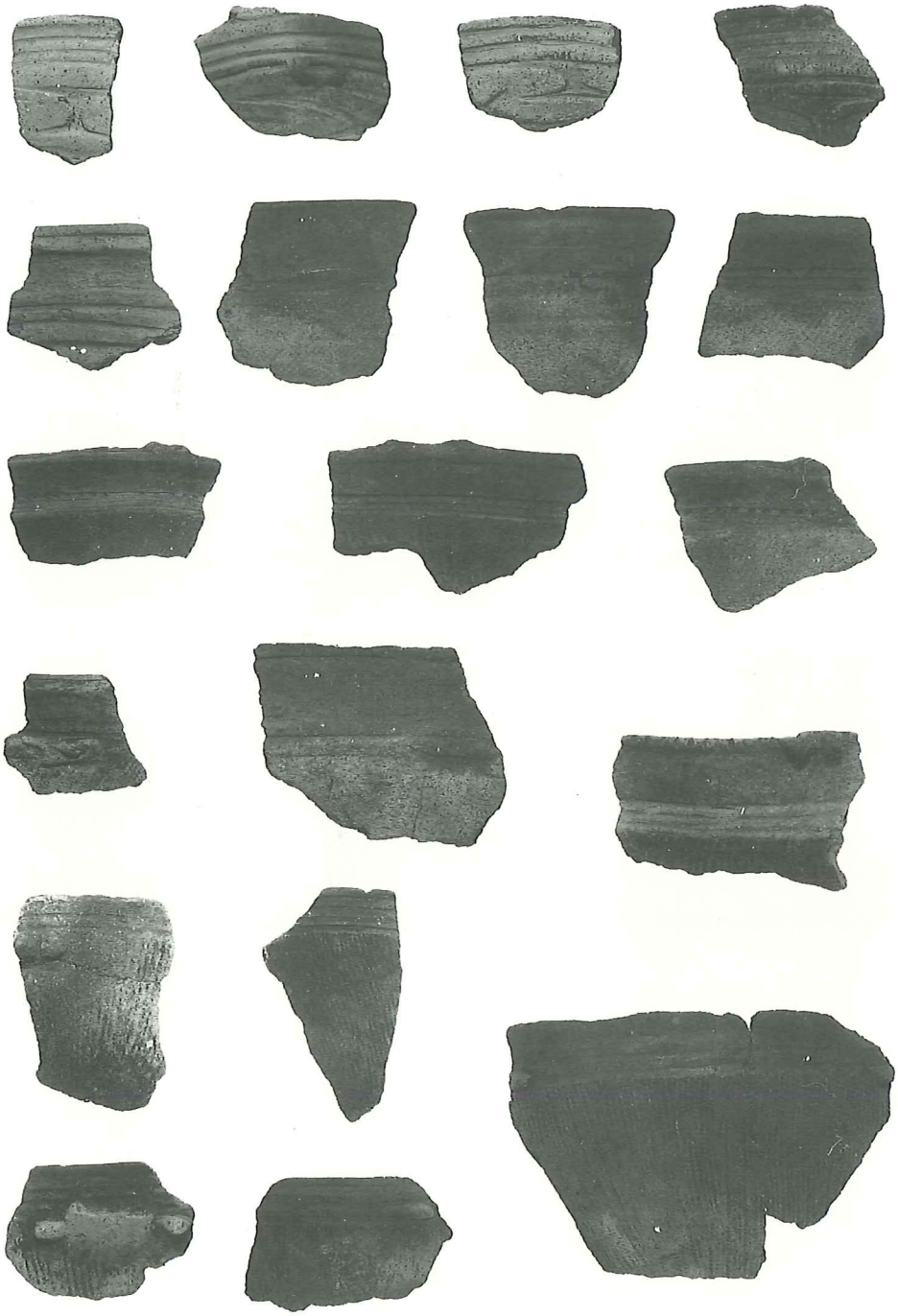
図版　101

Ⅳ群Ｂ類　包含層出土の土器

図版　102

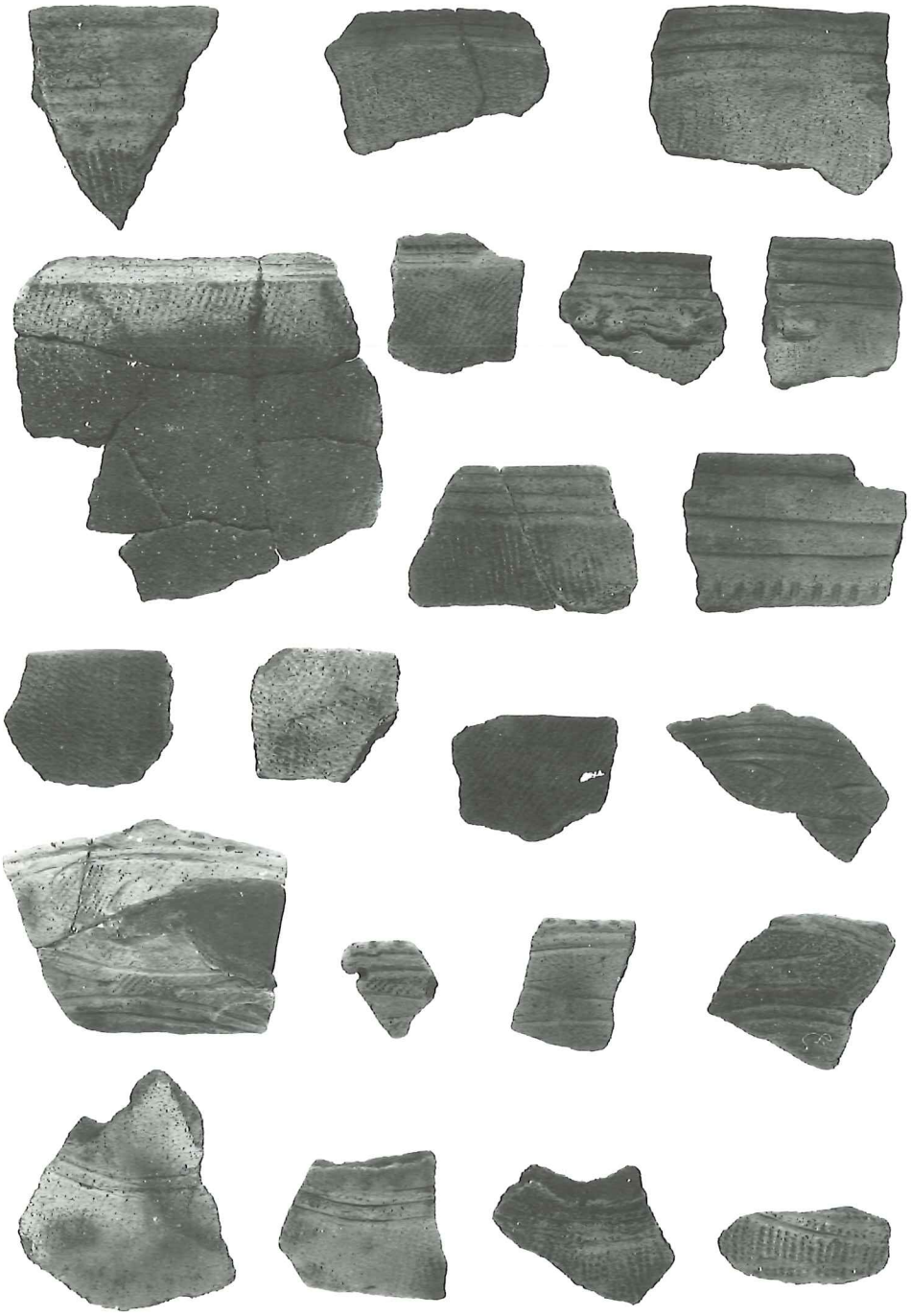
Ⅳ群Ｃ類　包含層出土の土器

図版　103



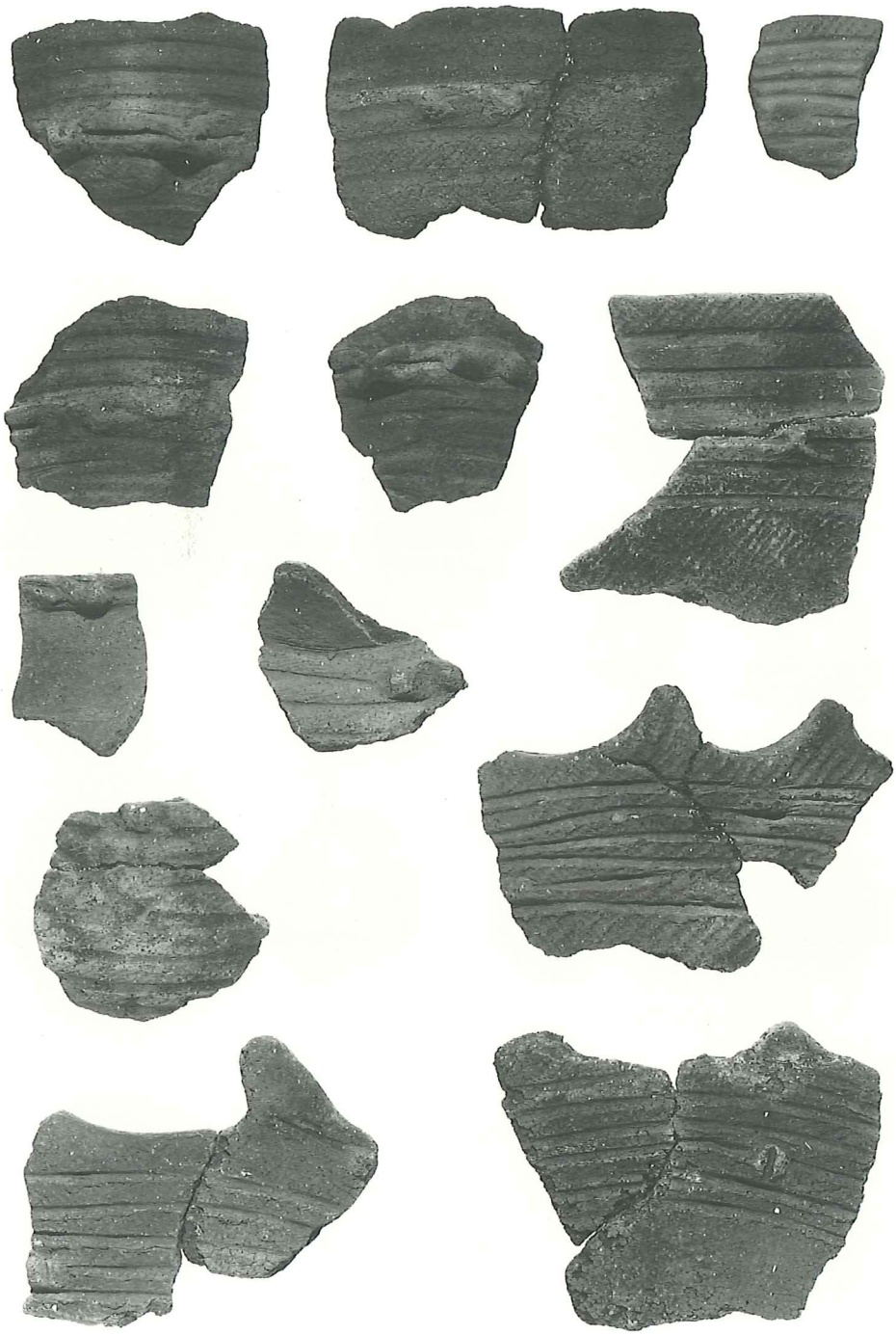
Ⅴ群Ｂ類　（浅鉢）　包含層出土の土器

図版　104



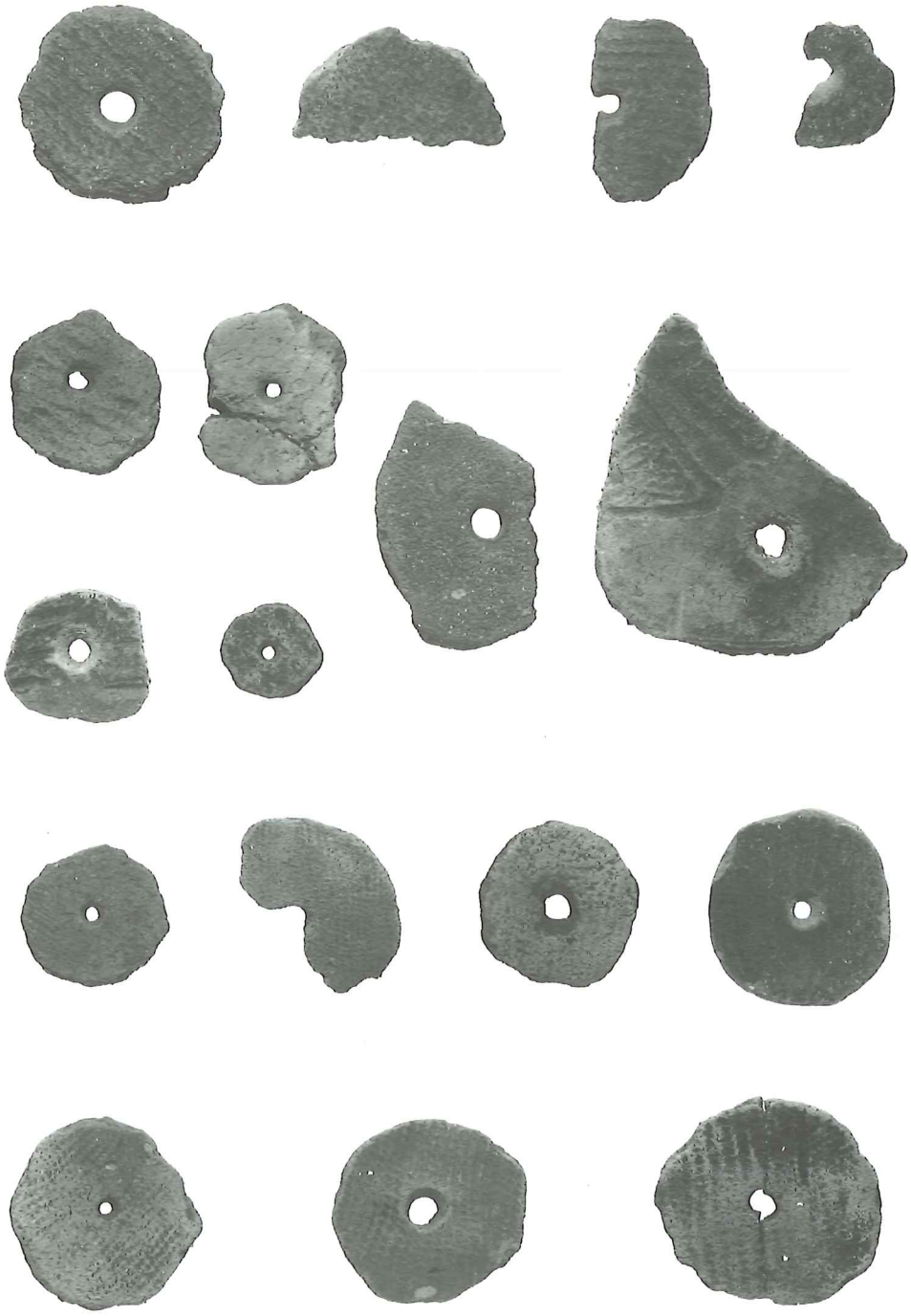
Ⅴ群Ｂ類　（深鉢・壺形）　包含層出土の土器

図版　105



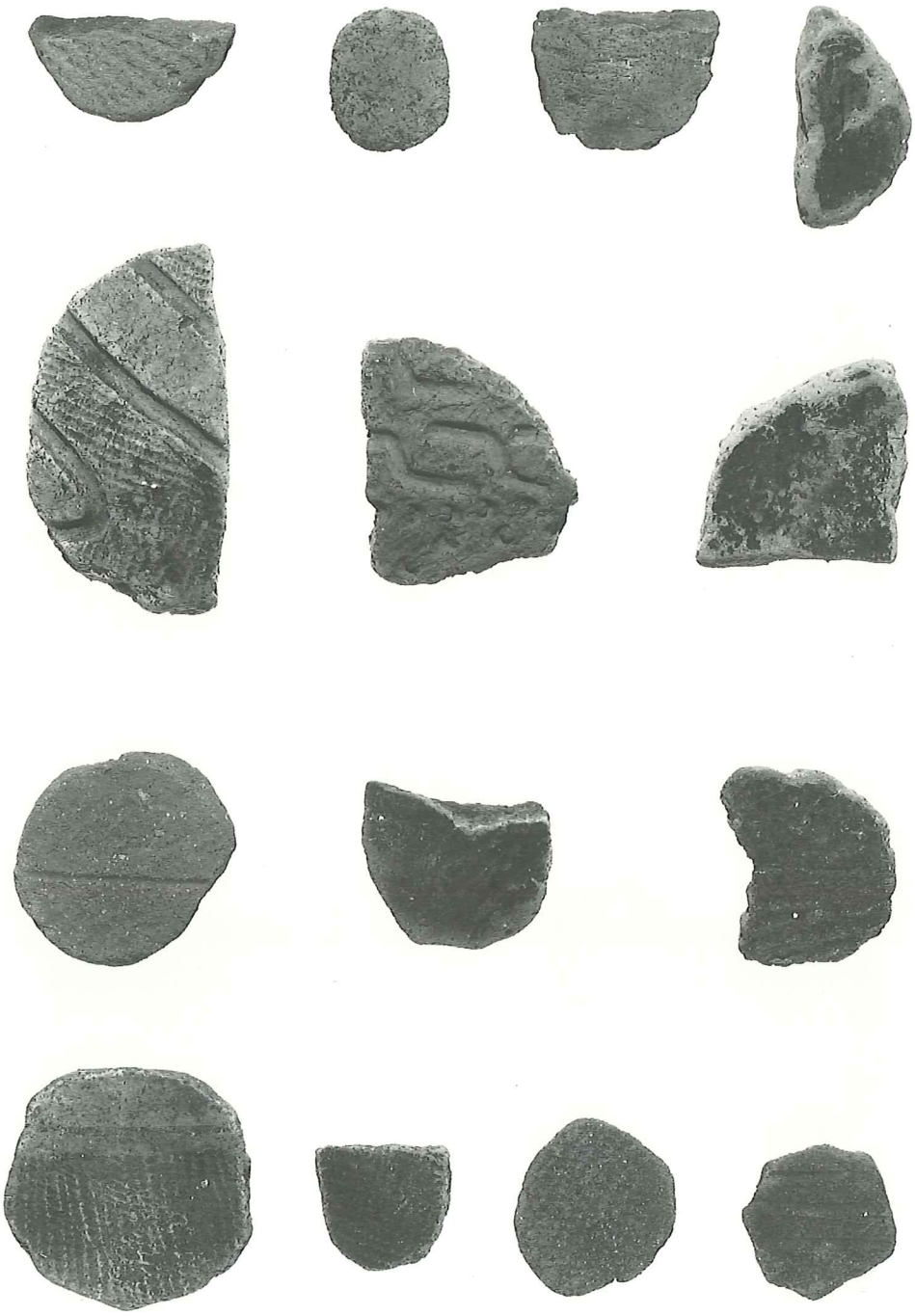
Ⅴ群Ｃ類　包含層出土の土器

図版　106



有孔土製円盤

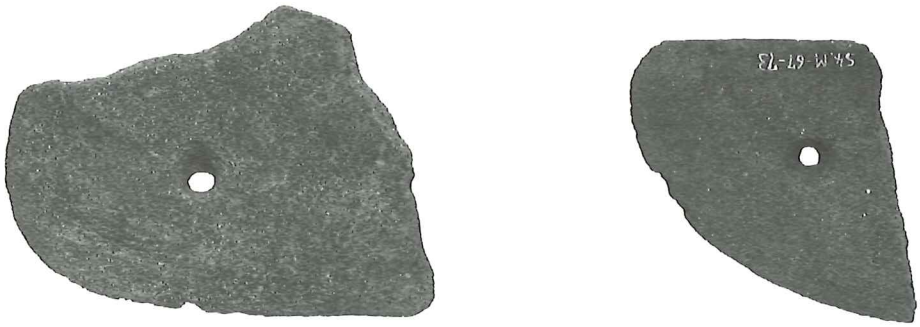
図版　107



土製円盤

図版　108

包含層出土のアスファルト塊（ＣＦ－14周辺）（28.3ｇ実物の79％大）



石鋸（左：ＣＨ－７覆土・右：Ｍ－67Ⅲ層）